

創意、又ハ命令ニ本キテ成立セルモノニ非ラスシテ、只タ社會進步ノ結果トシテ、自然ニ發生セシ產物ナリ。換言セハ國民ノ組成分子カ何人ノ命令ニモ本カスシテ、任意ニ自然ニ經濟團體トナリ、國民ノ全體ニ通スル經濟ヲ營ムニ至レルナリ。サレハ、國民經濟上ノ計畫ヲ定ムルモノハ、數千年ノ歴史ト永久ノ生命トヲ有スヘキ國民ノ組成分子タル各經濟單位及ヒ各經濟團體ニ在リト云フヘキナリ。

シカラハ、次イテ問フ、國家ト國民經濟トノ關係如何。吾人ハ國民經濟上ノ計畫ヲ以テ何人ノ創意又ハ命令ニ本クモノニ非ラスト爲シタリ、シカレトモ國家ハ現ニ之ニ對シテ指導強制ヲ爲シツ、アル如ク思ハル、ハ果シテ之ヲ如何ニカ説明スヘキ。答ヘテ曰ク、國家ハ多數ノ自然人ヨリ成レル一個ノ人格者ニシテ、之ヲ經濟上ヨリシテ觀察センカ、一個獨立ノ經濟主體タリ。其ノ經濟ハ所謂特殊經濟ノ一種ニシテ、カノ國民經濟ヲ組成セル各種無數ノ特殊經濟中ノ一員タリ。彼ハ此ノ資格ニ於イテ、經濟上ノ慾望ヲ有シ、而シテ其ノ慾望ヲ達センカ爲メニ或ハ公債ヲ募集シ或ハ企業ヲ營ミ(コレ皆ナ其ノ經濟行為ナリ)之ニヨリテ其ノ歳入ヲ獲得ス。コノ點ニ於イテハ、只タ其ノ經濟ノ規

模大ナリト云フノミニシテ、大會社ノ經濟ト別ニ重大ナル差異ヲ見出シ得サレナリ。シカレトモ、茲ニ看過スヘカラサルコトハ、之ヲ法律上ヨリシテ觀察センカ、國家ハ統治權ノ主體タルコトナリ。既ニ統治權ノ主體タリ、是カ故ニ若シ其ノ必要ヲ認メンカ、國家ハ其ノ意思ヲ以テ自己意外ニ於ケル經濟主體ノ意思ヲ制限束縛シ、以テ自己ノ經濟ヲ支持スル所以ヲ講スルノミナラス(例ヘハ租税ノ徵收ノ如キコレ、但シ此ノ點ハ今、茲ニ關係アル問題ニハ非ラス)國民經濟上ニ於ケル計畫秩序ヲ支配シ左右スルコトヲ得ルモノナリ。コレ、國家カ他ノ經濟主體ト大ニ趣ヲ異ニスル所以タリ。然レトモ、國民經濟ノ組成分子タル各經濟主體ヲシテ自由ノ活動ヲ爲サシムル事ハ多クノ場合ニ於イテ最モ能ク國民經濟ノ目的ヲ達シ得ルモノナルカ故ニ、國家ハ自己ノ經濟上ニ於ケル目的以外ニ於イテハ、原則トシテ各經濟主體ノ自由ナル活動ニ放任シ、敢テ之ヲ束縛シ掣肘スルコトナシ。乍併各個人ノ自由意思ニノミヨリテ國民ノ經濟的計畫ヲ左右セシムル時ハ、種々ノ弊害ヲ生スルノ恐アルカ故ニ、場合ニ依リテハ其ノ權力ヲ行使シテ個人ノ自由意思ヲ束縛スル場合モ少カラス。現ニ今日文明諸國ニ於イテ所謂經濟政策ナルモノ行ハル、ハ其ノ

原因茲ニ在リ。之ヲ要スルニ國家ハ國民經濟ノ全部ヲ左右スルモノニ非ラサルト同時ニ他ノ經濟主體ニ比較セハ最モ重大ナル關係ヲ國民經濟上ニ有スルモノナリ。固ヨリ學者ニヨリテハ經濟上ニ於ケル國家ノ干渉及ヒ施設ヲ全然排斥セントスルモノアリテ、カノ極端ナル個人主義者ノ如キハ國家ヲシテ國民經濟上他ノ經濟主體ト全ク同一ノ地位ニ立タシムルヲ以テ理想トスルモノ也。或ハカノ極端ナル社會主義者ノ如キハ國民經濟上ノ計畫タル凡テ國家ノ意思ニヨリテ決定セサルヘカラスト爲スモノニシテ、換言セハ國民經濟ヲシテ綜合經濟タルノ性質ヲ失ハシメ以テ特殊經濟ノ一種タル共同經濟タラシメントスル也。然レトモ此ノ如キハ凡テ單純ナル理想タルニ止マルモノニシテ、現實ノ國民ハ敢テ此ノ如キ方法ニヨリテ、經濟ヲ爲シツ、アルニ非ラス又タ爲シ得ルニアラサル也。

シカラハ又タ重ネテ問フ、國民經濟ハ意識的經濟及ヒ無意識的經濟ノ兩者ヨリ成立スルモノニ非ラサルカ。答ヘテ曰ク然リ。思フニ多クノ場合ニ於イテハ、國民内ニ於ケル經濟主體ハ、只タ自己ノ爲メニ其ノ自由意思ニ據リテ經濟ヲ爲シ經濟行爲ヲ爲スニ過キスト雖モ、シカモ自己ノ爲メニ經濟シ自己ノ

爲メニ經濟行爲ヲ爲スコト其レ自身カ同時ニ國民ノ爲メニ經濟ヲ爲シ經濟行爲ヲ爲スコトト爲ルナリ。例ヘハ出版業者カ書籍ノ製造販賣ヲ爲スハ只タ貨幣ヲ自己ノ處有ニ歸セシメンカ爲メニシテ、自己ノ經濟ノ爲メニ經濟行爲ヲ爲スモノタルヤ明カナリ。乍併モシ彼ニシテ最モ少キ犠牲ヲ以テ最モ多クノ貨幣ヲ得ンコトヲ欲センカ、彼ハ先ツ世間ノ需要如何ヲ調査シ以テ最大ノ需要アル書籍ヲ出版スルノ必要ニ迫ラル。即チ彼ニシテ自己ノ利益ヲ計ラント欲センカ、彼ハ其ノ書籍ヲシテ最モ善ク世人一般ノ經濟的慾望ヲ満足セシムヘキモノタラシムルノ必要アルナリ。此ノ如キ關係ヨリシテ、出版業者ハ自己ノ利益ヲ計ルカ爲メ知ラス識ラスノ間、國民ノ利益ヲ計ルニ至ル。而シテ此ノ如キハ國民經濟中予ノ所謂無意識的經濟ノ部ニ屬スル也。わが

なト曰ク國民經濟内ニ包含セラル、單一經濟ハ固ヨリ各自ノ目的ヲ有スト、雖シカモ之ト同時ニ全體ノ目的即チ國民經濟上ノ目的ニ向ツテモ一定ノ作用ヲ爲スモノニシテ、國民經濟上ノ目的ヲ達スル手段ト爲ルモノナリト。コレ此ノ謂ナリ。

シカルニ國家カ運輸通信ノ機關ヲ設クルカ如キ(國家カ交通業ヲ營ムニ至レ

ルハ元ト自己ノ用ニ供スルカ爲メニシテ、廣ク國民ノ用ニ供スルニ至リタルハ之ヨリ後ノ事ナリ、又タ廣ク國民ノ用ニ供スルトスルモ其ノ趣旨タル國民ノ經濟上ノ慾望ヲ滿スニ非スシテ國家ノ收入ヲ得ルヲ以テ其ノ直接ノ目的トセル場合アリ、此ノ如キ場合ニ於テハ、其ノ交通業ヲ營ムコトハ國家自ラノ經濟ニ取リテハ固ヨリ意識的經濟ヲ成スモノナリト雖モ、之ヲ國民經濟ヨリ觀察セハ明カニ無意識的經濟ノ部ニ屬スルナリ、茲ニ指ス所ハ、此ノ如キ場合ヲ除外シタルモノナルヲ注意セヨ、或ハ公園、圖書館、道路ヲ設クルカ如キ、或ハ一私人カ慈善ノ目的ヲ以テ病院、學校ヲ設クルカ如キハ、之ヲ國家又ハ慈善家ヨリシテ見レハ其ノ經濟行爲タルニ非ラス、其ノ經濟ヲ形成スル所以ノ要素タルニ非ラスト雖モ、之ヲ國民ヨリシテ見レハ是等ノ行爲ハ皆ナ國民經濟ヲ形成スル所以ノ經濟行爲ニシテ、從ツテ之ヲ國民經濟ヨリシテ見レハ實ニ予ハ所謂意識的經濟ニ屬スル也、蓋シ是等ノ營造物ヲ設立スルハ始メヨリシテ設立者ノ利益ヲ以テ目的トスルニ非ラス、直接ニ國民ノ經濟的慾望ヲ満足セシムルヲ以テ目的トセルモノナレハナリ。

嘗テわぐな一ハ其ノ著國民經濟原論ニ於テ、國民經濟ノ組織ニハ種々ノ主

義アリ得ヘシトナシ、私經濟の原則、共同經濟の原則、慈善の原則ノ三者ヲ擧ケタリ。思フニ、氏ノ説タル必スシモ余輩ノ所説ト同シカラスト雖モ、大體ニ於テ大差ナキヲ思フ。余ノ所謂無意識經濟ハ氏ノ所謂私經濟の原則ニ據ルノ經濟ヲ指スモノニシテ、余ノ所謂意識的經濟ハ氏ノ所謂慈善の原則ニ據ルノ經濟ニ近キモノナリ。而シテ社會主義實行セラル、ニ至ラハ國民經濟ハ綜合經濟タル性質ヲ失ヒテ共同經濟タルニ至ルヘシトハ余ノ既ニ述ヘタル所ナリ、わぐな一ノ共同經濟主義ト云フハ此ノ場合ニ近キモノナリ。讀者宜シク兩者ヲ比較シテ余カ説ノ眞意ヲ了解セラルヘシ。

國民經濟組織ノ三主義

左ニ紹介ス。

わぐな一カ其ノ著原論ノ二九九節以下ニ論述セル所ナリ。今マくらいんおひた一ノ著書ノ一節ヲ借り來ツテ、簡單ニ之ヲ

國民經濟カ依ツテ以テ組成サレ得ベキ原則ハ三アリ、私經濟の原則、共同經濟の原則、共同經濟の原則、共同經濟の原則及ヒ所謂慈善の原則コレナリ。

一、私經濟原則。先ツ第一ニ吾人ノ想像シ得ル原則ハ、何人ト雖モ經濟的生活ニ於テハ他人ノ事ニ就イテ苦心スルコトナク、只タ唯タ自己及ヒ其ノ家族ノ爲メ經營スルノ主義コレナリ。例ヘバ一定ノ土地ヲ耕作シ而シテ之ニ依リテ得タル糧食原料ニ加工シテ享有財ト爲ス場合ニ於テモ、或ハ甲ハ穀物ヲ生産シ、乙ハ靴ヲ生産シ、丙ハ衣服ヲ生産ス

ル場合ニ於イテモ、或ハ又タ是等ノ人々カ其ノ生産物ノ剩餘ヲ交易買賣スル場合ニ於イ  
テモ、其ノ自己ノ爲メニ計リテ他人ノ爲メニ苦心スルコトナキハ凡テ同一ナリ。サレバ  
モシ他人ガ之ヲ購買シ之ニ對シテ報酬ヲ與フベキ貨物ヲ所有セザルカ、又ハ之ヲ生産セ  
ザル者アル時ハ其ノ人ハモシ此ノ私經濟主義ノ極端ニ行ハル、場合ニハ餓死スルノ外  
ナキナリ。

二、共同經濟の原則。吾人ハ次ギニ——嘗テミます。も一るすが其ノ有名ナルうまび  
あニ於イテ描キタルが如ク——國民全體ガ一大家族トシテ生活シ經濟スル場合アルヲ  
想像スルヲ得ベシ。此ノ如キ場合ニ於イテハ、凡テノ國民ハ共同ノ所有權ヲ有スベク、而  
シテ國民各個ガ如何ナルモノヲ如何ナル分量ニ於イテ生産スルヤモ法律ニ依リテ定メ  
ラルベク、其ノ生産物ハ公共ノ倉庫ニ貯藏セラル、コトト爲ルベシ。而シテ國民ハ凡テ  
共同ノ住家ニ居住シ、且ツ其ノ衣食ハ——今日軍隊ニ於ケル兵士又ハ寺院ニ於ケル僧侶  
ノ如ク——政府ヨリ供給セラル、コトト爲ルベシ。

三、慈善の原則。吾人ハ又タ恰モ私經濟の組織ニ於ケルト等シク、各人ハ他人ヨリ獨立  
シテ其ノ經濟ヲ營ムト雖モ、シカシナガラ此ノ場合ニ於イテハ、凡テノ人ハ純然タル他愛  
心ヲ以テ其ノ同胞ニ贈與センガ爲メ出來得ベキダケ善キ種々ノ貨物ヲ出來得ベキダケ  
多ク生産セント努ムルガ如キ場合ヲモ想像スルコトヲ得ベシ。即チ凡テノ人ハ他人ニ  
貨物ヲ贈與シ其ノ代リ又タ他人ヨリ贈與ヲ受ケ、カクテ各人凡テ其ノ生活ニ必要ナル財  
ヲ享有スルコトトナルナリ。

國民經濟ヲ組織スルノ主義ハ以上ノ如ク三主義ニ分類スルコトヲ得ベシト雖モ、實際ノ  
國民經濟ハソノ一ニ偏スルモノニ非ラズシテ、三者ノ混和ヨリ成ル。乍併就中最モ勢力  
ヲ有スルモノハ私經濟ノ主義ナリト云フベシ、何トナレバ多クノ人ハ自ラノ慾望満足ニ

苦心スルノミ而シテ又タ各人ハ其ノ衣食住ニ就イテハ自ラ之ヲ調達セザルベカラザレ  
バ也。而シテ之ニ次ケモノハ共同經濟主義——或ハ之ヲ共產主義ト云フモ可ナリ——  
ナリ、現ニ家族兵營寺院ノ生活ニ於イテハ廣ク共產主義ノ行ハル、ヲ見ル也。其ノ外交  
通、教育、貨幣度量衡、信用、保險、病者及ヒ貧民ノ保護、公共ノ安寧及ヒ秩序ノ維持ニ關スル國  
家及公共團體ノ經營併ニ自由ノ共同經濟(營利會社、徒弟組合等)ノ行爲等ニ就イテ、公共經  
濟主義ノ行ハレツ、アル範圍ハ甚ダ廣シ。乍併之ト同時ニ慈善博愛ノ行爲モ亦タ少シ  
ト爲サズ。例ヘバ家族朋友間ニ於イテハ純然タル他愛ヨリ出ツルノ行爲少シトセズ、或  
ハ慈善ノ目的ニテ設立サレタル制度設備ノ類モ亦多シ、其ノ他日常ノ社交ニ於イテモ、個  
人相互ノ間ニ或ハ人ノ爲メニ親切ヲ盡シ、或ハ他人ノ親切ヲ受クルノ場合ハ甚ダ多シ。

## 第五章 經濟學

### 第一節 學ノ觀念

經濟學トハ何ソヤヲ説明スルニ先チテ、予ハ先ツ學トハ何ソヤヲ説明スルノ必要ヲ見ル。

學トハ何ソヤ。曰ク、一定ノ事物現象ニ關スル標準的知識カ一定ノ秩序ノ下ニ統一サレタル一躰ヲ爲ス時ハ之ヲ名ケテ學ト曰フ。

シカラハ知識トハ何ソヤ。曰ク、智識トハ吾人ノ智性ヲ満足セシムヘキ解釋ヲ與フルモノコレナリ。既ニ述ヘタルカ如ク、吾人々類ハ種々ノ慾望ヲ有ス、而シテ其ノ一種類トシテ、智識上ノ慾望ナルモノアリ。事物ノ真相ヲ知ラントスルノ慾望コレナリ。而シテ此ハ智識慾ヲ満足セシムルハカアル解釋ハ之ヲ名ケテ智識ト云フナリ。畢竟スルニ智識ナルモノハ所謂「財」ノ一種ニ外ナラス。

シカルニ宇宙間ノ事物現象ハ千狀萬態實ニ錯雜紛綜ヲ極ム。今ニ是等ノ事

物現象ニ就イテ一々精確ナル智識ヲ得ンコトハ限リアル人間ノ力ヲ以テ到底爲シ得ル事ニ非ラサルナリ。故ニ吾人ハ已ムヲ得ス宇宙間ノ事物現象ヲ類別シテ、其ノ同種ノ事物現象中ニ存在セル通有性ヲ發見シ、以テ多數ノ事物現象ヲ説明スニ足ルヘキ標準的智識ヲ求メサルヘカラス。今ニ此ノ標準的智識ヲ名ケテ學問的智識ト云フ。而シテ一定ノ事物現象ヲ説明スルニ必要ナル學問的智識ニシテ一定ノ秩序ノ下ニ統一サレタル一躰ヲ成ス時ハ之ヲ名ケテ學ト云フ也。

コレカ故ニ學ノ範圍ニ屬スヘキ智識ハ凡テノ智識ニ非ラスシテ學問的智識ナリ。而シテ學問的智識ハ凡テ學ヲ形成スルニ非ラスシテ、彼等カ秩序アル一躰ヲ爲セル時、始メテ學ト爲ルナリ。コレ恰モ凡テ人類ノ行爲カ經濟行爲ニ非ラス、凡テノ經濟行爲カ經濟ヲ成スニ非ラサルト全ク其ノ趣ヲ同ウス。以上述フル所ニ據リテ考フレハ、學ノ必要アル理由甚タ明カナリ。思フニ學ハ起ル所以ハ、人類ノ智識慾ト能力トカ平均ヲ保クサルニ在リ。既ニ述ヘタルカ如ク、宇宙間ノ事物現象ハ千萬限リナシ。今ニ是等ノ事物現象ヲハ分析シ、解部シテ一々精確ナル智識ヲ得ンコトハ、誠ニ望マシキコトタルニ相違ナ

ケレトモ、コレ限りアル人カノ爲シ得ル所ニ非ラス。人ノ生命ハ限りアリ、而シテ智識慾ハ限りナシ。是カ故ニ吾人ハ可成最少ノ勞力ヲ以テ可成最大ノ智識慾ヲ満足スノ必要アリ。コレ即チ學ノ起ル所以ニシテ、畢竟スルニ學トハ一ヲ知ツテ百ヲ知ルノ方便タルニ過キサルナリ。例ヘハ、之ヲ人脈ノ生理ニ就イテ考フルニ、人々各々其ノ特徴ヲ具フルコトハ恰モ人面ノ相異ルカ如クシノミ、サレハ億兆限りナキ各個人ノ生理ニ就イテ一々之ヲ精査センコトハ如何ナル學者ト雖モ到底ナシ得サル所ナリ。然レトモ、吾人モシ少シク意ヲ留メテ之ヲ研究スル時ハ、胃腸、肺肝ノ大小、位置、性質、作用等大躰ニ於イテ相同シキモノアルヲ發見セン。是カ故ニ吾人モシ其ノ通有性ニ就イテ智識ヲ有スル時ハ、之ニヨリテ億兆限りナキ人々ノ生理ニ就イテ一定ノ智識ヲ有スルニ至ル、コレ即チ學ノ效用ナリ。予ハ之カ故ニ、學トハ舉一明三ノ術ナリト云フ也。思フニ經濟ノ起ル所以ハ既ニ述ヘタルカ如ク、人類ノ經濟慾ト財物トカ其ノ平均ヲ保タサルニ在リ、學問ノ起ル所以モ亦タ全ク之ト趣ヲ同ウスト謂フヘシ。

次キニ學ノ目的如何モ、亦タ明カナラン。學ノ目的ハ、云フマテモナク、人類ノ

智識慾ノ満足ニ在リ。智識慾トハ、既ニ述ヘタルカ如ク、人類カ事物ノ真相ニ就キ精確ナル智識ヲ得ント欲スルノ慾望ニシテ、予ノ所謂派生的慾望ノ一種類タリ。故ニ學ノ目的ハ、人類ニ智識ヲ得セシムルヲ以テ終了ヲ告ク。其智識カ實際上果シテ如何ナル效果ヲ齎スヘキヤ否ヤハ、學ノ毫モ關知セサル所ナリ。世人往々ニシテ曰ク、學ノ目的ハ之レヲ實地ニ應用スルニ在リ、シカルニ學者往々學問カ實際ノ經營ノ手段タル所以ヲ忘レテ、學ツノモノヲ以テ目的トスルモノアルハ、實ニ笑フヘキノ至リナリト。吾人ハ却ツテ是等論者ノ言ヲ以テ眞ニ笑フヘキモノ、至リナリト信ス。思フニ既ニ述ヘタルカ如ク、吾人々類ハ如何ナル種類ノ慾望タルヲ問ハス、之レヲ満足セシメサレハ則チ不快ヲ感シ之レヲ満足セシムレハ則チ快感ヲ覺ユルモノナリ。而シテカノ學ナルモノハ、是等慾望ノ一種類タル智識慾ヲ満足セシムルモノナレハ、其ノ智識慾ヲ満足セシムル事ソレ自身カ既ニ人生ノ必要事タリ。故ニ、コノ點ヨリ見レハ、當ニ學問的智識ノミナラス、苟クモ智識ト稱スヘキモノハ凡テ人生ノ必要物タリ。例ヘハ、吾人ハ吾人ノ祖先ニ平重盛ヲ有スルコトヲ知ル、而シテ其ノ平重盛ノ容貌、性質、死亡ノ原因等ニ就イテ知ラント欲スルノ慾望ヲ起

スコトアリ、而シテ是等ノ事實ヲ知ルコトヲ得ンカ、吾人ハ非常ナル満足ト快樂トヲ感ス。此ノ如キ快樂ハ、人類ノ快樂中最モ健全ナルモノ、一ニシテ、文明ノ發達ト共ニ益々發展シ來ルヘキ性質ノモノタリ。是ニ依リテ考フレハ、史上ノ一個人カ果シテ如何ナル容貌性質ヲ有シタリシヤヲ研究シタレハ、トテ更ニ其ノ智識ヲ應用シテ器械ヲ運轉シ貨物ヲ生産スルノ用ニ供スルコト能ハストハ云ヘ、シカモ其ノ事實ヲ知ルコト夫レ自身カ既ニ社會ノ必要タリ。只タ或ル種類ノ智識慾ニ至ツテハ社會多數ノモノノ共有スル所ニ非ラサルノミナラス、却ツテ其ノ慾望ノ満足ハ往々人生ノ不幸ヲ生スコトアルカ故ニ、此ノ如キモノ、研究ニ全力ヲ費スモノハ社會ノ必要ヨリ見テ往々迂愚ノ識ヲ免レサルニ過キサルノミ、然レトモ幼稚ナル社會ニ於イテハ、社會民衆ノ智識慾ハ甚タ劣等ニ位ス、故ニ實際ニ於イテハ、極メテ必要ナル事項タルニ拘ラス、之レカ研究ヲ以テ無用ト爲スコト少カラス。本邦現時ノ智識界ノ如キハ即チ之レニ屬スルモノ、此ノ如キ社會ニ於イテ迂愚ナラサル學者タランモ亦タ難イ哉。

くらいんあひたーノ説明

予ハ例ニヨリテ、自己ノ説明ノ不足ヲ補フガ爲メ左ニくらいんあひたーノ説明ヲ掲グ。

學トハ何ゾヤ。凡テノ學ハ先ツ積極的智識ノ一定ノ分量ヲ得ルヲ以テ其ノ發端ト爲ス。ヤ明カナリ。例ヘバ動物學ハ動物ニ關スル智識ヲ必要トシ、言語學ハ言語ニ關スル智識ヲ必要トシ、史學ハ史實ニ關スル智識ヲ必要トスルモノニシテ、是等ノ智識ナクンバ從ツテ如上ノ學ナキナリ。故ニ或ル學ヲ成立セシメント欲スル者ハ、先ツ其ノ事物又ハ現象ヲ觀察シ之ニ就イテ一定ノ智識ヲ得ルコトヲ必要トス。乍併事實ノ觀察又ハ智識ノミニヨリテハ未ダ學ヲ成スニ至ラザルナリ。例ヘバ茲ニ馬ヲ愛スル人アリテ、其ノ地ニ於ケル馬ニ就イテ殆ト知ラザルコトナク、其ノ大サ、其ノ色、其ノ性、其ノ由來等ニ關シ之ヲ熱知スト雖モ未ダ其ノ人ヲ目シテ動物學者ナリト云フコト能ハズ。又々例ヘバ茲ニ人アリ、らてん語ざりし、語其ノ他諸國ノ語ヲ知ルト雖モ、未ダ彼ヲ以テ言語學者ナリト云フコト能ハズ。或ハ又々詳細ナル日記ヲ記載シ居レル人アリテ、某日ハ大雪雨アリタリ、某日ニハ新大臣ノ任命アリタリ、某日ニハ某地ニ於イテ戸數軒火災ニ罹レリ等ノ事ヲ一々記憶スト雖モ、其ノ人ハ決シテ史家ナリト云フベカラズ、單ニ記錄家タルニ止ルナリ。シカレニ人モシ活眼ヲ開イテ其ノ事物又ハ現象ヲ觀察センカ多クハ事物又ハ現象中ニ一定ノ規則又ハ一致アルコトヲ發見スルニ至ルベシ。例ヘバ——假リニ前例ヲ引用セシニ——多クノ馬ニ就キ其ノ外形ヲ比較シ又々其ノ内部ノ構造ヲ比較スル時ハ多クノ特徴ハ凡テノ馬ヲ通シテ繰リ返サレツ、アルモノニシテ、只ダ二三ノ點(人)之ヲ稱シテ「非根本質的特徴ト云フ」ニ於テノミ各々異ナル所アルヲ發見スベシ。又々一國ノ語學ヲ研究シタル者ハ、語ノ構造ハ勿論種々ノ差異アルモノナレドモ、シカモ其ノ間一定ノ法則アルヲ發見スルニ至ルベク、又々文章ノ構造モ然ルヲ發見セシ、簡言セバ其ノ國語ハ文典及

ヒ文章法ニ依リテ司配サレツ、アルヲ觀察シ得ベシ。又々一國民ノ歴史ヲ研究スル人ハ多數ノ歴史上ノ事件ヲバ支配シツ、アル一定ノ思想アルヲ知ルヲ得ベシ即チ其ノ國民ハ時代ニ依リテ其レ々々一定ノ思想ヲ懷キ之ニ依リテ動カサレツ、アルヲ發見スルニ至ルベシ。

此ノ如ク、多クハ現象中ニ發見スル所ノ規則ヲ研究シ、又ハ多クハ事實又ハ事物ヲ支配スル所ノ思想ヲ研究スルコトハ學ノ發端タリ第一歩タルモノニシテ、學問的行爲ニ屬スルナリ。乍併多クノ場合ニ於テハ、吾人ノ智識然ハ之ヲ以テ満足スルモノニ非ラス、何トナレバ、更ニ研究ノ一步ヲ進メンカ、吾人ハ一層大ナル一致ヲ發見スルヲ得ベケレバ也——

例ヘバ——又々前述ノ例ヲ引用シテ論ゼンニ——馬ノ構造ニ就イテ一定ノ規則アルヲ發見シタル者ハ、之ヲ以テ満足セズシテ、更ニ一步ヲ進メテ各種ノ動物ヲ比較シ、而シテ其等ノ動物ハ馬ヲ支配セル規則中ノ或ルモノニ依リテ等ク支配サレツ、アルヲ發見スルニ至ルベシ。カクテ彼ハ「馬」ヲ以テ脊椎動物中ノ哺乳動物ニシテ單蹄動物ニ屬スルモノナリト云フニ至ル換言セバ一定ノ一致又ハ特徴ハ凡テノ動物ニ貫通スルモノナルヲ悟ルニ至ルナリ。一國ノ語學ニ就イテ研究セシモノモ亦タ之ト同シ、彼ハ管ニ一國ノ國語ニ關スル文典及ヒ文章法ヲ以テ満足セズシテ、更ニ他國ノ國語ト比較スルニ至ラン、而シテ其ノ結果一定ノ語ハ國語ヲ異ニスル雖モ多少類似スル所アルヲ發見スルニ至ラン。カクテ「る」ま語「る」ま語等ハ其ノ語源チ一ニスルモノニシテ、之ヲ總稱シテ「いん」ぎけるまん語ト名ケ得ベシトスルニ至ラン。之ヲ法學者ニ就イテ見ルモ亦々同シ、彼等ハ管ニ自國ノ法律ヲ研究スルヲ以テ満足セズシテ、更ニ他ノ文明諸國ノ法律ト比較シ、其ノ間一定ノ通素アルヲ發見セントスルニ至ルベシ。

カクハ如ク、凡テハ學問的研究ナルモノハ、多數ノ現象中ニ貫通セル通素ハ發見チ目的ト

スルモノナリ。即チ一定ノ現象ヲ集合シテ一團ト爲シ、之ニ就イテ其ノ通素ヲ研究シ更ニ又々一層多數ノ現象ヲ集合シテ、ヨリ大ナル一團ト爲シ、之ニ就イテ其ノ通素ヲ求メ、カクテ最高ノ通素ヲ得ルニ至ラズンハ己マザル也。

乍併既ニ最高ノ通素ヲ發見スト雖モ、吾人ノ學問慾ハ未ダ満足スルモノニ非ラズ。更ニ進ンテハ如何ニシテ現狀ハ發生スルニ至リシカトノ疑問ヲ發スルニ至ル。即チ或ル現象ソノモノ、現狀ヲ研究スルニ止マラズシテ、更ニ其ノ由來ニ就キ歴史ヲ知ランコトヲ欲スルモノナリ。カクテ動物植物ニ關スル解剖學及生理學ノ研究ハ更ニ一步ヲ進メテ有機體ノ發展史ノ研究ヲ促シ、言語學ニ在ツテハ官語ノ發展史、法學ニ在ツテハ法律史ノ研究ヲ促スニ至ルモノナリ。

乍併既ニ發展史ノ研究ヲ爲スト雖モ、吾人ノ研究心ハ未ダ満足スルニ至ラザルモノ也。即チ吾人ハ既ニ事物又ハ現象ヲ研究シ又々其ノ現象ノ由來ヲ研究セリト雖モ、更ニ進ンテハ「事物」ハ何故ニ此ノ如キ發展ヲナシテ其ノ他ノ方法ヲ取ラザリシヤトノ疑問ヲ發スルニ至ルナリ、換言スレバ其ノ發展ノ經過ニ一定ノ通則アル所以ノ原因如何トノ疑問ヲ生ズルニ至ルナリ。而シテ此ノ問題ニシテ解決セラレンカ、吾人ノ研究心ハ始メテ満足ノ域ニ達スルモノニシテ、吾人ハ始メテ吾人ノ知ラント欲スル所ヲ知レリト云フコトヲ得ルナリ。(然レトモ吾人ハ更ニ一步ヲ進ムル時ハ有機體ノ發展史ト言語法律等ノ發展史トヲ比較シテ、其ノ通素ヲ求メ、又々其ノ通素ノ由ツテ來ル所ヲ研究スルノ學ヲ組成スルヲ得ベシ)。

以上論ズル處ニ依リテ、吾人ハ學ヲ定義スレズ、

一、一定ノ事實(事物、現象、事件)ニ關スル智識(記述)

二、多數ノ事實中ニ於ケル通素ニ關スル智識(即チ其ノ事物ニ貫通セル特徴ニ關スル智



多數ノ現象及ビ其ノ現象相互ノ關係ニ於ケル通素ニ關スル智識、人類ノ行爲又ハ  
人類ニ關スル現象ヲ支配セル思想ニ關スル智識

三、發展ノ經過ニ關スル智識、即チ事物ハ時ノ經過ニ伴イテ如何ナル變化ヲ爲シ來リタ  
ルヤニ關スル智識

四、發展ノ經過ヲ支配シ決定シタル原因及ヒ事情、或ビニ其ノ原因及ヒ事情ノ通素ニ關  
スル智識。

ナリト云フコトヲ得ベシ。乍併凡テノ學ハ上述ノ四問題ヲ解決セザルベカラザルヤト  
云フニ、必ズシモ然ラズ、蓋シ事物ノ起源ハ極メテ古クシテ到底其ノ發展ノ歴史ヲ闡明ス  
ルコト能ハザルモノナリ、從ツテ其ノ發展史ハ勿論、其ノ發展ヲ左右セシ原因及ヒ事情ヲ  
知ルコト難キモノ少カラザルナリ。

●**研究方法**。學ノ研究方法ハ二アリ、歸納法及演繹法コレナリ。  
●**歸納法**。凡テノ學問的研究ハ先ツ事實現象、事物ノ觀察ヲ爲シ、アイニハイト、イン、デル、フ、ハイト多數ノ中ノ通素ヲ  
求メザルベカラズ。人之ヲ稱シテ歸納法ト云フ。例ヘバ茲ニ人アリ、種々ノ物體ヲ手ニ

シテ立チ、而シテ物體ヲ手放ス時ハ何レモ地上ニ向ツテ落下シタリトセヨ、而シテ其ノ事  
實ヲ觀察シテ、凡テ物體ハ之ヲ支フルモノナクンバ、地上ニ落下スルモノナリトノ通則ヲ  
發見シタリトセヨ、コレ即チ歸納法ナリ。

●**演繹法**。シカルニ一方ニ於イテハ、吾人ノ既ニ得タル積極的ノ智識、即チ吾人ノ既ニ到達  
シ又ハ到達シタリト信セル通則、ヲ利用シ、論理的ニ未ダ知ラザル所ノ事物ヲ知ラシメ  
トチ試ムルモノナリ。例ヘバ——假リニ上述ノ例ヲ引用シテ説明センニ——既ニ自己

ノ觀察ニヨリテ凡テノ物體ハ地上ニ落下スルノ傾向ヲ有スルヲ知リ得タル者ハ、タトヒ  
嘗テ試ミタルコトナキ、或ル新ラシキ物體ニ遭遇スト雖モ、彼ハ其ノ必ズ地上ニ落下スベ  
キヲ知ルコトヲ得ベシ、即チ彼ハ其ノ推理力ヲ利用シテ、次ノ如ク明言スルコトヲ得ベシ、  
曰ク「經驗ノ教フル所ニ據レバ凡テ手ニ持タル物體ヲ手放ス時ハ、地上ニ落下スルモノ  
ナリ——予カ今マ手ニ持ツ所ノモノハ一ノ物體ナリ——故ニ此ノ物體ヲ手放ス時ハ、物  
體ハ必ズ地上ニ落下スベシ」今マ此ノ如キ推理ノ方法ヲ名ケテ、演繹法ト云フ。

此ノ如ク學ノ研究方法ハ二アルモノニシテ、吾人ノ積極的智識ハ歸納又ハ演繹二法ノ中  
其ノ何レカニ據ルモノナリ。乍併演繹法ニヨリテ得タル智識ニシテ、誤謬ナラザルガ爲  
メニハ、二個ノ條件ヲ必要トス、其ノ一ハ論理的ノ推理ガ正シキコトニシテ、其ノ二ハ其ノ  
推理ノ前提カ完全ニシテ且ツ正當ナルコト、コレナリ。

●**技術**。技術ナルモノト學トハ之ヲ明瞭ニ區別スルコトヲ要ス。學ナルモノハ純然タル  
理論的ノ「識」ニシテ實際上ノ「能」ニ關係スルコトナシ。之ニ反シ「技術」ナルモノハ「能」ニ屬ス  
ルモノニシテ、吾人カ爲シ得ベキコト即チ熟練ヲ指スナリ。即チ茲ニ技術ト云フハ、例ヘ  
バ、種々ノ材料ヲ產出シ、之ニ加工シ、或ハ之ヲ以テ美術品ト爲シ、或ハ所謂工業品ト爲シ得  
ルノ熟練ヲ指スモノナリ。例ヘバ茲ニ醫師アリ、病者ヲ治療シテ其ノ病ヲ全治セシムル  
ノ術ニ熟練セリトセヨ、其ノ人ハ醫ノ技術ニ達セリト云フナリ、シカルニ等シク醫師ニシ  
テ、シカモ其ノ醫學上ノ智識ニ於イテハ、遠ニ前者ニ優ルモノアリトスルモ、モシ其ノ人ニ  
シテ、實際上治療ニ巧ナラザレバ、彼ハ技術ニ拙ナリト云フナリ。此ノ如ク實際的ノ治療  
ヲバ名ケテ技術ト云フナリ、其ノ他實際ニ於ケル政治、實際ノ農業ノ如キ皆ナコレ技術ニ  
屬スルモノナリ。

是ニ依リテ考フレバ、學ト技術トハ固ト全然特殊ノ性質ヲ具フルモノニシテ、互ニ全ク獨  
立シ、毫モ相互ノ關係ヲ有セザルモノナルコトヲ知ルベシ。シカシ乍ラ、ナホ學ト技術ト  
ハ次ニ述ブルカ如キ二點ニ於イテ互ニ關係ヲ有スルモノナルコトヲ知ルベシ。

〔第一〕殆、凡テノ「能」ハ一定ノ「能」アルコトヲ以テ其ノ前提トス、ダトモ其ノ智識タルヤ、單ニ粗雑ナル經驗ニ本クト、或ハ真正ナル學問上ノ研究ニ本クトヲ問ハズ、兎ニ角、殆、凡テノ能ハ既ニ知得シタル「能」アルコトヲ前提トス。之ヲ換言スレバ、多クノ場合ニ於テハ、技術ハ智識ノ應用ニ本クモノナリ。例ハ、手力何等カノ方法ニヨリテ、鐵ニ高度ノ熱ヲ加フル時ハ、鐵ハ之カ爲メニ融解セラレテ、鐵治シ得ルニ至ルコトヲ知リタリトモ、然ル時ハ、予ハ其ノ知識ヲ應用シテ、モシ鐵ヲ鐵治セント欲セバ、先ツ之ヲ融解セシムベシト云フニ至ルナリ。此ノ如クニシテ、學ハ技術ニ應用セラルルニ至ルナリ、即チ學ノ教フル所ハ、例ヘバ物體ハ種々ノモノ、影響ヲ受ケテ種々ノ變化ヲ爲ス所以ニ在リ、而シテ其ノ智識ヲ應用シテ、物ニ種々ノ變化ヲ加ヘ以テ其ノ必要トセル物體ヲ作り出スニ至ルハ、コレ技術ノ範圍ナリ。此ノ如ク學ノ技術ニ貢獻スル所少カラズ、伴技ニ注意スベキハ學問上ノ智識カ實際ノ技術ニ貢獻スルニ至ルハ、偶然ノ結果ニシテ、其ノ副産物タルニ過ギザルコトナリ。蓋シ學ナルモノハ、固ト吾人ノ智識慾ヨリ發生セシモノニシテ、其ノ本來ノ目的ハ、吾人ニ事物ノ真相ヲ教ヘ以テ吾人ノ智識慾ヲ満足セシメントスルニ在リ。其ノ實際上ニ於ケル應用ニ至リテハ、吾人ノ知スル所ニ非ラザレバナリ。

〔第二〕學ハ種々ノ技術ヲ取り來リ、之ヲ以テ研究ノ目的物トスルコトアリ。コレ學ト技術トカ互ニ關係ヲ有スルニ至ル第二點ナリ。而シテ既ニ述ベタルカ如ク、學ノ本質タル多數ノ中ニ適業ヲ發見スルヲ以テ目的ト爲スモノナルカ故ニ、此ノ場合ニ於テハ、種々ノ技術ヲ取り來リ、其ノ根底ニ横リテ之ヲ指導セル思想ヲ研究ス。例ハ、美學ノ目的トスル所ハ審美的思想ノ研究ニ在リ、而シテ美學ニシテ技術ノ研究ヲ爲スニ至ル時ハ、先ツ各國各時代ニ於ケル美術品ヲ研究シ、次イテ、コレヲ各種ノ美術品ヲ比較シテ、各派ノ由テ來ル所ヲ研究シ、カクテ各國民力建築型像繪畫等ノ範圍ニ於テ如何ナル美術思想ヲ有シ

居タリシカヲ研究スルナリ。工學ニ於ケルモ亦々同ツ、即チ工學中技術ヲ研究スルモノニ至リテハ、木材、鐵材等ニ關スル各種ノ工藝及ビ化學的工業ニ於ケル各種ノ手續ヲ研究シ、次イテ是等各種ノモノヲ比較シテ其ノ間ノ適業ヲ求メ、其ノ根底ニ横ハレル思想ヲ研究ス。或ハ工學上又々道具ノ發生及ビ發達ニ就イテ研究スル場合ニ於テモ亦々同様ニシテ、太古ノ石器、木具ヨリシテ今日ノ複雜セル器械乃至くる、基礎ニ至ルマデノ經過ヲ研究シ、而シテ是等發展ノ經過ニ就キ其ノ各種ノ階級ヲハ、闡明スルヲ以テ其ノ目的ト爲ス。

愚フニ以上述アル所ニ據リテ、讀者ハ學ノ何物タルヤヲ了解シ得タリト信ズ、コレ吾人が國民經濟學ノ學問上ノ性質ヲ了解スルニ當ツテ必要欠ケベカラザルノ觀念ナルカ故ニ、予ハ特ニ之ヲ詳説シタルナリ。

**學ノ目的ニ關スル建部博士ノ説**

建部博士ハ學問ノ解義ト題シテ、學問トハ人生ニ於ケル進歩ノ爲メニ實理的示命ヲ供フル者ナリト論セラレ、且ツ學問ソノモノヲ目的トスルノ説ヲ大ニ排斥セラレタリ。(普通社會學第一卷、六五、六六、九九、一〇〇頁等)

余愚フニ、學問ソノモノノ目的ハ、人類ニ向ツテ智識ヲ供給スルノ外ニ出テズ。然レドモ苟クモ智識ト稱スベキモノハ取ツテ以テ悉ク人生ノ用ニ供シ得ベキモノナルカ故ニ、學問ノ效能ハ、ヤガテ人生ノ實用ニ供セラルルニ依リテ發揮セラルベシ。然レドモ其ノ人生ノ實用ヲ爲ス所以ノモノハ、學ノ效能ナリ、學ノ目的ソノモノハ、非ラズ。博士又論シテ曰ク、社會學ノ研究ハ知識慾ノ充足ニ起レル者ニ非ス、智識慾ノ充足ノ爲メニスル學問ハ人格ヲ修養スル者ト爾フベシ……知識慾ノ説ハ近來學界ノ一變象、而シテ社會研究ノ意味ニ對スル誤解ノ二ナリ(一〇〇頁)

余ハ其ノ何ノ意タルヲチ解スルニ苦ム。モシ夫レ學ノ目的ニ關スルくらゐんをひたしノ説ハ上掲ノ如ク、而シテちちるノ説明ハ次節ノ註トシテ抄録スルガ如シ。

凡テノ學ハ純理的及ビ應用的ノ二科ニ分ル

葛部博士ノ如ク、學ヲ以テ人生ニ於ケル進歩ノ爲メニ實理的示命ヲ供スルモノト爲

スノ誤解ヲ避ケンガ爲メニハ、凡テノ學ハ之ヲ通ジテ二科ニ分チ得ルコトヲチ了解スルノ必要アリ。

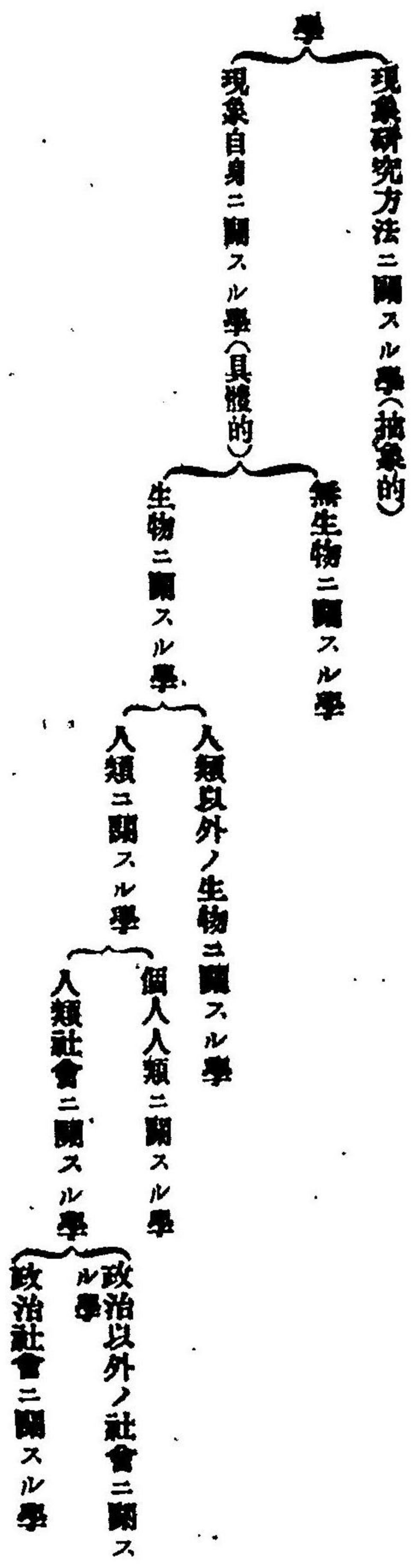
蓋シ既ニ述ブルガ如ク、學トハ畢竟スルニ吾人々類ノ知識慾ヲ満足スルガ爲メニ起ル。而シテコノ知識慾ナルモノハ、所謂派生的慾望ノ一種類ナルガ、其ノ中ニ固有ノ慾望ニ伴フモノト然ラザルモノトノ區別アリ。固有ノ慾望ニ伴ヘル智識慾ノ満足ノ爲メニ起レル學ハ所謂應用的ノ學ト稱セラルトモ、ニシテ、其ノ學ニヨリテ得タル智識ハ其ノ性質ヨリ生ズル自然ノ結果トシテ多クハ直チニ實際ノ用ニ供セラル。之ニ反シ固有ノ慾望ニ伴ハザル知識慾ハカノ固有ノ慾望ニ伴ハザル經濟慾(營利的慾望)ノ如ク必ズシモ自然ノ結果トシテ直チニ實際ノ用ニ供セラルトモ、ト限定スルコトヲ得ズ。學ニハ此ノ如キ二種ノ分科アルモノニシテ、コノ中前者即チ應用的又ハ實地的ト稱セラルトモ、トミ所謂人生ノ進歩ノ爲メニ實理的示命ヲ與フルモノタル也。後者即チ純理的又ハ理論的ト稱セラルトモ、トアリテハ、其ノ終局ノ目的ハ人類ノ行爲ニ向ツテ示命ヲ與フルモノタルニモセヨ、其ノ研究ノ際ニ於イテ常ニ念頭ニ置クベキ直接ノ目的ハ現實的事實ノ知識ヲ得ルニ在リト云ハザルベカラズ(きりんす)。

### 第二節 學ノ分類

學ノ分類ハ之カ標準ノ如何ニ依リテ異ル。今マ述ヘント欲スル處ハ經濟學ノ學問界ニ於ケル地位ヲ明ニスルカ爲メ必要ナル標準ヲ以テシタル分類ナリ。  
學ハ大別シテ學ソハ、モノハニ關スルハ學ト、事物現象ソハ、モノハニ關スル學トニ分ツコトヲ得ヘシ。  
學ソノモノニ關スル學ノ中ニハ學史及ヒ學ノ研究法ニ關スル學トノ二者アリ。

事物現象ソノモノニ關スル學ハ、之ヲ大別シテ、人類ヲ研究スルハ學ト、人類以外ノ事物現象ヲ研究スル學ト爲ス。而シテ人類ヲ研究スル學ノ中ニハ、更ニ其ノ社會的方面ヲ研究スルモノト、自然の方面ヲ研究スルモノトアリ。之ニ依リテ考フレハ、學ハ大別シテ、人類ノ社會的方面ヲ研究スルモノト、シカラサルモノトニ分ツコトヲ得ル也。而シテ前者ヲ社會科學ト名ケ、後者ヲ自然科學ト名ツクルモ大過ナカラシ。吾人ノ研究セントスル經濟學ハ、實ニ所謂社會科學ノ一部門タリ。

小野澤博士ノ學ノ分類  
シ(政治學大綱上卷一一頁)



余ハ大體ニ於イテ博士ト同様ノ分類ヲ爲シタレドモ、只ダ經濟學ノ地位ヲ説明スルノ必要上、人類ニ關スル學ヲバ、人類ノ自然的方面ヲ研究スルモノト社會的方面ヲ研究スルモノトノ二ニ分チタリ。

高部博士ノ學ノ分類

博士ハ「學問ノ體統」ヲ列記シテ、第一、論理學、第二、物理學、第三、天體學、第四、生物學、第五、社會學ト爲シタリ。(社會學序説七一—七五頁)。

社會科學ノ問題

社會科學ノ研究スル所ノモノハ二大部門ニ分タル——一ハカクカクナリ (wissenschaften) ト

云フコトノ研究ヲ爲シ一ハカクセサルヘカラス (Zeiheleiden) ト云フコトノ研究ヲ爲スモノナリ。前者ハ純理的社會科學ニシテ、後者ハ實地的社會科學ナリトス (Theoretische Sozialwissenschaft und praktische Sozialwissenschaft)。純理的社會學ハ事實ヲ有リノモノニ觀察スル (betrachten) モノナリ之ニ反シ實地的社會學ハ行爲ニ向ツテ其ノ標準ヲ指シ示スモノナリ。

而シテ自然科學ナルモノハ上述ノ社會科學ト相合シテ學問ノ全部ヲ形成スルモノナリ、自然科學モ亦社會科學ト同シク二大部門ニ分レ、一ハ純理的社會科學ニシテ吾人ニ事實ノ實在ヲアリノモノニ説明シ、一ハ實地的社會科學ニシテ、純理的社會科學ガ教フル所ノ智識ヲ應用シテ以テ、吾人人類ガ自然界ニ於テ有スル目的ヲ實行スルノ道ヲ指示スルナリ。

此ノ如ク純理的及ヒ實地的ノ二大部門ニ分ル、ノ點ニ於テハ、社會科學ト自然科學ト全ク相同シト雖シカモ實地的社會科學ノ性質ハ實地的自然科學ト其ノ本質ヲ異ニスルモノナリ。實地的自然科學ニ於テ研究スル所ノモノハ技術ニ關スル問題ノ解釋ニ在リ、即チ化學者ハだいなまいモノ物質及ヒ其ノ性質ヲ研究シ、工藝學者ハ如何ニセバ之ヲ實地ニ應用シテ人生ノ利益ニ供シ得ベキカヲ研究ス——然レトモ是等ノ智識ガ實際ニ利用セララルニ當リテハ、其ノ利害得失ハ彼等自然科學者ノ敢テ關係スル所ニ非ラズ。即チ技師ノ手ニ入りテ有益ノ事業ニ供セララルト、虛無黨ノ手ニ入りテ破壊的ノ事ニ用ヒラルトハ更ニソノ關スル所ニ非ラズ。實ニ實地的自然科學ハカク爲ス可シト云フノ問題ニ付イテ研究スルモノニ非ラザルナリ。シカルニ實地的社會科學ハコノ問題ニ付イテ研究ス。人類ノ思想ハ其ノ行爲ノ得失ヲ

判斷シ其ノ意思ノ善悪ヲ決定スベキ一定ノ標準アラシムコトヲ希望スルモノナリ。而シテ此ノ希望ニ應ジテモハハ即チ實地の社會科學ニシテ其ノ研究ノ目的トスル所ハ人類ノ行為及ヒ意思ニ向ツテ最高ノ標準タルモノハ人類が實際ニ於テ或ル行動ヲ爲スニ當リ其ノ各場合ニ於テ之カ指南車タルモノナリ。ナリ。發見セントスルニ在リ。

是ガ故ニ純理的社會科學ハ社會ノ狀態ニ付キ單ニ事實ノ叙述説明ヲ爲スニ過キザレトモ實地の社會科學ハ一定ノ社會狀態ニ付キ利害得失ノ辨ヲ爲シテ之カ批評ヲ致テスルモノナリ。而シテ一定ノ時及一定ノ場所ニ於ケル社會狀態ハ如何ニシテ最高ノ理想ニ合スルニ至ルベキヤノ手段方法ヲ指示スルモノナリ。カクテ實地の社會科學ノ研究問題ハ三部門ニ分ルハナリ。即チ第一理想第二批評第三技術コレナリ。シカルニ實地的自然科學ノ内容ハ只ダ技術ノ一アルノミ。

カクノ如ク實地の社會科學ノ研究問題ハ三部門アルカ故ニ之ニ應ジテ其ノ分科モ亦三ツニ分ツコトヲ得ベキナリ。乍併事實上又便宜上ノ理由ニヨリテ通常ニ分科ニ分タル倫理學(Philosophy)及ヒ政治學コレナリ。

倫理學ニ於テイテ研究スル所ハ實地の社會科學ノ部門中第一、二、掲ケタル理想ノ部門ニ在リ。

第二ノ批評的ノ部門ハ獨立シタル分科タルコト能ハズ從ツテ獨立シタル名稱アルナシ。蓋シ一般ニ社會現象ノ批評ヲ爲スニ當リテハ如何ニセバ其ノ社會ノ狀態ヲシテ倫理學ノ指示スル理想ニ到達セシメ得ルヤノ手段ト伴フモノナルカ故ニ實地の社會科學中第二ノ部門タル批評的ノ部門ハ自ラ第三ノ部門タル技術的ノ部門ト密接ニシテ政治學ト關係ヲ有スルニ至リ。二者相合シテ一分科トシテ之ヲ政治學トシテ政治學コレナリ。云ハバ實地の社會科學中批評及ヒ技術的ノ部門ニ屬スルモノナリ。

人或ハ實地の社會科學ノ二分科ニ名ケルニ他ノ名稱ヲ以テスルコトヲ得ベシシカレトモ事實ニ於テハ以上吾人ノ述べタル分類ノ外ニ脱スルコトナカレベキナリ。人類ノ行為ヲ支那スルノ科學ハ必ス二ツニ分ルベキモノナリ。其ノ一ハ人類ノ意思ニ關スルモノニシテ倫理學コレナリ。他ノ一ハ人類ガ其ノ意思ヲ事實トシテ實際ニ行ハントスルニ當リテハ何レノ處ニ於テ如何ナル方法ヲ採ルベキヤヲ論スルモノニシテ政治學コレナリ。自然科學ハ其ノ純理的タルト將々實地的タルトチ間ハズカクカクセサルベカラズト云フノ問題ト關係セズ。只ダソノ研究スル所ハ單ニ原因結果ノ關係ニ關スル問題ニ在リ。而シテ研究方法ノ益々精巧妙ノ度ヲ増スニ從ヒ自然科學ノ研究範圍ニ屬スル研究ハ益々明確確實ヲ加ヘ從テ所說矛盾ヲ統一チ欠クガ如キコト甚々少キニ至ルナリ。自然科學ノ大勢ハ其ノ範圍ヲ人智ノ認識シ得ベキ所ニ於テ限定シ彼ノ形而上ノ考察ヲ致テセズ又所謂原因ノ原因ニ付イテ論究スル所ナカラシカ。其ノ所說正ニ統一ニ歸スベキモノナリ。

社會科學ニ於テハ之ニ反ス。只ダ純理ノ部ニ屬スルモノハ社會ノ狀態ニ付キ原因結果ノ理ヲ明ニスルヲ以テ目的ト爲スモノナルカ故ニ自然科學ト等シク所說統一ニ歸シ得ベシト雖實地の社會科學ニ至リテハ敢テ然ラザルナリ。社會ノ理想ニ關シテハ二人主義アリテ根本的ニ其ノ主義ヲ異ニシ永ク相容レサルモノアリ所謂茲ニ二人主義トハ個人主義及社會主義ヲ云フナリ。

個人主義ノ主義スル所ハ一個人ハ獨立ノ目的ヲ有スルモノナリト云フニ在リ。即チ社會ニ於ケル團體——家族組合國家國家連結——ハ凡テ個人ガ其ノ獨立ノ目的ヲ達スルガ爲メノ手段タルニ過キザルモノニシテ是等ノモノハ個人ノ目的ヲ達スルガ爲メ又個人ノ意思ニ依リテ成立シ存在シ又々存續セラルモノナリト云フニ在リ。而シテ社會主義

「ナルモノハ全ク個人主義ニ反對スルモノニシテ、其ノ主張スル所ノ倫理上根本ノ理想ハ、社會ヲ以テ自己獨立ノ目的ヲ有スルモノト爲シ、個人ハ社會全體ノ目的ノ爲メニハ其ノ手段ヲ以テ犧牲スルモノナリト云フニ在リ。」

今マ是等ノ二主義タルヤ、只ダ定理トシテ互ニ對立シ、其ノ性質タル只ダ信仰ヲ以テ本ト爲シ、其ノ眞偽如何ハ決シテ證明セラレ得ベキモノニ非ラザルナリ。カクテ吾人ハ論理上ノ矛盾ニ遭逢セサルヲ得ザルナリ、何トナレバ吾人ニシテモシ社會ノ狀態ニ付キテ其ノ理想トスベキ根本ノ基礎ヲ尋ズント欲スル時ハ、個人主義社會主義ノ何レカ果シテ可ナルヤニ付キ智識ヲ以テ之ヲ決定スルノ要アルナリ、而カモコレト同時ニコノ兩主義ノ中果シテ何レカ可ニシテ何レカ非ナルヤヲ決定セントスルニ當リテハ只ダ之ヲ獨斷的ニ決定スルノ外途ナクレバナリ。

吾人ノ或ハ社會主義者タリ又ハ個人主義者タルハ、恰モ吾人が或ハ有神論者タリ將タ無神論者タルト全ク相同シ、吾人ノ有神論者タリ將タ無神論者タルハ、吾人が神ノ存在ヲ證明シ得ルニ由ルニ非ラズ、又タ其ノ存在セサルヲ證明シ得タルニ由ルニ非ラズシテ、只ダ吾人ハ神ノ存在ヲ信シ又信セザルニ由リテコノ差別ヲ生ズルナリ。——只ダ吾人ノ「實際的ノ理性」ノ如何ニヨリテ此ノ如キ差別ヲ生ズルニ過キザルナリ。個人主義及ヒ社會主義亦之ト相等シ、コノ二主義ノ眞否ハ固ヨリ實際的ニ證明サレ得ベキモノニ非ラズ、又辯駁サルベキモノニ非ラズシテ只ダ吾人ハ吾人が主觀的ニ眞理ナリト信ズルガ故ニ之ヲ定理トシテ認識シ、カクテコノ二主義ハ吾人ノ意思及ヒ行爲ヲ支配スルナリ。

或ル時代或ル年代ハ以上述べタル如キ理由ニヨリテ或ハ一方ノ個人主義ニヨリテ支配セラレ、或ハ一方ノ社會主義ニヨリテ支配セラレ、固ヨリ其ノ時代ニ於ケル個人ノ凡テ皆同一ノ主義ニヨリテ支配セラレサルハ自然ノ理ナリ。

此ノ如ク社會ニ關スル理想ハ定理タルノ性質ヲ有シ、其ノ眞否ハ推測トニヨリテ證明シ難キ性質ノモノナリト雖、之ヲ以テ實際的社會學ハ、純理的社會學ト相違シ、一科ノ科學タルコト能ハサルモノト爲スベカラズ——自然科學ニ於テ實際的純理的ノ二分科アルガ如ク、社會科學モ亦實際的及純理的ノ二分科ニヨリテ成立セルナリ。

サレド所説ノ統一ハ只ダ純理的社會科學ニ於テノミ之ヲ望ミ得ベシ。倫理學的政治學的ノ觀察ヲ加フルニ至リテハ、論理上必ス分派ヲ生ズルコト明カナリ。此ノ如ク實際的社會科學ニ於テハ、定理的ノ性質ヲ帶フルニ至ルカ爲メ、コノ點ニ於テ純理的社會科學ト實際的社會科學トノ間ニハ大ナル差別ヲ生ズルナリ。即チ社會ノ狀態ニ關スル一問題ニ付キ純理的ノ研究ニ於テハ所説全ク歸一シタリトスルモ、モシ其ノ研究ノ結果ヲ以テ實際ニ應用セントスルニ當リテハ、必ズ社會狀態ニ關スル理想ノ問題ヲ伴フ、而シテ是等ノ理想タルヤ彼ノ純理的社會學ノ研究ノ結果ト何等ノ關係ナキモノタル也。

此ノ如ク實際的社會學ト純理的社會學トハ全ク其ノ學問上ノ性質ニ於テ相異ルト雖、シカモ其ノ研究ヲ爲スニ當リテハ、彼我ノ間、極メテ密接ナル關係アルヲ見ルナリ。

實際的社會學ニ於テ社會ノ狀態ニ付キ之ヲ詳論シ指導セントスルニ當リテハ、只ダ純理的社會學ニ於テ研究セシ結果、即チ社會狀態ニ關スル智識ヲ其ノマヽニ眞理ト假定シテ採用スルナリ。

實ニ倫理學ノミナラズ、政治學ニ於テモ、純理的社會學ノ研究結果ヨリ其ノ智識ヲ供セラル、コト少カラズ。倫理學ニ於テ研究セシ理想ヲ實際ニ行ハントスルニ當リテハ、純理社會學ハ實際社會學ニ向ツテ誠ニ欠クベカラサル關係ニ立ツモノナリ。實際社會學ハ純理社會學ノ助ヲ假ルニ非ラザレハ、其ノ問題ヲ解釋スルコト能ハサルモノナリ。

之ニ反シ純理的社會學ハ實際的社會學ノ援助ヲ要スルモノニ非ラズシテ、全ク獨立シテ

自ラ成立シ得ル性質ヲ有スルモノナリ。思フニ純理的社會科學ハ社會現象ニ關シ原因結果ノ法則ヲ研究スルヲ以テ目的トナス。シカルニ原因ノ原因ハ遂ニ窮極スル處コレナキモノ何故ナル疑問ハ休止セザルモノDie Ursache des Warumagensナルカ故ニ社會ニ關スル純理ノ研究ハ遂ニ休止スルノ日アラザルナリ。而シテ社會現象ノ原因結果ノ理ヲ探究スルハ其レ自身ニ於テ自己獨立ノ目的ヲ有スルモノニシテ其ノ研究ノ結果ガ人類ノ目的ヲ遂行スル上ニ應用サルベキモノナルヲ否ヤハ敢テ願ルノ要アラザルナリ。或ル特定ノ事件ニ付キ其ノ原因結果ノ關係ヲ明ニセントスルノ歴史家及ビ抽象的研究方法ニヨリテ眞理ヲ研究シツアル者ハ其ノ研究ヲ爲スニ當リ全ク自己ノ權利アリト爲スト雖亦實ニ然ルナリ。

純理的社會科學ノ研究タル恰モ礦物學ニ於テ礦物ノ研究ヲ爲スニ當リテ其ノ研究ノ結果ガ人世ノ用ニ供セラルト否ヤハ全ク關知セザルト同一ナリ。

夫レ此ノ如ク純理的社會科學ハ只ダ智識ヲ目的トスルモノニシテ實地ノ用ニ供セラルト否ヤハ全ク關係セザルモノナリト雖シカモ實地の社會學ニ於ケル諸種ノ問題即チ批評的技術的ノ問題ヲ解釋スルニ當リテハ——必然トハ云ハザレトモ——之ニ向ツテ材料ヲ供給スルモノナリ得ルナリ。

純理的及實地の社會科學ノ本質兩者ノ差異關係等專ホ以上ヲ以テ説キ盡シタリト信ズ。  
(Sozialökonomik, S. 4 ff.)

小野澤博士ハ國家諸學ヲ分チテ純理學ト應用學トニト爲シタリ。コレビ—ちるノ分類ト只ダ名ヲ異ニシテ實ヲ同ウスルモノ也。博士ノ説明ハ左ノ如シ。

純理學ノ目的トスル所ハ法則ノ發見ニアリ現狀ノ記述説明ニアリ應用學ノ目的トスル所ハ純理學ノ結果ヲ利用シ吾人ノ目的ヲ達スル方法ヲ研究スルニアリ凡テ現象ニ關ス

ル法則ハ其現象ノ何タルヲ論セス相抵觸スベキ答ナシ何トナレバ法則ハ現象中ニ存スル秩序ニ外ナラズシテ屬礙アラハ秩序ナク現象ヲ解スルコト能ハス到底學ノ成立チ告アル能ハザレバナリ故ニ純理學ニ於テハ其所統一一ニ歸スルヲ原則トス若シ國家ニ關スル純理學ニシテ所統一一チ欠カバ是レ當該學科ノ發達ノ幼稚ナルカ故ノミ之ニ反シテ應用學ニ至ツテハ此點ニ付テ自然の諸學ト社會的諸學トノ間ニ差アリ自然の應用學ハ技術ノ問題アルモ理想ニ關スル議論ナシ故ニ技術ノ最良方法ニ關シテ亦歸一ノ傾向ヲ有セザルベカラズト雖モ社會的應用學ハ之ニ異リ理想ノ研究ヲ以テ發起點トナス理想ハ多少信仰ノ性質ヲ有シ信仰ハ觀察ト推理トノ外ニ於テ各人ニ特別ナル傾向ヲ以テ各人ヲ多少先天的ニ支配スルモノナリ故ニ社會的應用學ノ決論ニシテ一致セザルコトアルモ必ズシモ之ヲ當該學科ノ幼稚ナルニ歸シ難シ(政治學大綱一七一—八頁)

### 第三節 經濟學ノ定義

經濟學トハ經濟ノ社會的方面ヲ研究スルノ學ナリ。

經濟行爲及ヒ經濟ノ何物タルヤハ吾人既ニ之ヲ述ヘタリ。シカルニ此ノ經濟ニ自然の方面ト社會的方面トノ別アルコトハ茲ニ一言スルノ必要アリ。

夫レ人類ノ經濟タル單ニ人ト物トノ關係ニ止ルコトアリ或ハ管ニ人ト物トノ關係ニ止マラスシテ人ト人トノ關係ヲ發生スルコトアリ。而シテ經濟カ

人ト物トノ關係ニ止マル間ハ其ノ行為タル自然の方面ヲ有スルニ止リ未ダ社會的方面ヲ有セスト云ヒモシ人ト人トノ關係ヲ生スルニ至レハ其ノ行為タル自然方面ヲ有スルト同時ニ社會的方面ヲ有スト稱ス。人往々經濟行為ニ技術ノ方面ト經濟ノ方面トノ別アリト云フハ畢竟スルニ此ノ點ヲ指スニ非ラサト思フ。ソハ兎モ角モ經濟ニ上述ノ二方面アルハ争フ可カラス而シテ今マ其ノ自然的方面ヲ研究スルハ自然科学ノ範圍ニ屬シ其ノ社會的方面ヲ研究スルハ社會科學ノ一分科タル經濟學ノ任務タリ。

**經濟行為ノ二方面**

經濟行為ニ技術ト經濟トノ二方面アリトハ普通ノ教科書ニ往々論述シアル所ナリ。今マ左ニ二二ノ例ヲ掲グ。

●●●●  
わぐな一ハ次ノ如ク論ジタリ。

In jeder Wirtschaft sind nach der richtigen, hierin Bahn brechenden und Grundlegenden Lehre Hermann's zwei in enger Beziehung stehende, aber sehr verschiedene Seiten zu unterscheiden: die technische und die (im engeren Sinne) ökonomische, oder Technik und Ökonomie und dementsprechend zweierlei Tätigkeiten der wirtschaftlichen Person. Die technische Tätigkeit in der Wirtschaft geht darauf aus, die erforderlichen wirtschaftlichen Güter überhaupt, in richtiger Qualität und Menge (Hermann erwähnt dies Moment nicht, es gehört aber hierher), am rechten Orte, zu rechter Zeit für die Bedürfnisbefriedigung zu beschaffen. Die ökonomische Tätigkeit erstreckt Beschaffung und Verbrauch der wirtschaftlichen Güter möglichst nach dem Principe der Wirtschaftlichkeit. (Grundzüge, S. 350)

即チわぐな一ノ説ニ據レバ「經濟ニ於ケル技術的行為トハ其ノ必要トセル經濟上ノ財ヲ生産スルコトヨリ起ルモノニシテ之ニ反シ經濟(うゑ)るる(さ)ふ(さ)ニ於ケル經濟的行為(ぶ)の(み)つしせて(ち)ひ(か)い(こ)トハ出來得ベキガケ經濟主義ノ原則ニ從ツテ經濟上ノ財ヲ生産出シ消費スルコトヨリ起ルモノトセルナリ。

此ノ如キ説ハ多クノ學者ノ採用スル所ナレドモ予ハ之ヲ採ラズ。

●●●●  
今日ノ法律制度經濟組織ノ下ニアツテハ有價的ノ關係ニヨツテ得ヤウト欲スルトコロノ財ニ對シテ他ノ財又ハ勞動ノ給付ヲ與ヘルカ又ハ自ラ他ノ財ヲ消費スルカ又ハ勞動ヲ施サルケレバナラナイ(コ)ノ一旬ノ眞意ハ次ノ如クナルベシ。今日ノ法律制度經濟組織ノ下ニアツテハ有價的ノ關係ニヨリテ財ヲ獲得シナケレバナラヌ即チ得ヤウトスル所ノ財ニ對シテ……シナケレバナラヌ」給付ニ對スル反對給付ノ關係ヲ有シテ居ル所ノ行為ヲ稱スルノアル之ヲ得ルカ爲ニ少シモ費用ヲ費ス必要ガナク又或ハ之ニ換ヘテ他ノ財ヲ與ヘル必要ノ無イ物ヲ得ルコトハ經濟行為ヲ無イ蓋シ經濟行為トイフトキハ單純ニ技術上新ラシキモノヲ造リ出シ又ハ之ヲ尋子出スコトヲ云フノデハナイ詳シク云ヘバ技術ト經濟トノ差異ハ單ニ所謂經濟ノ本則ナルモノニヨツテ支配モラル、ノ有無ヲ言フノデハナイ管ニ新ラシイモノヲ作り出スト云フハ技術上ノ製造デハアルケレドモ經濟行為デハナイ同一ノ事ガ單ニ技術上ノ行働タルニ止ラナイテ又經濟行為トナルト云フニハ之ヲ作り出シ獲得スルニ方テ獲得ト云フ方法ヲ用ヒ非ケレバナラナイコトヲ要スル詳シク云ヘバ之ヲ技術上テ獲得スルニ方リ有價的ニ他ノ財ヲ費ヤスカ又ハ勞動ノ給付ヲナシテ先ヅ之レヲ自己ノ占有ニ歸スルト云フ手續ヲ要スルニ至テ始メテ經濟



濟行爲トナリ同一行動ニ經濟上ノ側ト云フモノカ顯ハレテ來ルノデアアル國民經濟原論  
一六——一七頁。

氏ハ『獲得ト云フ方法ヲ用フルト否トニ依リテ』同一行動ニ經濟上ノ側ト云フモノ「起ルト爲  
セリ。而シテ茲ニ『獲得』ト云ヘルハ『有價的獲得又ハ』他ノ財又ハ勞働ノ給付ヲ與ヘルカ又ハ  
自ラ他ノ財ヲ消費スルカ又ハ勞働ヲ施シテ獲得スルノ謂ナリ。  
予ハ元來經濟行爲ノ意義ニ關シテ博士ト根本的ニ意見ヲ異ニスルモノナルカ、一定ノ行動  
ニ就イテ經濟上ノ側ト技術上ノ側トヲ區別スルノ標準ニ至リテモ、博士ト説テ異ニセリ。  
例ヘバ、るびんそんが自己ノ用ニ供ズルカ爲メニ衣服ヲ裁縫シ食物ヲ調理スルカ如キハ、手  
ノ説ニ從フモ博士ノ説ニ從フモ、ソノ經濟行爲ト看做スニ至ツテハ一ナリ。然レドモ、ソノ  
行爲タルヤ單ニ人ト物トノ干渉ニ止リ進ンテ人ト人トノ關係ヲ成スニ至ラザル間ハ予ハ  
之ヲ以テ單ニ技術上ノ方面ヲノミ有スルノ經濟行爲ト爲ス。シカルニ博士ノ説ニ從ヘバ  
コノ行爲タル『自ラ他ノ財ヲ消費スルカ又ハ勞働ヲ施ス』ノ行爲タルガ故ニ、經濟上ノ側ヲ有  
スル經濟行爲トナル也。

經濟學ノ定義ニ關スル諸學者ノ説

金井博士ハ其ノ主要ナルモノヲ列記シ且ツ之ガ批  
評ヲ下サレタリ。之ヲ左ニ轉載ス。

The Science, which treats of the production and distribution of wealth, so far as they depend upon the laws  
of human nature (John Stuart Mill, Principles of Political Economy.)

ト爲セリ即チ人性心理ノ法則ニ據レル範圍内ニ於テ富ノ生産ト分配トヲ攻究スル學問  
ヲ經濟學ト稱ストノ義ナリ是レ多少すみす氏ノ觀念ニ優ル所アレドモ、其ノ書中  
ニ實際論シナガラ定義ノ中ニ富ノ交易ヲ舉ゲザルハ、聊カ遺憾ナキ能ハザル所ナリ又單

ニ心理上ノ法則ノミニ據レル範圍内ニ於テ生産分配ヲ講究スルニ過ギサルモノナリト  
爲スハ少シク穩當ナラザルガ如シ  
ヘンリ、いふお、いせつ、さ、氏ノ定義ハ、みる氏ノ定義ニ富ノ交易ヲ加ヘタルニ過ギズシテ完  
全ナルモノト謂フヲ得ズし、じ、う、わ、つ、く、氏ノ定義モ亦同シ獨リま、い、し、や、る、氏ハ同シク英  
國人ナレドモ頗ル異ナリタル定義ヲ與ヘ經濟學ノ名稱スラモ多數ノ英國學者ト異ナレ  
ルモノヲ以テ適當ナリト爲セリ其ノ定義ニ曰ク

Political Economy, or Economics, is study of man's actions in the ordinary business of life; it inquires  
how he gets his income and how he uses it (Alfred Marshall, Principles of Economics, Book I., chapter I.)

ト即チ經濟學ハ居家處世ノ日常生活ニ對スル人々ノ活動ヲ論シ人々カ如何ニシテ其ノ  
收入ヲ獲得シ如何ニシテ之ヲ使用スルヤヲ攻究スルモノナリトノ意義ヲ明カニスルモ  
ノナリ然レドモ此定義ハ一箇人ノミヲ眼中ニ置キ有機體トシテノ國家社會ヲ度外視ス  
ルモノナリト謂フベシ經濟學ハ國家社會全體ニ關スル經濟現象ヲ攻究スルモノナレバ  
ま、い、し、や、る、氏ノ定義ハ、箇人ノミニ偏シタルノ缺點アルモノト謂ハザルベカラズ  
英人リ、か、い、ど、い、ま、る、さ、す、ノ、二、氏、ハ、經濟學上頗ル重大ノ關係ヲ有スル人ナレドモ別ニ斯  
學ノ定義トシテ與ヘタルモノナシ  
之ヲ要スルニ英國派ノ經濟學者カス學ニ與ヘタル定義ハ何レモ多小ノ缺點アルヲ免レ  
ズ

獨逸はいでるべるぐ大學ノ教授タリシハ、い、る、は、い、り、つ、ひ、ら、う、氏ノ定義ニ曰ク

Die Wissenschaft von den wirtschaftlichen Angelegenheiten des Staates, oder von der Befriedigung  
sämtlicher Bedürfnisse in demselben vermittelt sachlicher Güter, ist die politische Oekonomie, öffentliche  
Wirtschaftslehre. Staatswirtschaftslehre im weiteren Vorverstande (K. H. Rau, Grundsätze der Volkswir-

hschaftslehre, §. 3.)

ト即チ經濟學トハ國家ノ經濟業務ニ關スル學問ニシテ國家内ニ存在スル總テノ欲望ヲ有形ノ財貨(貨物)ニ據リテ満足セシムルノ手段方法ヲ攻究スルモノナリトノ意ナリ此定義ハ單ニ有形ノ財貨ニノミ注目スルノ缺點アルノミナラズ國家ノ經濟政策ニノミ重キヲ置クノ嫌アルモノナレバあだむす氏ノ定義ト同一ノ非難アルヲ免レズ

歴史學派ノ泰斗ルシふる氏ノ定義ニ據レバ經濟學ハ  
Lehre von den Entwicklungsgesetzen der Volkswirtschaft, des wirtschaftlichen Volkslebens (Wilhelm Roscher, Grundlagen der Nationalökonomie, §. 16.)

ナリト即チ國民經濟ノ發達ニ關スル法則國民ノ經濟生活が如何ナル進化ノ法則ニ據ルモノナルヤヲ攻究スルモノナリトノ意ナリ然レドモ經濟學ハ國民經濟發達ノ法則ノミヲ攻究スル學問ニ非ズ經濟歴史的ノ攻究ハ勿論新學ノ範圍内ニ屬スベキモノナルニ相違ナシト雖モ是レ元來其ノ一少部分ナルニ過キザレハ「あつしえ」氏ノ定義ハ歴史的研究ヲ重ンズルノ餘リ遂ニ他ノ必要ナル觀察點ヲ顧ミザルニ至レルモノナリト謂フベシふわんしえ「る氏ノ定義ニ曰ク

Die politische Oekonomie hat den Zusammenhang der Privatwirtschaften unter einander und ihren Zusammenhang zu grösseren Wirtschaftsgemeinschaften (Staat, Gemeinden, u. s. w.) nach Entstehung und Beschaffenheit darzustellen, und Regeln für die zweckmässigste, den Ansprüchen der erreichte und zu erreichenden Kulturstufe entsprechende, Ordnung dieser Verhältnisse aufzustellen (H. v. Scheel, Geschichte der Politischen Oekonomie, §. 1, in Handbuch der Politischen Oekonomie von G. v. Schönberg.)

ト是レ定義トシテハ餘リ冗長ニ過キ錯雜ヲ極ムルノ缺點アルヲ免レズ  
ふわんしえ「る氏曰ハク

Die Wirtschaftstheorie ist diejenige Wissenschaft, welche zum Gegenstand hat die Beziehungen, die zwischen den Menschen aus ihrer wirtschaftlichen Thätigkeit hervorgehen (A. v. Held, Grundriss für Vorlesungen über Nationalökonomie, §. 4)

ト是レ經濟學ヲ以テ經濟的活動ヨリ生ズル人々相互ノ關係ヲ講究スルモノナリトノ意義ニシテ經濟的活動ノ字義ヲ定メタル後ニ奧フレバ解釋ニ苦ムが如キコトナク頗ル正鵠ヲ得タルニ近キ定義ナレドモ經濟學ノ定義ヲ奧フルニ當リ其ノ中ニ意義ノ頗ル解シ難キ經濟的活動ヲフ文字ヲ突然使フが如キハ「るど氏ハ實際之ヲ爲セリ(論理學ノ原則ニ照シ少シク穩當ナラザルが如シ

伯林大學ノ教授ぐすたふし「る氏ハ經濟學ヲ以テ  
Die Wissenschaft der wirtschaftlichen Seite eines sozialen Körpers (Gustav Schmoller, Vorlesung über allgemeine Theorie der Nationalökonomie in Sommer Semester, 1889.)

即チ社會ノ經濟的方面ニ關スル學問ナリト爲セリ此定義ハ所謂語簡ニミテ意餘アルモノニシテし「る氏ノ講義ヲ聽キ其ノ著書ヲ讀ミタル者ニハ頗ル味フベキ深長ノ意義アルモノナレドモ定義トシテハ餘リ簡單ニ過キテ解シ難キノ嫌ナリ  
はれ「大學ノ教授「るど氏ハ經濟學ヲ分チテ三大部門ト爲シ各部門ノ定義ハ之ヲ奧ハ居レドモ (F. Conrad, Grundriss zu den Vorlesungen über Nationalökonomie, §. 1. 參看) 全部ニ對スル定義ハ別ニ之ヲ奧ハ居ラズ故ニ今之ニ論及セズ  
げつちんげん大學ノ「る教授ハ曰ク

Der Gegenstand der Nationalökonomie ist derselbe, welcher aus der Haushaltung der einzelnen Familien hinübergetragen wird in die Gesamtangelegenheiten einer Nation (Gustav Ohm, Grundlegung der Nationalökonomie, §. 4.)

ト此定義トあつるふゞつゝいれる氏ノ定義 (Die Wissenschaft von der Volkswirtschaft als dem Organismus der Einzelwirtschaften staatlich organisierter Völker, ist die Volkswirtschaftslehre, Nationa-  
 Ökonomik, oder Politische Oekonomie) トハ共ニ他ノ定義トハ少シク異ナリ經濟學ヲ有機的ニ  
 活動トシテ觀ルコト多キノ點ニ於テ頗ル進歩セル思想ニ據レルヤ誠ニ明白ナリト雖モ  
 章句極メテ難澁ニシテ解シ易カラサルノミナラス定義中ニ挿入スヘカラサル語辭ヲ挿  
 入スルノ缺點アリ故ニ定義トシテハ未ダ以テ完全ナルモノト爲スヲ得ス  
 予ノ定義ハふむんへるどノソレト酷似ス。金井博士ハへるどノ定義ヲ批評シテ「經濟的活  
 動ノ字義ヲ定メタル後ニ與フレバ解釋ニ若ムガ如キコトナク頗ル正鵠ヲ得タルニ近キ定  
 義ナレドモ經濟學ノ定義ヲ與フルニ當リ其ノ中ニ意義ノ頗ル解シ難キ經濟的活動ヲ文  
 字ヲ突然使フガ如キハ……少シク穩當ナラサルガ如シ」ト論セラレタリ。思フニ余ハ經濟  
 學ノ定義ヲ與フル以前ニ於イテ既ニ經濟行爲及ヒ經濟ノ意義ヲ詳述シタルバ此ノ如キ非  
 難ヲ免ルコトヲ得ベキカ。

從來ノ學者ガ下セシ經濟學ノ定義ノ批評

猶ホ序ヲ以テ更ニ二三學者ノ定義ヲ附記シ  
 テ之ヲ畧評セン。

●●●●●  
 金井博士ノ定義ニ曰ク

經濟學ハ人類ニ關スル學問ニシテ經濟的活動ニ必要ナル財貨ノ方面ヨリ一切ノ社會現  
 象ヲ攻究スルモノナリ。社會經濟學一四六頁

「財貨ノ方面ヨリ」ト云ヘル文字ハ曖昧タルヲ免レズ又「一切ノ社會現象」ト云フ時ハ廣漠ニ  
 失スルノ講アルベシ。猶ホ後節ニ於イテ之ヲ詳論ス。  
 モシ夫レ小林丑三郎氏ノ定義ニ至ツテハ余輩ノ定義ト甚シキ差異アリ。余ハ讀者ヲシテ  
 誤解セザラシメンガ爲メニ其ノ議論ノ大部分ヲ左ニ轉錄ス。

氏ハ先ツ經濟學定義ノ沿革ト題シテ次ノ如ク論シタリ。  
 抑モ經濟 (Economy) ナル文字ハ希臘ニ於テ家計ノ管理殊ニ一家歳入ノ準備及ヒ管理ノ意  
 義ニ使用セラレタリシカ其ノ家計上ノ歳入ヲ取得シ之ヲ使用スルニ當リ力メテ勞力及  
 產物ノ損消ヲ避クルヲ以テ必要ナリト認メラレ之カ爲メ此ノ文字ハ最少ノ出費ニ依リ  
 所望ノ結果ヲ得ントスルノ主義及方法ヲ示スコトトナリ生産分配及消費等ニ直接ノ關  
 係ヲ有セサル意義ニモ使用セララルトニ至レリ例ヘハ吾人ノ今尙ホ往々耳ニスル力ノ經  
 濟若クハ時ノ經濟ト云ヘル如キハ則チ是レナリ然レトモ此ノ種ノ意義ハ單ニ俗用タル  
 ニ過キスシテ素ヨリ學術上ノ正用ニアラサルカ故ニ余輩今マ深ク追究スルノ要ナルヘ  
 シ然ルニ又タ一家ノ歲計ト政府ノ歲計ト相類似スルモノアルカ爲メ既ニ希臘ニ於テ政  
 府ノ術又ハ金錢事務ヲ表示スル語用トシテ「經濟」ニ對シ政治的經濟 (Political Economy) ナル  
 文字ヲ新用シタルヲ見ル此ノ新用ニ於テハ經濟學ヲ以テ國庫ノ補充ヲ目的トシ並ニ此  
 ノ目的ヲ達スルノ手段トシテ一國ノ産業及貿易ニ周到ナル保護干涉ヲ加ヘ一國ヲ富裕  
 ニスルノ政府術ナリト認メタルモノナリ茲ニ於テ經濟學ハ國家財政上ノ目的ト國民產  
 業上ノ目的トノ二大目的ヲ有スル一ノ政府トナレリト云フヘシ然ルニ之カ反動トシテ  
 十八世紀ノ後半ニ至リ佛國經濟學者レノ氏及ドラリびゑル氏等ノ感化ニヨリ政治  
 的經濟學ナル觀念ハ根本的ノ改革ヲ受ケ政治的經濟學ハ如何ニシテ一國ヲ富裕ナラシ  
 ムヘキヤノ問題ニ答フヘキ職分ノミヲ有スルモノトセラレ自然法派ハ之ニ答ヘテ凡ソ  
 政治家タル眞正ノ職務ハ富ヲ増進スルノ目的ヲ以テ産業及貿易ニ關スル法律ヲ作爲ス  
 ルニ存セス唯タ簡單ニシテ而カモ不變ナル自然法ヲ保障シ其法則ノ侵害ヲ防護スルヲ  
 以テ足レリ何トナレハ富ノ生産ハ政府ニシテ若シ干涉スルコトナクンハ必ス自然ニ最  
 良ノ發達ヲ爲スヘキモノナレハナリト云ヘリ此考案ハ甚タ空漠タルヲ免レサリシカ後

チあだむすみす氏ノ富國策ニ依リテ更ラニ適切ナル敷衍ヲ得タリ氏ハ政治的經濟學ノ  
 二大目的ノ一タル富國ノ政治ニ關シテ政治家ニ對シ自然ニ放任スヘシト云フノ外何等  
 ノ方策ヲモ訓示セズ第二ノ目的タル國庫ニ歲入ヲ豊給スルノ方法即チ財政ノミチ以テ  
 政治家ノ必要缺クヘカラサル政治ナリトシテ之ヲ認メタリ氏ハ經濟ヲ以テ政治ニアラ  
 ストシタルモ爾後經濟ハ政治家ノ術策ニ屬セシテ單ニ自然ニ發起スル現象ナリトセ  
 ラル、ニ至リシカハ經濟學ハ此ノ現象ノ原因及結果ヲ研究スルノ傾向ヲ生スルコト、  
 ナリシハ爭フヘカラサル事實ナリ人口論、地代論ノ如キ之ヲ證シテ餘アリト云フヘシ  
 ニ於テカ政治的經濟學ノ一部ハ術タル歴史ノ意味ヲ失フテ生産、分配、交換ニ關スル自  
 然的行路ヲ研究スル學トナリ他ノ一部タル財政、別ニ諸般ノ經濟、術ト共ニ應用經濟ナ  
 ル題名ノ下ニ屬スル學トナリ斯レハ變革ノ結果トシテ廣義ニ於ケル經濟學ハ學ト術トニ  
 分レ狭義ニ於ケル經濟學ハ術ニアラス學ニヨリテ研究セラレハケル事項及之ニ關スル理法  
 チ指稱スルコトナレリ  
 學ト術トノ區別ハ直説式ト命令式トノ區別ニ外ナラサルコト一般ノ認ムル所ノ如シ故  
 ニ學ニ於テ法則ト稱スルモノハ命令的ノ規則ヲ意味スルニアラスシテ各現象間ニ於ケ  
 ル事實及結果ノ一般關係ヲ意味スルハ勿論ナリトス  
 以上ノ所論ヲ要約スレハ經濟學ハ歴史上ニ於テ今日ハ術ニアラスシテ學トナレリト云  
 フコトヲ得ヘシト云フニ歸ス然ルニ國民經濟學ナル名稱ノ下ニ一國一社會ヲ本位トシ  
 テ經濟現象ヲ觀察シ助長及救濟ノ方法ヲ訓示スルモノト個人經濟學ノ名稱ノ下ニ個人  
 ノ利益ヲ本位トシテ經濟現象ヲ觀察シ個人自利心ノ行動ニ放任スヘキコトヲ訓示スル  
 モノトアリテ名ヲ學ニ假リテ其ノ實ヲ術ニナサントスルノ傾向ヲ有セリ余輩ノ純正經

濟學ハ、單、純、ナル、學、ニ、屬、シ、其、ノ、範、圍、ハ、我、明、ノ、便、宜、上、主、ト、シ、テ、一、國、内、ノ、現、象、ニ、限、ル、ト、モ、  
 外、國、ニ、於、ケ、ル、現、象、及、ヒ、國、内、ニ、於、ケ、ル、現、象、カ、社、會、ノ、上、ニ、將、タ、一、人、ノ、上、ニ、存、シ、如、何、ナ、ル、結、果、ヲ、  
 及、ホ、シ、其、ノ、影、響、並、ニ、一、般、的、傾、向、ハ、如、何、ナ、ル、ヘ、キ、ヤ、チ、解、釋、ス、ル、ニ、存、シ、助、長、及、救、濟、ニ、關、シ、  
 テ、モ、單、之、ヲ、經、濟、上、ノ、現、象、ト、シ、テ、其、ノ、結、果、ノ、社、會、及、個、人、ノ、上、ニ、如、何、ナ、ル、影、響、ヲ、及、ホ、ス、  
 ヤ、チ、研、究、ス、ル、ニ、止、マ、ル、。純正經濟學、八三——八六頁

次ニ經濟學ノ主眼及ヒ定義ト題シテ左ノ如ク論述シタリ。  
 經濟學ノ定義ハ經濟學者ノ數ニ均シトハ嘗テ何人カ戲評セル所ナリ以テ知ルヘシ古來  
 經濟學者ノ現ハル、毎ニ個々各特ノ定義ヲ主張シ區々紛々未タ一定スルコトナキチ宜  
 ナリ初學ノ人ノ力道從ノ方向ニ苦ム者多キヤ然レトモ今マ強イテ此等ニ就キ少異ヲ捨  
 テ、大同ヲ取り更ラニ一般流行スル所ノモノヲ採擇スレハ殆ト相近似セル共通ノ定義  
 ナルモノ無キニアラサルナリ  
 英國學派ノ一般ニ採レル定義ニ依レハ經濟學トハ富ノ生産、交換、分配及ヒ消費ニ關スル  
 學問ナリト云フ(せい、まつ、かる、つ、く、せ)ニなる、みる、おる、か、し、ち、つ、く、氏等而シテ獨逸學派ノ  
 一般ニ採レル定義亦タ經濟トハ貨物ノ生産、流通、分配及ヒ消費ニ關スル學問ナリト云ヘ  
 リ(ろ、つ、し、え、る、み、さ、ほ、ふ、し、ゑ、ん、べ、る、ひ、こ、い、ん、氏等其ノ富ト云ヒ貨物ヲ云フ交換ト云ヒ  
 流通ト云フ用語上稍々廣狹ノ差別アリト云フト雖モ其ノ根本ニ於テ獨逸學者カ英國學  
 者ヲ凌駕スル能ハサルヲ知ルニ足ルト同時ニ歐米一般ニ流行セル所ノ定義先ツ此ノ如  
 シト云フヲ得ヘシ而シテ獨逸學者ノ所謂貨物トハ何ソヤ曰ハク正當人欲ヲ充タスコト  
 ナ得ル物件勞務及關係關係トハ信用得意ノ類ヲ云フナリト英國學者ノ所謂富トハ何ソ  
 ヤ曰ハク交換價格ヲ有スル物件ナリト故チ以テ獨逸學者ノ貨物ハ英國學者ノ富ヨリモ  
 廣義ニシテ英國學者ハ所謂勞力及關係ヲ以テ富其モノト爲サス彼等ハ之ヲ以テ富ヲ成

スノ原因ナリト信セルカ如シ然リト雖モ近代ノ英國學者中富ナル文字ヲ廣用シテ有形  
 形無ノ物件ヲ包含スト主張スルモノモ亦決シテ少ナキニアラヌシテ今ハ殆ト相同シ  
 カラントス其ノ交換ト云フモ流通ト云フモ亦甚シキ相違アルモノニアラサルカ故ニ  
 先ツ以テ二派ノ定義ハ相近似セルモノト云ハサルヘカラス  
 余輩ハ獨逸學者ノ定義ニモ賛成スル能ハサルト同時ニ英國學者多數ノ定義ニモ亦同  
 意スルコト能ハサルナリ何トナレハ其貨物ト云ヒ富ト云フ皆是レ事物其者ノ客觀的表  
 示ニ過キサルノ感アルヲ以テナリ余輩謂フニ經濟學ハ彼ノ物理學若クハ化學等ノ如ク  
 單純ニ物的現象ニ關スル學問ニアラサルナリ此ノ以テ余輩曰ハク經濟學ノ起點ハ人ナリ  
 ト然レドモ余輩ハ之ガ爲メニ經濟學ヲ以テ彼ノ心理學及醫學ノ如ク單純ニ人ニ關スル  
 學問ナリトナスモノニアラズ要ハ心的現象ト物ト關係ハ所謂富又ハ貨物ノ如ク事物其者ニ非ズ又  
 ト云ハントス而シテ此ノ心的現象トノ關係ハ所富又ハ貨物ノ如ク事物其者ニ非ズ又  
 單ニ人欲其物ニモアラズ人欲ト物能トノ關係ヲ抽象的ニ指示スルモノナリト云フノ外  
 ナキナリ  
 ろしえ氏曰ハク貨物ト云フ觀念ハ主トシテ關係的ノ觀念ナリ何トナレバ人欲ニ變化  
 アル毎ニ貨物ノ貨物タル範圍モ亦速カニ必ス相當ノ變化ヲ來タシ貨物ノ比較的重要ヲ  
 變動セシムルモノナレバナリト英國學者中富ニ關シテ此ノ如キ說明ヲナスモノ亦頗ル  
 多シ果シテ然ラバ貨物ト云ヒ富ト云フモ今ヤ實ニ事物其者ノ表示ニアラズシテ漸ク將  
 サニ心ト物トノ相互關係ナリト云フコトニ歸セントス何ゾ斷然蓋テ捨テ、寧ロ至適ノ  
 觀念ヲ表示スベキ文字ヲ採用スルノ便レルニ出テザルヤ茲ニ少數ノ經濟學者アリ貨物  
 又ハ富ナル文字ヲ捨テ、別ニ價格即チ交換ノ學問ナリト主張ス(こんぢヤーク、ほうらーミ  
 リー、ばすちヤ、まくらうど、べるリー氏等)

就中まくらうど氏ハ明カニ經濟學ノ定義ヲ下シテ經濟學トハ交換能即チ「Exchangeability」  
 ナ有スル物件ノ關係ヲ支配スル理法ヲ講スルノ學ナリ勢力カ重學上ノ眼目ナルカ如ク  
 交換能ヲ以テ經濟上ノ眼目トス交換能ニ關係セザルコトハ經濟學ノ範圍ニ入ルベカラ  
 ズ要スルニ經濟學ハ交換ノ學ナリ例ヘバ彼ノ生産ト云ヒ消費ト云フモノ其ノ如何ニシ  
 テ生産スルヤ若クハ如何ニシテ消費セラルヤノ方法及條件ノ如キハ素ト是レ理化學  
 社會學及道徳學上ノ問題ニシテ經濟學ノ關スルトコロニアラズ唯夫レ分業法、大農法、  
 生産方法ノ結果ニヨル產物が市場ニ提出セラレテ交換セラレ若クハ消費ノ結果市場提  
 出ノ生産ニ關シ價格ノ變動ニ影響ヲ及ホスニ至リテ初メテ經濟學ノ範圍ニ關スルモノ  
 ナリト説明セリ是レ經濟學ノ範圍ヲ明畫セントスルノ點ニ於テ及ビ其ノ他ニ於テ正ニ  
 一大進歩ヲ促サシメタル效績決シテ没スベカラズト雖モ經濟學ヲ以テ單ニ交換價格ノ  
 變動ニノミ限ラントスルハ到底狭マキニ失スルモノナルノミナラズ抑モ交換ノ一面ハ  
 生産ヨリ來ル供給ニシテ他ノ一面ハ消費ニ終ルベキ需要ナルカ故ニ生産ト消費トヲ離  
 レテ供給需要ナク供給需要ヲ離レテ交換ナルモノ存在スヘキナシ是レ余カ氏ノ爲メニ  
 切ニ其ノ狹見ヲ惜ム所ナリ好シ此ノ點ニ於テ一步ヲ進ムニ讓ルトスルモ交換價格ノ學問  
 ナリト云フハ經濟學ノ範圍ヲ定メタリト云フ迄ニシテ未タ以テ經濟學ノ職分ヲ示スニ  
 足ラス從ツテ經濟學ニ關スル完全ノ定義ナリト稱スヘカラサルナリ余ハ經濟學ヲ以テ  
 心的現象ト物ト關係トノ關係ト論スルモノナリトナスカ故ニ人欲ト物能トノ關係  
 ナリト云フニ定メ更ラニ進ムテ左ノ如キ定義ヲ下サント欲ス  
 經濟學トハ價值ノ成立變動及消滅ニ關スル理法ヲ論スルノ學問ナリ  
 余ノ所謂價值ハ後段詳論スル所ノ如クまくらうど氏ノ價格即チ交換價格ニ比シテ頗ル



予ノ説ト異ル。今マ此ノ經濟行為ヨリ發生スル現象ヲ經濟現象ト名ケ、而シテ此ノ經濟現象中ニハ自然現象ト社會現象トアリトナシ、經濟學ハ社會現象トシテハ經濟現象ヲ研究スルハ學ト爲シタリ。請フ之ヲ詳述セン。

Die Wissenschaft nun, welche sich zur Aufgabe stellt, diejenige Kategorie der sozialen Erscheinungen zu untersuchen, welche diesem wirtschaftlichen Motiv entsprungen, ist die Socialwirtschaftslehre oder Socialökonomik, die Theildisziplin von den wirtschaftlichen Sozialphänomenen. (Socialökonomik, S. 27—28)

シカラバ氏ノ所謂社會現象ニシテ經濟現象タルモノトハ何レヤ。氏ハ次イテ之ヲ詳論シテ曰ク  
吾人カ物體ヲ支配セントスルノ慾望ハ之ヲ名ケテ經濟的慾望ト云ヒ、其ノ慾望ヲ満足セントノ目的ヲ以テ營ム行為ヲ經濟行為ト云フ、而シテ此ノ行為ノ働キニヨリテ生シタル外界ノ出來事ヲ經濟現象ト云フ。凡テノ經濟現象ハ社會現象ニ非ラズ、從ツテ社會經濟學ノ研究スベキ範圍ニ屬セス。經濟現象ガ社會現象タルガ爲メニハ行為ノ主體ソノモ、經濟的狀態(“wirtschaftliche Lage”)ニ影響スルノミナラズ、此ノ行為ノ主體ト經濟上ノ關係ヲ有スル處ノ主體(“in wirtschaftlichem Contact lebender Subjekte”)ノ經濟狀態ノ影響ヲ及ホス現象タルヲ必要トス。

氏ハ猶ホ之ニ補註シテ曰ク  
るびんそーくるそーノ如ク舊モ社會的關係ヲ有セザル人ノ行為ト雖モ、木ヲ伐リ森ニ持スルガ如キハ、其ノ行為ノ原因タル經濟的慾望ノ満足ニアラガ故ニ、經濟行為タルヲ失ハズ。然レドモ之ガ爲メニ經濟的社會現象ヲ生ズルコトナシ。何トナレバ、ソノ伐木作業ノ行為ハ或ル他ノ人ノ經濟的狀態ニ何等ノ影響ヲ及ボサレバナリ。然ルニ茲ニ人アリ

るびんそんと同所ニ住居スレバ、經濟的社會現象ヲ發シ得ルニ至ル。即チ此ノ二人ノ者ガ經濟上ノ關係ヲ有スルニ至ランカ、一方ノ行為ハ他方ノ經濟的狀態ニ影響ヲ及ボスコトナルナリ。……分業未ダ廣ク行ハレズ、從ツテ商業モ盛ナラザルノ時代及ヒ邦國ニ於イテハ、……經濟的現象ト經濟的社會現象トノ差別甚シ、此ノ如キ時代邦國ニ於イテハ社會經濟學ノ觀察ノ材料トナルベキモノ極メテ少シ。  
シカレニ今日ノ如ク生産者ハ原則トシテ市場販賣ヲ目的トシテ、生産シ、消費者ハ貨物ヲ市場ニ求ムルヲ常トスルガ如キ經濟生活ノ組織ニ於イテハ、經濟現象ト社會的經濟現象トノ區別ハ殆ト其ノ要ナシ。今日ニ於イテハ、經濟行為ニシテ其ノ結果經濟的社會現象ヲ惹起セザルモノ極メテ稀ナリ。

一例ヲ擧ゲテ説明センニ、今マ吾人が爐中ニ石炭ヲ投ジタリトセヨ。コハ一ノ經濟行為ナリ、何トナレバ、コレ或ル物體ヲ支配セントノ慾望ヲ満足セシムルモノナレバ也——予ノ既ニ從ヘバコレ固ヨリ經濟行為ナラズ、何トナレバ、ソノ行為タル熱ト云ヘル財物以外ノモノヲ得ントスルノ慾望ニ出デシモノニシテ、即チ經濟上ノ慾望ヲ満足スルノ行為ニ非サレバ也。氏ハ經濟的慾望ヲ物體ヲ支配セントノ慾望(Bedürfniss nach Herrschaft über die Materie)ト云ヘリ、予ハ財物ヲ自己ノ支配ノ下ニ歸セシメントスルノ慾望ト云ヘリ。一見相同シキガ如クニシテ實ハ大ニ異レリ。石炭ヲ爐中ニ投ズルハ、石炭ヲ支配スルノ行為ナリ、然レドモ石炭ヲ自己ノ所有ニ歸セシムル所以ノ行為ニハ非ラズ。經濟的慾望從ツテ經濟行為ノ觀念ニ就キ、氏ト既チ異ニスル點、コノ一例ニ於イテ甚ダ明瞭ナルガ故ニ特ニ一言ス。本節ニ於イテハ、ソノ實不問ニ附シテ可ナルノ問題ナリ。  
而シテ、吾人が石炭ヲ爐中ニ投ズルノ經濟行為ヲ爲シタル時ハ、其ノ結果トシテ經濟的社會現象ヲ生ズ。何トナレバ、吾人ハ之ニヨリテ石炭ノ貯蓄額ヲ減少スルモノニシテ、從ツ

テ、石炭市場ニ若干ノ影響ヲ及ボシ、石炭生産者、石炭商、石炭消費者ノ經濟ノ狀態ヲ動かス、ニ至レバ也。 [Socialökonomik, S. 27-29]

經濟行為ノ觀念ニ關スル意見ノ相違ハ暫クモ經濟學ノ定義ニ就イテ余ハちりちりト意見ヲ異ニスルコト明カナリ。氏ハ社會的經濟現象ト云ヒ予ハ經濟ノ社會的方面ト云フ、同シキガ如クニシテ實ハ大ニ異レリ。

暫ク一例ヲ舉ゲテ之ヲ論ゼンニ、茲ニ農夫アリ、市場ニ販賣スルノ目的ヲ以テ穀物ノ生産ニ從事セリト想像セヨ。ちりちりノ説ニ從フモ予ノ説ニ從フモ、ソノ經濟行為タルハ一ナリ。乍併ソノ行為ヨリ生ズル現象ハ、果シテ經濟學ノ研究範圍ニ屬スベキヤ否ヤニ至ツテハ、既チ異ニスル也。ち氏ノ説ニ據レバ、ソノ農夫ノ經濟行為ヨリ生ズル一切ノ外界ノ出來事ハ凡テ經濟的社會現象ニシテ、從ツテ經濟學ノ研究物體タリ。シカルニ、余ノ説ニ從ヘバ、ソノ農夫が種子肥料ヲ購買シ或ハ資金牛馬ヲ借り入レ、或ハ労働者ヲ雇イ入レ、或ハ其ノ生産物ヲ販賣スルノ行為等ヲ爲スニ非ラザレバ、穀物生産ト云ヘル經濟行為ニ社會的方面ヲ生ゼザル也。從ツテ經濟學ノ研究範圍外ニ屬スル也。例ヘバ、肥料ハ如何ナル種類ノモノヲ如何ナル程度ニ使用スベキカ、稻苗ハ如何ナル季節ニ如何ニ排列シテ植付スベキカ、害虫ハ之ヲ如何ナル方法ヲ以テ驅除スベキカ、生産物ハ如何ニシテ貯藏シ又ハ如何ニ荷造シテ運搬スベキカ等ノ問題ハ、凡テ應用的自然科學タル農學其ノ他ノ學が解決スルノ問題ニシテ經濟學ノ範圍ニ非ラズ。

ち氏ハ曰ク今日ノ社會ニ於イテハ凡テノ經濟現象ハ社會經濟現象タルニ至レリト。シカラバ、今日ノ社會ニ於ケル經濟現象ノ凡テノモノハ、經濟學ノ研究範圍タルナリ。愚フニ、余ト雖モ、經濟學ノ研究範圍ガ次第ニ擴張セラレツトアルノ事實ヲ認ム。然レモ、余ハ如何ニ社會ガ進歩スレバトテ凡テノ經濟現象ガ經濟學研究ノ範圍トナルヲ信ズル能ハズ。余ノ

信ズル處ニ依レバ、經濟行為少クトモ生産行為ノ半面ハ永久ニ自然的方面即チ人ト物トノ關係ヲ殘存ス。從ツテ之ニ關スル智識ハ、一部ハ經濟學ノ範圍ニ屬スベキモ、他ノ一部ハ必ず自然科學ニ屬スベキ也。試ニ農業ニ就イテ一考スベシ。農業ハ從來久シク孤立生産ヲ保チタリシカ故ニ、從來ノ農業者ノ必要トセシ智識ハ殆ト凡テ自然科學ニヨリテ供給サレタリシ也。然レドモ其ノ孤立生産ヲ脱スルニ從ツテ、經濟學ノ必要益々加ハレリ、コレ農業ノ經營力社會的方面ヲ有スルコト益々多キチ加フルニ由ルナリ。然リ、經濟學ノ研究範圍ガ次第ニ擴張セラレツトアルハ、爭フベカラズ、然レドモ如何ニ社會ガ進歩シタレバトテ、農業經營ニ關スル凡テノ智識ガ經濟學ニヨリテノミ供給サレ得ベシト信ズル能ハズ、是ニ依リテ之ヲ見レバ、人ノ經濟行為ガ如何ニ多ク他ノ人ノ經濟狀態ニ影響ヲ及ボセリトスルモ、モシ其ノ經濟行為ニシテ社會的方面ヲ有セザル限リハ、經濟學ノ研究範圍トナラザル也。其社會的方面ヲ有スルニ至リ而シテ其ノ社會的方面ヲ有スル範圍内ニ於イテノミ始メテ斯學ノ研究物トナル。家婦ガ食物ヲ調理スル、コレ經濟行為ナリ。而シテ其ノ經濟行為タルち氏ノ説クガ如クニ説クバ、社會ノ物價ニ影響スルノ行為タリ。然レドモ、予ノ説ニ從ヘバ單ニ食物ヲ調理スル事ソレ自身ハ、料理學又ハ家政學ノ研究物體タランモ經濟學ノ研究物體タラザル也。

我が國ニ於ケル經濟學一轉ノ時期

我が國ニ於ケル經濟學ハ維新前後ニ於イテ大ナル差異ヲ有スルガ如シ。否ナ寧ロ維新前ハ經濟學未

生前ノ時代ニシテ、日本經濟學史ノ前史ヲ爲スベキモノト云フベシ。而シテ、恰モ維新チ一期トシテ「經濟」ナル文字一變シタルノ觀アリ。維新前ニ在リテハ、所謂經濟トハ國土ヲ經營ミ人民ヲ濟救フノ義、佐藤信淵、經濟問答



凡ソ天下國家ヲ治ムルチ經濟ト云フ、世チ經ケ民チ濟フト云フ義ナリ(大宰純經濟錄)ト云フガ如クニ經濟ヲ解セリ。シカルニ等シク維新前ニ在リテモ維新ニ近ヅクニ從ツテ經濟ノ意義稍々變遷シ現ニ橋本敬簡ノ經濟隨筆ノ如キハ全ク私人ノ經濟ヲ論シタルモノ也。而シテ維新後ニ至リテハ、經濟ヲ以テ經濟民ノ義ニ解スルコト殆ド廢レタリ。而シテ恰モ此ノ經濟ノ意義一轉ノ時期ヲ劃セルモノハ、故田口博士ノ「日本經濟論」(明治十一年)ニアラン。故ニ予ハコノ書ニ見ハレタル經濟學ノ觀念ヲ茲ニ附記スルノ無意味ナラザルヲ知ル。

經濟學トハ何ゾヤ、コレ日本經濟論中第一章緒論ノ說明セントスル所ナリ。而シテ經濟學ノ何物タルヤチ知ランガ爲メニハ「配分」ニ二種アルコト「需要」ノ何者タルヤチ知ルヲ要ス。

「配分」ニ二種アリ、其ノ一チ「自然ノ配分」ト云フ。「宇宙ノ間未ダ人類ヲ生セザルヤ、世界ノ狀況決シテ今日ノ如キニ非ザルナリ、草木之ニ生シ禽獸之ニ居リ、各其性ニ從テ暢茂蕃殖ス、平原廣野滂乎トシテ千里ニ連リ、峻嶺高峰巖然トシテ獨高シ、虎狼蛇蝎ノ類其間ニ横行シ、牛馬犬豬ノ屬亦今日ノ柔順ニ似ズ、澤水氾濫スト雖モ誰カ土堤ヲ築テ之ヲ防ガン、山ニ金鑽アリト雖モ誰カ隧道ヲ穿テ之ヲ採ン、地球ノ表面未ダ嘗テ穿鑿損害セザレザルナリ、……是チ以テ人類ノ未ダ世ニ出ザルヤ、地球ノ表面ハ各自強弱ノ勢ト生出ノ運速トニ從テ配分ノ多少アリ」……之チ名ケテ自然ノ配分ト云フナリ。

シカルニ「養成ノ地成リテ而シテ後人類ナルモノアリ、曠起シテ社會ヲ結ビ、虎狼ヲ深山ニ逐ヒ、雜草ヲ平原ニ刈リ、蛇蝎ヲ水澤ニ虞ス、愛スル所ノ禽獸草木ハ珍トナシテ之ヲ蕃殖シ、惡ム所ノ魚介昆蟲ハ毒トナシテ之ヲ殄滅シ、……社會ノ文運愈々進ンテ自然ノ配分ニ悖ルコト愈々甚シクマ、此ノ人類ノ變形セル世界ノ有機チ有ケテ人性配分」ト云フナリ。

シカルニ、「コノ人性配分」ニハ又タ二種アリ、一チ人性自然ノ配分トナシ、二チ強制ノ配分ト爲ス。「立法ノ目的ハ常ニ此ノ配分(人性自然ノ配分)ヲ自由ナラシムルニ在リト雖モ、コレ自由放任説ノ根本的主義」ソハ暫ク措イテ問ハズ、トモカク「人ノ天性ニ任スルモノ人ノ天性ニ任セザルモノ、其ノ發ル處ノ現象ハ悉ク皆ナ人造ノモノ」ニシテ「共ニ經濟法ノ管理スル所ニシテ經濟學ノ講究スベキ處ナリ」

即チ現象ニハ自然ノ現象ト人爲ノ現象トアルモノニシテ「天ノ發スル所、日月星辰河海山澤皆是レ自然ノ現象ナリ」而シテ「自然ノ現象、宇宙ニ各々一定ノ方位ヲ保ツモノ、コレ「自然ノ配分」ニシテ、之ニ付キ研究スルモノニハ地理學、天文學等アリ。「人ノ發スル所、貨財智識皆是レ人爲ノ現象ナリ」而シテ、人爲ノ現象、地球表面ニ一定ノ位置ヲ保チテ、茲ニ「人性ノ配分」アリ。シカルニ、コノ人爲現象ハ常ニ流動シ、人性ノ配分ハ常ニ變化ス。而シテ此ノ「人爲現象」ノ動靜ノ法ヲ講ズルノ學ハ實ニ經濟學ナリ。

然ラバ人爲ノ現象ハ何ニ因リテ動靜スルヤ、ト云フニ、ソハ人類ノ需要ニ本クナリ。需要トハ、其需ムル所以ノ性ニシテ「人爲ノ現象」ヲ吸引スベキ人間ノ引力ナリ。蓋シ宇宙内ノ物質互ニ相吸引スル所アリ、草木ノ纖維ガ地中ノ水ヲ引キ、硫酸ガ氣中ノ水分ヲ吸フガ如キハ是即チ引力ナリ。「人ノ衣服飲食ヲ需メ、勢力ヲ費シテ之レヲ其ノ身ニ引クハ是レ亦タ宇宙内ノ一分子ガ他ノ分子ヲ吸引スルニ非ラズヤ」……今其心裏裏ニ要求スル所チ督サス之チ督スハ經濟學ノ範圍外ナリ、之チ外部ヨリ觀察セバ許多ノ物質分子其體ニ向テ雲集スルニ外ナラズ、其形狀恰モ地球ノ周圍ニ大氣人畜ノ附屬スルガ如シ。

此ノ如ク「人爲ノ現象」ハ「人々ノ需要」ニ應ジテ、或ハ流動シ或ハ靜止ス。今コノ人爲現象ノ流動シ靜止スル所以ノ理ヲ研究スルモノ、即チ經濟學ナリ。以上述アル所ニヨリテ博士ノ所謂經濟學ノ範圍自ラ明カナラン。

第一ニ人爲現象ヲ研究スルノ學ハ凡テ經濟學タルニ非ラズ。「現象ノ形狀種々ナリ、或ハ物質ノ形狀ヲ變スルモノアリ、家屋器具衣服飲食ノ如キ是ナリ、或ハ人心ヲ變スルモノアリ、智識學問ノ如キ是ナリ、或ハ人ノ林勢ヲ變スルモノアリ、技藝ノ如キ是ナリ、是皆人間ノ需用ニ應スベキモノニシテ皆人ノ發現スル所ナリ、今若シ此現象ヲ逐一ニ論セバ即チ學問アリテ存ス、夫レ家屋器物ニ就テハ即チ建築學アリ、器械學アリ、人心ノ現象ニ就テハ即チ哲學アリ、心理學アリ……然レトモ此等ノ現象人ノ需要ニ應ズルノ理ニ至リテハ則チ經濟學ノ課スル所ナリ。」

第二ニ經濟學ヲ以テ單ニ貨物ノ富ニ付テノミ論スル學ナリト爲スベカラズ。富トハ「物ノ饒多ナル有様ヲ云フモノナリ、故ニ智識ニ富ムト云ヒ貨財ニ富ムト云フ……」歐洲ノ經濟學士ハ富ヲ以テ唯貨物ニノミ用フベキ語ナリト釋義シ、經濟學ハ特ニ貨物ノ富ニ付テ論スル學ナリト定メタリ、然レバ人口モ亦貨物ノ富ナル乎、既ニ貨物ノ富ニ就テ論ズル學ナリト定メテ喋々此學科中ニ人口ノ一論ヲ述ルハ實ニ笑フベキノ至リナラズヤ、余思フニ人口ハ貨物ニ非ズ、而シテ又經濟學中一大緊要ノ論題ナリ、余ノ所謂人爲ノ現象ノ釋義ヲ以テセバ自ラ扞格ノ患ナシ、夫レ人口モ亦人爲ノ現象ニアラズヤ、然リ而シテ富ノ一字亦人口ニ用ヒ得ベシ諺ニ曰ハズヤ、律義モノ、子澤山下、聞カズヤ人口ニ富ムト」

又曰ク「西洋ノ經濟學士ハ心裏現象ヲ以テ經濟學ノ範圍外ニ驅除スルモノアリ、其說ニ曰ク、心裏現象ハ富ノ字義ニ於テ合有スベカラズ、故ニ經濟學中ニ論ズベカラズト。嗚呼亦何事ゾヤ、教師ノ學術ヲ我ニ授クルハ織婦ノ衣ヲ與フルト何ゾ相擇ハン、我ニ智識ノ蓄ヘアルハ我ニ貨物ノ蓄ヘアルト何ゾ相異ナルヤ、養生ノ知識ヲ得ント欲スルハ商工ノ貨財ヲ得ント欲スト、其志望何ゾ知異ナラン……」

我が國現在ノ學者ガ使用セル經濟學ノ名稱

經濟學ノ名稱ハ、我が國ニ於イテモ學者ニヨリテ相違アリ。現時行ハレツトアル主

ナルモノヲ左ニ述ブ。

(一)單ニ經濟學ト稱セルモノ  
(二)經濟學ニ冠スルニ、(イ)社會ノ二字ヲ以テスルモノ(ロ)國民ノ二字ヲ以テスルモノ(ハ)純正ノ二字ヲ以テスルモノ、

此ノ如ク學者ニ依リテ其ノ名稱ヲ異ニスト雖モ、其ノ經濟學ナル文字ヲ用フルニ至ツテハ一ナリ。予ハ此ノ通案ヲ取ツテ斯學ニ名ク。

今マ余ノ名稱ト異ナルモノニ就イテ二三ノ批評ヲ試ミン。而シテ先ヅ茲ニ注意スベキハ名稱ニ關スル意見ノ相違ハ、主トシテ經濟學其ノモノ、範圍ニ關スル意見ノ相違ヨリ生ズルモノナルコト、コレナリ。故ニ名稱論ノ大部分ハ範圍論ト關連ス。

〔第一〕社會經濟學ナル名稱ハ、金井博士ノ採用セラル、所ナリ。博士ノ意ニ據レハ單ニ經濟學ナル文字ニテ差支ナシト雖、モシ新規ナル文字ヲ用フベシトナラバ、國民經濟學又ハ社會經濟學ト云フベク、就中後者ヲ最モ適當トスト云フニ在リ。其ノ國民經濟學ナル名稱ヲ採用セラレザルハ、意義少シク狹隘ニ失シ一切ノ經濟現象ヲ包含シ得ザルノ虞アルガ故ナリ(二六三頁)。

コノ點ニ就キ、余ノ疑問トスル所三點アリ。  
第一、博士ハ一切ノ經濟現象ヲ包含セシムルノ必要ヨリシテ國民經濟學ナル文字ヲ排シ、社會經濟學ナル文字ヲ用ヒラレタルヤ否ヤハ疑問ナリ。博士曰ク經濟學トハ一切ノ社會現象ヲ經濟的活動ニ必要ナル財貨ノ方面ヨリ論ズルノ學ナリト。余ノ見ル處ニ據レバコノ定義ヨリシテ二個ノ推論ヲ生ズ。(一)經濟學ナルモノハ凡テノ社會現象ヲ論ズルモノ也、從

ツテ經濟現象以外ノモノヲモ含ム。(二)經濟學ハ一切ノ經濟現象ヲ論ズルモノニ非ラズ、經濟現象中社會現象タルモノニ就イテ論ズ。モシ然リトセバ、博士ノ所謂經濟學ナルモノモ亦タ、一切ノ經濟現象ヲ論ズルモノニ非ラズ。從ツテ「一切ノ經濟現象ヲ含マザル」ノ故ヲ以テ、國民經濟學ナル文字ヲ排スルハ當テ得ズ。少クトモ、コノ點ハ說明ノ不足ト見ザルベカラズ。

殊ニ博士ハ「原人ノ間ニ行ハル、現象ヲ財貨ノ方面ヨリ觀レバ之ヲ個人經濟現象又ハ私經濟現象ト稱ス可ク、個人經濟學又ハ私經濟學ナルモノハ、攻究スベキ所ニシテ予ノ謂フ所ノ經濟學ノ本來攻究スベキモノニ非ラズ……(博士ハ其ノ所謂社會經濟學ノ外ニ個人經濟學アリト爲ス、コレ看過スベカラザル點ナリ、コノ點ハ後段ニ於テ論ズ……)故ニ今ノ經濟學ハ日米佛獨米等ノ如キ比較的ニ完全ナル社會國家ヲ組織スルノ國民ノ經濟即チ國民經濟又ハ國家經濟ニ關スル現象并ニ國民ト國民トノ間ニ行ハル、經濟現象即チ國際經濟現象ヲ攻究スルモノナリ」(二五二頁)ト論セラレタルニ、數スレバ、博士ノ所謂經濟學ハ一切ノ經濟現象ヲ論ズルモノニ非ラザルコト明カナリ。故ニ博士ガ國民經濟學ナル文字ヲ使用セザルハ一切ノ經濟現象ヲ含マザルガ故ニハ非ラズシテ、經濟現象ノ適當ナル範圍ヲ限定セザルガ爲メナラン。

第二博士ノ既ニ從ヘバ、經濟學トハ人類ノ經濟的活動ニ必要ナル財貨ノ方面ヨリ一切ノ社會現象ヲ論ズルモノ也。「人類ノ經濟的活動ニ必要ナル財貨ノ方面ヨリ」ト云ヘルハ、頗ル曖昧ナル文字ナルコト既ニ述ベタリ、モシコノ文字ヲ同シク曖昧ナル文字ヲ以テ換言セバ、經濟的方面ヨリ」ト云フコトヲ得ン。假リニ然リトセバ、博士ノ所謂經濟學ハ、一切ノ社會現象ヲ經濟的方面ヨリ論ズルモノニシテ、廣義ニ於ケル社會學ノ一種タリ。現ニ博士ハ經濟學ヲ以テ「社會學ノ一種」ナリト論セラレ(二四七頁)而シテ他方ニ於テハ所謂社會經濟學以外

ニ個人經濟學アリト論セラレタリ(二五二頁)。故ニ博士ハ所謂經濟學ハ一切ノ社會現象ヲ論ズルモノニシテ、一切ノ經濟現象ヲ論ズルモノニ非ラズ。モシ然リトセバ、之ヲ社會經濟學ト云ハシヨリモ、寧ロ經濟社會學ト云フベシ。コレ予ガ博士ノ名稱論ニ關スル第二ノ疑問ナリ。

第三博士ノ所謂社會經濟學ノ一分科トシテ私經濟學ナルモノアリ、コレ「個人ノ私經濟ヲ應用的ニ論ズル」モノナリ(一九九頁以下)。シカレニ私經濟學ト云フト個人經濟學ト云フトハ特別ノ約束ナキ限りハ、同意義ニ用ヒラル、モノニシテ、博士モ現ニ「個人經濟學又ハ私經濟學」ナル文字ヲ用ヒラレタル處多シ(二五二頁)其ノ他。シカラバ、社會經濟學ノ一分科トシテ個人經濟學アルコト、ナル、コレ亦タ社會經濟學ナル文字ノ一欠點ニアラズヤト思フ。現ニ國民經濟學ナル名稱博士ガ社會經濟學ナル文字ニ代ヘ得ベシト爲サル、モノヲ用フルモノ、中ニハ、博士ノ所謂私經濟學ヲ以テ斯學ノ範圍外ト爲セル也。社會經濟學ノ一分科トシテ個人經濟學アリト云フ名稱上ノ矛盾ハ、予ガ社會經濟學ナル文字ヲ採用セザル一理由ナリ。

(第二)國民經濟學ナル名稱ハ、福田博士ノ採用セラル、所ナリ。コノ文字ハ予ノ所謂經濟學ノ名稱トシテハ、狭キニ失ス。予ハ經濟學ノ一分科トシテ國民經濟學ナルモノヲ立ス。博士ノ所謂國民經濟學ハ全體ニ對スルノ名稱カ、ソノ一分科ニ對スルノ名稱カ、之ヲ明ニセザレバ、何等ノ批評ヲ加ヘ難シ。

(第三)純正經濟學ナル名稱ハ、小林學士ノ採用セラル、所ナリ。コハ予ノ所謂經濟學中ノ一部分ニ充ツベキ名稱ニシテ固ヨリ狭キニ失ス。乍併小林學士ハ予ノ所謂純正經濟學ヲノミ經濟學トナシ、應用經濟學ハ經濟學ニ非ラズト爲セルガ故ニ、氏ノ既ニ從ヘバ、純正經濟學ハ氏ノ所謂經濟學ソノモノニシテ、純正經濟學以外ニ經濟學ナシ。シカラバ、何ソ必ズシモ

特ニ純正ノ二字ヲ以テ經濟學ニ冠スルノ必要アラシヤ。  
 要スルニ社會ト云ヒ國民ト云ヒ純正ト云フガ如キ文字ヲ經濟學ニ冠セシムル時ハ、ソノモ  
 ノ以外ニ經濟學アルコトモセザルベカラズ、少クトモ他ノ學者ヨリ見レハ、ソノモノ以外ニ  
 經濟學アルコトナル。モシ然リトセバ、經濟學ソノモノ、全體ニ名クベキ名稱ハ、單ニ經  
 濟學ト云フヲ以テ優レリト爲サザルベカラズ。

**外國ノ學者ガ使用セル經濟學ノ名稱**

現今外國ノ學者ガ使用セル名稱中其ノ主要ナルモノハ次ノ如シ。

- (一)單ニ經濟學ト譯スベキモノ、英語ニテ *economist, economic science* 及び、*Ökonomik, Wirtschaftlehre* ヲレ也。
- (二)經濟學ニ冠スルニ政治ナル文字ヲ以テスルモノ、英語ニテ *political economy, political economics* 及び、*Politische Oekonomie, Politische Oekonomieik* いたリ、*Ökonomik* ニテ *Oekonomie politica* 及び、*Ökonomik* ニテ *Oekonomie politica* ヲレ也。
- (三)國民經濟學ト譯スベキモノ、*Ökonomik* ノ學者ノ廣ク使用スル譯ニシテ、*Ökonomik* 之ヲ *Volkswirtschaftslehre* ト云フ。英語ニテ *national economy, national economics* 及び、*Ökonomik* ニテ *Nationalökonomie, National-ökonomik* いたリ、*Ökonomik* ニテ *Oekonomia nazionale* ト云フモ、亦々同様ニ譯スベキナ。
- (四)社會經濟學ト譯スベキモノ、英語ニテ *social economics* 及び、*Ökonomik* ニテ *Sozialökonomie, Sozialökonomik* いたリ、*Ökonomik* 之ヲ *Ökonomia sociale* 及び、*Ökonomik* 之ヲ *Ökonomik sociale* ト云フノ類トレ也。  
 猶ホ以上ノ名稱ヲ使用セル學者ノ主要ナルモノニシテ左ニ述ブ。  
 [第一]イギリスニテ *Economics* ナル文字ヲ用フ例ヲ擧クレン、*Principles of Economics* ト題シ、*Principles of Economics* ナル文字ヲ用ヒ、*Outlines of Economics* ト云フガ如シ。  
 [第二]イギリスニテ *Economics* ナル文字ヲ用ヒ、*Outlines of Economics* ト云フガ如シ。

ノモノハ、經濟學ヲ二大部ニ分チテ、社會經濟學及政治經濟學ト爲セルガ爲メナリ。但シ、社會經濟學ヲ廣義ニ用フレバ、政治經濟學ヲ包含スレドモ、學問上ノ便宜ノ爲メ暫ク之ヲ狹義ニ譯スベシ、トハ氏ノ意見ナリ。氏論シテ曰ク

*On some accounts it would be better to entitle the two main divisions (of economics) Social Economics and Political Economics..... Social economics in the broadest sense would, however, naturally include political economics, for society is larger than government, and includes all its activity within itself. It would, therefore, not be absolutely correct arrangement, if reference is had to the strict meaning of the terms. It is, however, frequently necessary to restrict technical terms more or less arbitrarily. (Ely, Outlines of Economics, p. 84)*

(第二)政治經濟學ナル文字ハ從來イギリスノ學者ノ廣ク使用シタリシ處ニシテ、予ノ所謂純正經濟學ノミノ名稱トシテ今日ト雖モ猶ホ用ヒラル。*Ökonomik* ト云フ也。

此ノ事實的科學ヲノ所謂純正經濟學ヲ表スベキ言葉ハ、*Economics* (經濟學) 又ハ、*Economic science* (經濟學) ヲ適當トス、是等ノ譯ハ、*Political economy* (政治經濟學) ヨリモ意味曖昧ノ點少クシバナリ。乍併、政治經濟學ナル名稱ハ既ニ廣ク世人ノ通用スル處ナレバ之ヲ廢棄スルコト難シ。故ニ予ハ、*Ökonomik* 三者ヲ明確ニ區別スルコトナクシテ、殆ト同意義ニ使用セントス。(Keynes, The scope and method of political economy, ch. II.)

此ノ如ク純正經濟學ニ名クルニ政治經濟學ヲ以テセントスルモノアリ。以テ政治經濟學ナル譯ノ如何ニ廣ク使用セラル、ヤノ一斑ヲ察スルニ足ルベシ。  
 どいつノ學者モ亦タ之ヲ用フルモノ少カラズ。ゼ一ハ政治經濟學ナル文字ヲ採用シ且ツ國民經濟學ナル文字ノ採用シ難キ理由ヲ述ベテ曰ク  
*Ökonomik* 譯ニテ *Volkswirtschaftslehre* 又ハ *Nationalökonomie* (第ニ) *Nationalökonomik* ト云フ方適當

ス、Nationalökonomie 國民經濟ノ學ナレバ也(ト云フ語ヲ用フト雖モ、コハ經濟上ニ於ケル國家ノ行爲ト國民ノ行爲トノ對峙ヲ表ハスモノ、如ク誤解セラレ、ノ欠點アリ、他方ニ於イテハ吾人カ經濟學ノ範圍ニ入ルベキモノト信ズル處ヲ表明スルガ爲メ、紛々狹キニ失スルノ欠點アリ。

氏ハ「私經濟相互ノ關係」ヲ論ズルコトヲモ經濟學ノ範圍ニ屬スト爲スガ故ニ、國民經濟學ナル文字ヲ以テ狹義ニ失スルノ弊アリト爲セルナリ。而シテ、氏が政治經濟學ナル文字ヲ採用スル理由ニ就イテハ、次ノ如ク論ツタリ、大意。

モシ經濟學ナルモノニシテ、國民經濟上ニ於ケル生産上ノ技術的經過ヲ研究セズ、又タ私經濟ソノモノ、法則及ビ私經濟上ノ行爲ノ方針ヲ研究セザルモノトセバ、政治經濟學(Politische Oekonomie)ナル文字ヲ以テ最も適當トス。殊ニ此ノ語ハ、既ニ吾人ノ耳染ニ熟スルノミナラス、諸外國ニ於イテモ新學ヲ指スガ爲メ廣ク通用メルモノナレバナリ。(Sjöhjberg, Handbuch, Bd. I. S. 661, Die politische Oekonomie als Wissenschaft, S. 68)

政治經濟學ナル文字ヲ用ヒタルニ三ノ例ヲ舉クニ、第一ニ在リテハ、セー入ルルハ、編纂セル大著ハ Handbuch der Politischen Oekonomie ト題シ、其中ニ Volkswirtschaftslehre ナ收メタリ。わづな一ノ編纂セル大著モ Lehr- und Handbuch der politischen Oekonomie ト題セリ。其ノ他、ラノ如キ (Lehrb. d. P. O.)、ノ如キ (Die P. O. vom geschichtlichen Standpunkte) 及び、グン、如キ (Grundriss d. P. O.)、ノ如キ (Grundriss zum Studium d. P. O.)、ノ如キ (System d. P. O.) 皆ナ然リ。いざりすニ於テハ、リ、ウ、ド、ミ、ル、セ、ハ、入、ル、ス、ノ、如、キ、入、ル、ス、ノ、著、書、ヲ、指、ス、ル、リ、入、ル、等、ノ、著、書、ハ、凡、テ、Political Economy ナル文字ヲ用ヒタリ。ふらんす、いたり、ニ於イテハ、殆ド凡ク然リト云フベシ。

第三國民經濟學ナル文字ヲ用フルニ三ノ例ヲ舉グ、ハ、ウ、ル、ル、ル、ノ、如、キ、(Grundzüge der N. O.)

すたいんノ如キ (Lehrb. d. N. O.)、ノ如キ (System der N. O.)、ノ如キ (Grundriss) ハ、凡テ Nationalökonomie ナル文字ヲ用ヒ、ル、ル、ル、ル、ノ、如、キ、(Grundriss) Volkswirtschaftslehre ナル文字ヲ用ヒタリ。是等ノ學者タル多クハ、各個ノ個人經濟ヲ除外シ、只タ國民經濟ソノモノニ就イテ研究セントス。故ニ其ノ指ス所ノ範圍ハ、狹シ、從テ國民經濟學ト云フガ如キ文字ヲ用フル也。ろっしるガ「經濟學」なる名、このみ、く、ふ、る、く、す、う、る、と、し、ふ、さ、れ、れ、ト、ハ、國民經濟、國民ノ經濟的生活ノ發展ニ關スル法則ヲ研究スルノ學ナリ』ト論シ、其ノ學ノ外ニ個人經濟學 (Privatökonomik) ヲ立セルガ如キ、即チ其ノ一例ナリ。

第四社會經濟學ナル文字ヲ用ヒタルモノハ、甚ダ少シ。いたり、ノ、ノ、(Primi elementi di economia sociale. 一八九一年第九版) び、る (Theoretische Sozialökonomik 一八九五年出版) ノ如キ、僅カニ、ノ、ナリ。

コノ社會經濟學ナル名稱ハ、世人ノ想像スルガ如ク、必ズシモ新規ナルモノニハ、非ラズ。ち、ノ、言、フ、處、ニ、據、レ、バ、

「既ニせい (Say) ハ、其ノ著 Cours complet 序論中ニ於イテ社會經濟學ナル語ヲ用フヲ宜シトスト論ジタリ。又、いたり、ニ在リテハ De Augustinis (1837) Socialoj (1840), Rymont (1850), ノ如キ、いざりすニ在リテハ Ellis (1850), Atkinson (1858) ノ如キ、と、ノ、ニ在リテハ Eisenhart (其ノ一八四四年出版) 著者ハ題シテ「國民經濟論一名經濟社會原理」System der Volkswirtschaft oder ökonomische Sozietheorie (1852) ノ如キ、皆ナ、既ニ社會經濟學ナル名稱ヲ用ヒタリ。』 (Sozialökonomik, S. 54.)

而シテ、ち、る、ガ、始、メ、テ、社會經濟學ナル名稱ヲ用フベシト論ジタルハ、一八八二年ニ公ニシタル「國民經濟學ト社會科學トノ關係」ニ就イテ「ト題セル著書ナリトス。コノ著書ニ於ケル氏ノ意見ハ、所謂純正經濟學ヲ名クルニ社會經濟學 (Socialwirtschaftslehre) ト稱スベク、而シ

テ各國民ノ特性ヲ斟酌シテ具體的説明ヲ爲スモノ即チ經濟史及ヒ經濟政策學ハ之ヲ總稱シテ國民經濟學(Volkswirtschaftslehre)ト名クベシト論ジタリ。

シカルニ一八九五年ノ著書(Theoretische Sozialökonomik)ニ於イテハ氏ハ社會經濟學ナル文字ヲ廣ク用ヒ管ニ理論ノ部ノミナラズ實際ノ部ヲモ包含シタル經濟學全體ニ(純正及應用ノ何レヲ問ハズ)社會經濟學ナル名稱ヲ用ヒタリ。社會經濟學ナル名稱ノ由來ハ以上ノ如シ。サレバ金井博士ガ「そおちあゝる、点このみつく(直譯スレバ社會經濟學)テフ語ハ外國語トシテ最モ適當ナルモノナルベシトハ八九年前ヨリ予ノ唱フル所ナリ當時何人モ此語ヲ用フルモノナカリシガ……」ト論セラレタルハ聊カ程當チ欠ケ又「ちいぢるハ之ヲ單ニ經濟學ノ一部分タル純正經濟學ノ名稱ニ對シテノミ用ヒタルモノニシテ其ノ經濟學全體ニ取リテ適當ナルヤ否ヤハ別ニ明言セザリシ……」ト論セラレタルモ亦タ誤解ナリ。ちいぢるハ現ニ其ノ著書ノ第二章ニ於イテ社會經濟學ヲ分チテ理論社會經濟學及ヒ實地社會經濟學ノ二大部門ニ分テリ。試ニ其ノ第二章ノ目次ヲ一覽スルモ其ノ第二節ハ題シテ理論的社會經濟學實地的社會經濟學トナセリ。經濟學全體ニ社會經濟學ナル名稱ヲ使用セントスルハ金井博士ノ創意ニ非ラザルコト以テ知ルベシ。シカルニ博士ガ之ヲ以テ自己ノ創意ナルガ如ク論セラレタルハ社會經濟學ナル文字カ博士ノ著書ノ名目トナリ居ルガ爲メ殊ニ人ヲシテ奇怪ノ感アラシム。故ニ特ニ之ヲ註ニ明記ス。

扱テちいぢるガ特ニ社會經濟學ナル名稱ヲ用ヒ政治經濟學國民經濟學ナル名稱ヲ排斥シタル理由ハ左ノ如シ。(Socialökonomik, S. 56 ff.)

(イ)政治經濟學(politische Ökonomik)ナル言葉ハ古代及ヒ近代ノ用法ニ依ルニ政治的(politisch)ナル意義ヲ有シ國家ニ關スル經濟學ナルガ如キ誤解ヲ招キ易キガ故ニ排斥スベシ。

固ヨリ政治經濟學ナル語ハ古典的ノ用語ニシテ且ツ文明諸國ニ廣ク通用スルハ其ノ一長所ナレドモ「わぐな」し「る」ノ如キハ此ノ理由ヲ以テ政治經濟學ナル名稱ヲ使用セリ」ト併社會經濟學ナル名稱モコノ點ニ於イテハ同一ナリ「ちいぢる」ノ言少シク強キニ過ケ」。

(ロ)國民經濟學(Nationalökonomik)ナル名稱ノ不可ナル理由ハ二アリ。

第一ニ國民經濟學ナル名稱ハ狭キニ失ス(金井博士ノ脱ト参照セヨ)。何トナレバ今日ニ於イテハ單ニ國民經濟ノ現象アルノミナラズ國民ト國民トノ間ニ於ケル經濟現象進シテハ世界經濟ノ現象アレバナリ。例ヘバ之ヲ生産ニ就イテ考フルモ世界ノ市場ヲ目的トスル生産ハ次第ニ増加ス故ニ單ニ國民ノ經濟ニ就イテ論究スルノ學ハ次第ニ其ノ重要ヲ失ヒ之ニ代ツテ世界經濟學起ラザルベカラザルナリ。之ガ故ニモシ強イテ國民經濟學ナル名稱ヲ固守センカ中世ノ經濟學ハ地方經濟學(Lokalwirtschaftslehre)ト云フベクめるかんちるしすてむノ行ハレタル時代ハ國民經濟學(Volkswirtschaftslehre)ト云フベク進シテハ國際經濟學(Völkerwirtschaftslehre)アリ更ニ進シテハ世界經濟學(Weltwirtschaftslehre)アリト云ハザルベカラズ。モシ社會經濟學ナル名稱ニ至ツテハ其ノ何レトシテ可ナラザルハナシ。コレ國民經濟學ナル名稱ノ不適當ナル第一理由ナリ。

第二ニ國民經濟學ナル名稱ハ經濟學ノ理論ノ部門ニ適當セス。何トナレバ經濟學中理論ノ部ニ於イテハ現實ノ國民經濟ニ就イテ論ズルニ非ラズシテ單ニ一ノ社會ヲ假設シテ之ヲ論ズレバナリ。即チ其ノ社會ノ各員ハ經濟上ノ動機經濟的慾望ニヨリテノミ活動スルモノト假定シ而シテ其ノ動機ニヨリテ活動スルノ結果必ス歸着スベキ一定ノ關係ニ就イテ論究ス(コレちいぢるノ所謂理論的社會經濟學ナリ)。故ニ之ニ名クルニ國民經濟學ナル名稱ヲ以テスルハ到底不適當タルヲ免レズ。政治經濟學ノ名稱モ亦タ固ヨリ然リ。(以上大意抄録)。

吾人ハ既ニ經濟學ヲ定義シテ經濟ノ社會的方面ヲ研究スルノ學ト云ヘリ。乍併モシ之ヲ詳細ニ定義スレハ、經濟學トハ經濟ノ實態、理想、政策ノ社會的方面ニ就キ事實的及ヒ批評的研究ヲ爲スノ學ナリト云フヘシ。而シテ此ノ定義ノ詳細ナル意義ニ至リテハ、正ニ次節ニ於イテ讀者ノ了得スヘキ處ニ屬ス。

#### 第四節 經濟學ノ範圍、職分及ヒ分科

經濟學ノ何物タルヤハ、更ニ其ノ範圍、職分、分科ヲ説明スルニ於テ一層ノ明瞭ヲ加フヘシ。而シテ、吾人ハ是等ノ事項ヲ説明スルカ爲メニハ、前數章ニ於イテ論明シタル諸種ノ觀念ノ外、更ニ經濟ノ實態、經濟ノ理想、經濟ノ政策ノ三者ニ就イテ略説スルノ必要アリ。經濟ノ實態トハ一定ノ經濟ヲハ一定ノ時ニ觀察シタル事實アリ、ハ状態ヲ云フ。シカルニ、人類ハ凡テ現在ノ状態ニ満足スルモノニ非ラス、從ツテ現在ノ状態以外ニ於イテ希望スト思惟セル状態ヲ案出ス。今マ之ヲ名ケテ經濟ノ理想ト云フナリ。既ニ經濟ノ理想アリ、而シテ現在ノ状態ハ此ノ理想ト

懸隔スルヲ常トス、茲ニ於イテカ、現在ノ状態ヲ變シテ理想ハ状態タラシメ、ハカ爲メ、ハ手段方法ヲ講スルニ至ル。今マ其ノ手段タリ方法タルモノヲ名ケテ經濟政策ト云フ也。經濟實態、經濟理想及ヒ經濟政策ノ何物タルヤハ、以上説ク所ノ如シ、而シテ我が經濟學ノ研究範圍ハ實ニ此ノ三者ニ出テサルナリ。而シテ經濟學ノ第一職分ハ、コノ三者ニ就キ事實的の説明ヲ與ヘ、斯ノ如シト指示シテ以テ、如何ニアルヤノ問題ニ答フルニ在リ。之ヲ名ケテ純正經濟學ト云フ。

經濟學ノ第二職分ハ、上述ノ三者ニ就キ批評的の説明ヲ與ヘ、斯ノ如クアルヘシト指示シテ以テ、如何ニアルヘキヤノ問題ニ答フルニ在リ。之ヲ名ケテ應用經濟學ト云フ。

純正經濟學ノ問題ハ、既ニ述ヘタルカ如ク、如何ニアルヤニ答フルニ在リ。シカルニ、如何ニアルヤノ問題ハ分レテ二ト爲ル。其ノ一ハ、如何ニアリシヤノ問題ニシテ、其ノ二ハ、如何ニアリツ、アルヤノ問題ナリ。前者ハ過去ノ事實ヲ研究シテ、發展ノ理ヲ明ニスルモノ、名ケテ經濟史學ト云フ。或ハ經濟動學ト云ヒテ大過ナカラン。後者ハ現在ノ事實ヲ研究シテ、之カ智識ヲ供スルモノ、

名ケテ現世經濟學ト云フ。或ハ一ニ經濟靜學トモ云フヘシ。カクテ純正經濟學ハ分レテ經濟史學現世經濟學ノ二門ト爲ルヘシ。

次キニ應用經濟學ニ屬スヘキ「如何ニアルヘキヤ」ノ問題ハ分レテ三ト爲ル。「如何ニアラントスルカ」ノ問題ハ其ノ一ニシテ之カ研究ハ經濟運命學ナル一門ヲ成ス。「如何ニアラシムヘキヤ」ノ問題ハ其ノ二ニシテ之カ研究ハ經濟倫理學ナル一門ヲ成ス。而シテ其ノ三ハ「如何ニシテアラシムヘキヤ」ノ問題ニシテ之カ研究ハ經濟政策學ナル一門ヲ成ス。カクテ應用經濟學ハ分レテ經濟運命學經濟倫理學及ヒ經濟政策學ノ三門ト成ル也。

要スルニ純正經濟學ハ經濟實態經濟理想經濟政策ノ三者ニ就キ其ノ過去現在ヲ説明スルニ反シ應用經濟學ハ過去現在ノ研究ヨリ得タル事實ニ本ク智識ヲ主タル根據トシテ三者ノ將來ヲ説明スルモノニシテ其ノ應用ナル形容詞ヲ冠セラルハ所以ノモノハ純正經濟學ノ研究セシ結果ヲ主タル立論ノ根據トスルカ爲メナリ。此ノ如ク應用經濟學ノ論スル處ハ事ノ將來ニ在リ。故ニ未來ニ於イテ將ニ見ハレントスル經濟ノ實態ハ果シテ其ノ理想ト合致スヘキヤ否ヤヲ考察シ而シテ若シ合致セサルニ於イテハ之ヲシテ合致セシ

ムヘキ政策ヲ考察シ依ツテ以テ利害得失ノ研究ヲ爲ササルヘカラス。既ニ將來ニ關シテ利害得失ノ論ヲ爲ス是カ故ニ學者ノ意見ハ必スシモ一致ヲ期シ難シ。之ニ反シ純正經濟學ニ在リテハタトヒ利害得失ノ論ヲ爲スト雖モソハ凡テ過去ノ事實トシテ既ニ發生セシ利害得失ナルカ故ニ學者ノ議論ニヨリテ左右シ得ヘカラサル既存ノ確定事實ナリ。故ニ學者ノ説明ハ必ス一致ニ歸セサルヘカラスモシ一致セサレハ學ノ幼稚ニシテ成立ノ基礎ノ怪ムヘキヲ示スニ外ナラス。サレハ純正經濟學ノ部門ハ其ノモノ性質上應用經濟學ノ部門ニ比シ學タルノ資格ヲ具フル點ニ於イテ一步ヲ抜クモノト謂フヘクコレヤガテ吾人カ之ニ名ケテ純正ノ學ト云フ所以ナリ。

扱テ以上論シタル處ハ單ニ經濟トノミ云ヒテ其ノ種類ヲ問ハサリシ也。シカルニ更ニ一步ヲ進メテ考フレハ經濟ニハ三様ノ大別アリ。國民經濟國家經濟個人經濟コレナリ(或ハ更ニ世界經濟ノ一種ヲ加フルヲ得ヘシ)是カ故ニ經濟學ハ是等ノ諸經濟ニ通スル原論ヲ爲スモノト是等各個ノ經濟ニ就イテ特論ヲ爲スモノトノ二大分科ヲ生シ得ヘシ。前者ヲ經濟學原論ト云ヒ後者ヲ經濟學特論ト云フ。而シテ特論ヲ爲スモノニ在リテハ各種ノ經濟ニ就イ



テ更ニ無數ノ分科ヲ爲シ得ヘシ。  
 以上述フル所ニ依リテ考フレハ、經濟學ノ分科ハ正ニ次ニ列舉スルカ如クナ  
 ラサルヘカラス。

### 第一門、經濟學原論(又ハ經濟學通論)

經濟學上ノ根本觀念、經濟學ノ各分科ニ共通ノ問題、凡テノ經濟ニ共通ノ學  
 理ヲ説明スルモノニシテ、其ノ純正ノ部門ニ屬スルト應用ノ部門ニ屬スル  
 トヲ問ハサルモノ、一ニ普通經濟學トモ稱シ得ヘシ。コレ學理ノ研究上其  
 ノ發端又ハ基礎タルヘキモノニシテ、兼テ又タ初學者入門ノ階梯ニ充ツ  
 ヘキモノタリ。其ノ内容ハ之ヲ次節ニ説ク。

### 第二門、經濟學特論(又ハ經濟學各論)

分レテ四大分科、八小分科ト爲ル。左ノ如シ。

#### 第一、國民經濟學

##### 甲、純正國民經濟學

##### 一、國民經濟史論

##### 二、現世國民經濟論

純正國民經濟學ニ於イテ論スヘキ事項ノ中、或ルモノハ獨立シテ一ノ專  
 門學タルニ至ルコトモアリ得ヘシ。例ヘハ銀行史論、現世銀行論ト云フ  
 カ如シ。此ノ如キ分科ヲ生スルニ至ラハ之ヲ各論又ハ特論ト稱シ、以テ  
 總論又ハ原論ト分タシムヘシ。

#### 乙、應用國民經濟學(國民經濟政策學)

運命、倫理、政策ノ三者ハ分離シテ一科ノ學タルヲ得サルニハ非ラサラン  
 モ、實際上ノ便宜ハ之ヲ一科ノ學トシテ論スルヲ得策トセン。而シテ、モ  
 シ然リトセハ、三者ノ中政策ノ論ハ最モ重大ノ關係ヲ有スルカ故ニ、假リ  
 ニ部分ヲ以テ全體ニ名ケ普通ニ使用セラル、國民經濟政策學ナル名稱  
 ヲ用ヒテ大過ナカルヘシ。

##### 一、應用國民經濟原論(國民經濟政策原論)

コレ國民經濟全體ノ運命、理想及ヒ政策ノ根本基礎タルモノニ就イテ  
 研究スルノ分科ナリ。學者往々社會政策學ナル一分科ヲ立スルハ(例  
 ヘハ金井博士ノ社會經濟學、一九六頁ヲ見ヨ)畢竟スルニ、國民經濟政策  
 ノ原論ヲ指スニ外ナラス。コレ學タル、國民經濟ノ全體ニ就イテ(單ニ

農業トカ工業トカ云フ一部門ニ就イテニ非ラス之カ成行ヲ觀測シ之カ理想ヲ論定シ以テ其ノ理想ニ達スヘキ根本ノ政策ヲ説クモノ、遠カラスシテ一科ノ學ヲ形成スヘキヲ信ス。

二、應用國民經濟特論(國民經濟政策特論)

農業商工業等ニ就イテ其ノ將來理想政策ヲ論スルモノニシテ、現ニ無數ノ分科ニ分ル。而シテ各分科ノ内容ハ各々分レテ運命論理想論、政策論ノ三論ト爲ル。

イ、農政學(農業政策學)

ロ、商政學(商業政策學)

ハ、工業政策學等

第二、國家經濟學(財政學)

甲、純正國家經濟學(純正財政學)

乙、應用國家經濟學(財政々策學)

甲ハ財政史論及ヒ現世財政論ニ分ル。而シテ甲ト乙トヲ問ハス、或ル種ノ事項ニ關シテハ各論トシテ獨立セル一科ノ學ヲ成スコトアリ得ヘシ。

租稅論公債論ノ如キコレナリ。

第三、個人經濟學

甲、純正個人經濟學

乙、應用個人經濟學(個人經濟政策學)

コノ中更ニ分科ヲ生シ得ルコトハ、前例ニ準シテ知ルヘシ。

(第四、世界經濟學)

(甲、純正世界經濟學)

(乙、應用世界經濟學又ハ世界經濟政策學)

今日ノ實際ニ於イテ存在セル經濟學ノ分科

以上論ツタル處ハ經濟學ノ理想的分科ナリ。思フニ學ノ分科ガ次第ニ細分セラレリ。今日ノ實際ニ至ルハ、上ニ述ノ如キ無數ノ分科ヲ生ズルニ至ラズトモ期シ難シ。然レドモ今日ノ實際ニ於イテハ、只々僅ニ應用ノ方面ニ於イテノミ多少ノ分科アルニ止ル。即チ應用經濟學ハ國民經濟政策學、財政々策學、個人經濟政策學ニ分レ、而シテ國民經濟政策學ハ更ニ農政學、商政學等ニ分科シ、個人經濟政策學ハ農業經營學、商業經營學等ニ分科シ、以テ各々獨立ノ學タラントスト雖モ、純正ノ方面ニ於イテハ更ニ何等ノ分科ヲ爲スニ至ラザル也。思フニ國民經濟ナルモノハ、個人經濟及ヒ國家經濟ヲ離レテ存在スルコトナシ、故ニ國民經濟ヲ論ゼン

ト欲セバ自ラ個人經濟及ヒ國家經濟ヲ論ズルニ至ルモノ也。シカルニ獨リ政策ニ至リテハ之が見地ヲ異ニスルニ依リテ、或ハ世界ノ福利ヲ目的トシ、或ハ國民全體ノ福利ヲ目的トシ、或ハ國家ノ利益ヲ目的トシ、或ハ一個人ノ利益ヲ目的トス、從ツテ之が説明ハ各々別個ノ學ヲ必要トスルコト甚タ適切ナリ。コレ獨リ政策ノ方面ニ於イテノミ分科ヲ生ジ、純正ノ部門ニ於イテ未ダ之ヲ欠如セルノ原因タラン。

第一門、純正經濟學

〔主トシテ國民經濟ニ關スル學理ヲ論ジ、財政ノ學理ノ如キハ殆ド欠如セルヲ常トス。且ツ主トシテ靜學ノ方面ヲ論ジ、動學ノ方面ヲ欠如セルハ、所謂歷史派以外ノ通弊タリ。〕

第二門、應用經濟學

第一、國民經濟政策學  
〔各論ノミアリテ、原論ナキハ今日ノ實態ナリ。故ニ其ノ分科ノ主ナルモノ左ノ如シ。〕

甲、農政學

乙、商政學

丙、工業政策學

丁、交通政策學等

第二、財政學

〔應用ノ部門ニ屬シ從ツテ事實的の説明ヲ爲スベキ純正經濟學ノ範圍以外ニ在リト稱シ乍ラ實際ニ於イテハ、半々事實的の説明ヲ爲セリ。故ニ實際ニ於イテハ、純正財政學及ヒ應用財政學ノ二者ヲ合併シテ一科ノ學タラシメツトアリ。〕

第三、個人經濟政策學

〔今日ノ實際ニ於イテ現存セルモノハ左ノ二三種ニ止マルベシ。〕

甲、農業經營學(又ハ農業經濟學トモ稱セリ。)

乙、商業經營學(又ハ商業經濟學トモ稱セラル。)

丙、工業經營學(又ハ工業經濟學トモ稱セラル。)

經濟學ノ職分及ビ分科ニ關スル學說

經濟學ハ如何ニ分科サルベキカ學者ノ說ク所一ナラズ。而シテ學者ノ理想トセル分科ト學ソノ

モノ、現在ノ分科トモ亦々決シテ一ナラズ。

學ソノモノ、分科ノ現狀ハ余之ヲ前項ニ説ケリ。今ハ暫ク其ノ理想的分科ニ關スル二三ノ意見ヲ紹介セシム。

ちりちるノ說 氏ノ分科ハ左ノ如シ。(社會經濟學、四〇頁)。

甲、理論的社會經濟學 Die theoretische Sozialökonomik

一、經濟史 Die Wirtschaftsgeschichte

イ、一般 (allgemeine) ノ部門

ロ、特別 (spezielle) ノ部門、コレ特別ノ國民又ハ經濟ノ特別ノ範圍(農業、工業、商業等)ニ就

イテ論ズルモノ

二、離隔方法ニヨリテ研究シタル理論 Die, isolierend verfahrenende, Wirtschaftstheorie

イ、一般ノ部門

ロ、特別ノ部門

乙、實地的社會經濟學 Die praktische Sozialökonomik

一、經濟倫理學 (Die Wirtschaftsethik) ヨハ實地經濟學中一般ノ部門ヲ爲ス。

序論 經濟學ノ範圍、職分及ビ分科

二 經濟政策學 (Die Wirtschaftspolitik) ロン一般及ヒ特別的ノ二門ニ分ル。氏ノ所謂理論的社會經濟學ト云フハ予ノ純正經濟學ニ當リ、實地的社會經濟學ハ予ノ應用經濟學ニ當ル。余ノ説ハ氏ノ説ト異ルコト勿論ナリト雖モ大體ニ於イテ予ハ氏ノ説ヲ論理的ナリト認ムルモノ也。

わぐなーノ説

わぐなーノ經濟學ノ概念 (Die Aufgaben der Politischen Oekonomie) トシテ左ノ六者ヲ掲ゲタリ (Grundlagen, S. 144 ff.)。

一 經濟現象(及ヒ其ノ變遷)ノ確切な定立 (Feststellung (Ermittelung) der Erscheinungen (und ihres Verlaufes).)

二 經濟現象ニ實證ナル標準的現象ノ確立 (Die Ermittlung des Typischen darin.)

三 其ノ原因ノ説明 (die Erklärung ihres conditionellen und Causalen.)

四 其ノ價值ノ測定 (die Beurtheilung ihrer Bedeutung (ihres Werths).)

五 其ノ發展ニ對スル目的ノ確立 (die Ziel-Aufstellung für ihre Entwicklung.)

六 其ノ目的ヲ達スベキ方法ノ指示 (die Wegweisung zu diesem Entwicklungsziel.)

ロン中前氏ノ三者ヲ以テ理論的經濟トナシ、後ノ三者ヲ以テ實地的經濟トナシタリ。

カクテ予ノ經濟學ノ分科 (Schema für die Einteilung oder das System der Politischen Oekonomie) トシテ左ノ一表ヲ掲ゲタリ。 (Grundlagen, S. 273)

- I. Grundlegung oder grundlegender Theil  
zugleich allgemeiner Theil im umfassendsten Sinne des Wortes (廣義)
- II. Ausführung oder ausführende Theile im Unterschied zum ersten „allgemeinen“ Theil
  - I. und II., A. Theoretische Theile und allgemeine Theile
  - (in diesem Sinne, nämlich als vorwiegend

(廣義) A. Theoretische Nationalökonomie (經濟學) dieses Characters.) (經濟ノ範圍及ヒ廣義ノ範圍)

廣義經濟學)

B. Practische Nationalökonomie. (實業學)

廣義經濟學)

C. (aber A und B subordinirt im Verhältnisse dieser allgemeineren Theile zu dem specielleren) Finanzwissenschaft. (財政學) auch Kunstlehren. (實業的及ヒ技術的範圍)

廣義經濟學ノ範圍ニ於テ予ハ予ノ大ニ知リシタリ (Grundlagen, S. 271)

Die im vorigen § 102 (angelegte) Entwicklung des Systems der Disciplin speciell in Deutschland ist wohl die richtige, daher die Einteilung in vier Haupttheile, von denen die drei letzten wieder zusammen als die „ausführenden“ im Unterschied zum ersten als dem „grundlegenden“ bezeichnet werden dürfen, woran sich dann als ein fünfter die Literaturgeschichte anschliesse kann. Der grundlegende und der erste ausführende Theil haben aber wieder vorwiegend theoretischen, die beiden anderen ausführenden Theile vorwiegend praktischen Character und stehen sich dadurch untereinander näher. Auch sind jene beiden mehr speziellen Inhalts. Andererseits ist die „Grundlegung“ wieder allen „ausführenden“ Theilen gegenüber eine „allgemeine“ Lehre, das Wort „allgemein“ in noch prägnanterem Sinne gewonnen.

而シテ予ノ編纂ニ係ル有名ナル大著 (Lehr- und Handbuch der P. O.) ノ卷頭ニ於イテ予ハ予ノ知ル如ク其ノ全體ハ左ノ五大部門ヨリ成ルベキモノト報告シタリキ。

- 第一門 經濟學原論 Grundlegung der Politischen Oekonomie
  - 第二門 理論的國民經濟學 Theoretische Volkswirtschaftslehre (カール・ポーターの理論的社會經濟學ト改名セリ)
  - 第三門 實地的國民經濟學 Praktische Volkswirtschaftslehre.
  - 第四門 財政學 Finanzwissenschaft.
  - 第五門 經濟學史 Literaturgeschichte der P. O.
- 茲ニ注意スベキハ氏ノ所謂經濟學 (Politische Oekonomie) ハ私經濟學 (Privatökonomie) ナ含マザルコト其ノ一ナリ。又タ氏ノ意見ニ依レバ原論的及ヒ理論的ノ部門モ常ニ幾何カ實際問題ヲ眼中ニ置カザルベカラズ實地國民經濟學及ヒ財政學ノ部門モ理論的問題ヲ含ムモノタリ、コレ注意スベキ第二點ナリ。(コノ第二點ニ於テハ「Grundlagen」一二七一頁註其ノ他ヲ參照セヨ。而シテ之ニ對スル「ちちち」ノ異見ハ、理論的社會經濟學ノ四一頁等ヲ參照セヨ。

**金井博士ノ説** 金井博士ノ經濟學社會經濟學ハ分レテ左ノ二大部門トナル。

第一門 純正經濟學

第二門 應用經濟學

茲ニ余ノ疑ヲ存スルノ事實二點アリ。  
 其一ノハ博士ノ著述ガ社會經濟學ト題シテシカモ應用經濟學ナ説カザルコト也。モシ社會經濟學ニシテ前者ノ二部門ヨリシテ成ルトセバ博士ノ著書ハ宜シク社會經濟學第一卷又ハ上巻ト題スベキニ非ラズヤ。  
 第二ノ疑問ハ博士ノ著書社會經濟學中第四一頁ヨリ第四六九頁ニ至ル「上巻總論」ナルモノ

ノ性質如何ニアリ。コハ純正經濟學ノ一部分カ、應用經濟學ノ一部分カ、コレ疑フベキ也。予ハ其ノ總論中ニ包含セル事項ノ主要ナル部分ハ、以テ予ノ所謂經濟學原論ニ於テ説クベキモノト信ズ。

第一 經濟政策學 (一名 經濟行政學 又ハ 經濟的行政學)

甲 經濟政策汎論

イ 度量衡政策

ロ 貨幣政策

ハ 保險政策

ニ 經濟政策各論

ホ 交通政策

ヘ 協同企業政策

ト 工業政策

ハ 商業政策

ニ 社會政策論

第三 單獨經濟政策學

甲 財政學

乙 私經濟學

イ 家事經濟學

ロ 產業經濟學

コノ分科ニ就イテモ種々ノ疑アリ予ノ説ハ別ニ之ヲ揭ゲタルガ故ニ一々茲ニ異同ヲ辯セズ。只ダ一言博士ノ分科ソノモノニ矛盾アルヤノ疑ヲ一言セントス。  
 博士曰ク他ノ一(應用經濟學)ハ前者ノ結果ヲ應用シ他ノ學問ノ原理原則ヲ斟酌シ以テ社會國家經濟上ニ於ケル目的ヲ達シ其ノ社會國家ノ繁榮ヲ圖ルノ手段方法ヲ研究シ、説明スルヲ以テ目的トス。今マ其ノ應用經濟學ノ一分科トシテ私經濟學アリ。而シテ私經濟學トハ現社會制度ノ下ニ棲息スル各個人又ハ個人ノ集合ニ成レル私的團體ガ如何ニセバ最

モ善ク時ノ事情ニ應ジテ其ノ經濟ヲ運轉シ得ルヤヲ攻究スルモノナリ。乃チ知ル應用經濟學トハ社會國家ノ繁榮ヲ圖ルノ手段ヲ講ズルモノ、而シテ私經濟學トハ私的團體ノ繁榮ヲ圖ルノ手段ヲ講ズルモノナリ。サレバ後者カ前者ノ一分科ナリト云フハ余ノ解シ難シトスル所ナリ。

くらいんをびたノ説

氏ノ説ク所ハ左ニ譯出スルガ如シ。今日ノ通説ト見ルベシ。

國民經濟學トハ經濟ヲ以テ研究ノ目的物ト爲スノ學ナリ。而シテ既ニ述ベタルガ如ク凡テ學ナルモノハ多數ノ現象ニ貫通セル通素ヲ研究スルモノナルガ故ニ國民經濟學モ亦々經濟生活上ニ於ケル多數ノ現象ニ就キ其ノ通素ヲ求ムルヲ以テ目的ト爲ス。而シテ之ヲ大別スレバ次ノ如ク分タル。

(一)所謂理論的國民經濟學 先ツ經濟學ノ目的トスル所ハ經濟ノ職分、經過ヲ明カニシ、而シテ之ニ參與セル諸要素ノ性質ヲ研究スルニ在リ。猶ホ少シク之ヲ説明スベシ。凡テ經濟ノ本性タル——既ニ屢々述ベタルガ如ク——吾人人類ノ慾望ヲ満足センガ爲メノモノナリ、換言スレバ凡テ經濟ノ本性ハ吾人が吾人ノ慾望ヲ満足センガ爲メニ必要トセル財ヲ作り出スニ在リ、更ニ之ヲ換言スレバ經濟ノ本性タルハ吾人カ吾人ノ慾望ヲ満足センガ爲メニ必要トセル財ヲ生産スルニ在リ、而シテ財物ヲ生産セントスルニ當ツテハ吾人ハ原料主成原料及ヒ時トシテハ助成原料、道具及ヒ人ノ勞力ヲ必要トス、而シテ其ノ原料(主成原料、助成原料)ハ勿論、道具ヲ作り出スベキ原料等ハ凡テ之ヲ外界ノ自然ヨリ獲得セザルベカラズ。今マ此ノ如キ方面(即チ自然科學ノ方面)ヨリ觀察スル時ハ財ノ生産ハ一ノ技術的經過トナルモノニシテ、而シテ此ノ方面ヨリ生産ノ經過ヲ觀察スルハ技術ノ學ノ目的トスル所ナリ。シカルニ此ノ點ニ就イテ更ニ別種ノ方面アリ。即チ今日

吾人ノ生活セル社會ハ私有財產制度行ハレ、分業的生產及ヒ分易ノ行ハレツ、アル社會ナリ、即チ各個人ハ自己ノ生産物ヲ以テ直チニ其ノ慾望ヲ満足スニ非ラズシテ、他人ノ慾望ヲ満足セントノ目的ヲ以テ財ノ生産ニ從事シツ、アル時代ナリ。即チ今日ニ於イテハ財ノ生産ソノモノハ第一ノ目的ニ非ラズシテ、目的ヲ達スル爲メノ手段ナリ。吾人ハ其ノ財ヲ以テ直接ニ自己ノ慾望ヲ満足セントスルニ非ラズシテ、只ダ之ヲ他人ニ販賣センガ爲メニ生産スルナリ。而シテ之ヲ販賣シテ得タル利得金ヲ以テ始メテ自己ノ必要トスル財ヲ購買シ之ヲ其ノ消費ニ充ツル也。サレバ今日ノ經濟社會ニ於イテ財ヲ生産スルノ手段ト爲ルモノハ原料、道具及ヒ勞力、吾人ノ單一經濟ニ向ツテ營利ノ手段トナルモノナリ。是ガ故ニ經濟學ハカノ自然(吾人ノ所有ニ歸シ得ベキモノ)即チ土地及ヒ吾人ノ所有ニ歸シ得ラザルモノ(即チ太陽ノ光線、氣候、其ノ他ノ他ノ財產、所有、所謂資本、所有、及ヒ勞力、自己ノ勞力及ヒ雇傭セル勞力)カ營利手段トシテ如何ナル重要サヲ有スルモノナルカヲ研究セザルベカラズ。

而シテ次ギニ又々國民經濟學ニ於イテハ多數ノ經濟現象ニ貫通セル通素ノ發見ヲ易メザルベカラズ、恰モ動物學ニ於イテ動物ノ解剖的構造ヲ研究シ、其ノ研究ノ結果ニ從ツテ各種ノ動物ヲ種々ノ分類ニ區別スルガ如シ。即チ吾人が經濟現象ニ就イテ觀察ヲ爲ス時ハ、營業團體又ハコレト同様ノ營利經濟ヲ營メル各個人ノ經濟經濟的行動ハ大體ニ於イテ其ノ性質ヲ同ウスルコトヲ發見スベシ、而シテ此ノ事情ハ一方ニ於イテハ經濟上最も重要ナル關係ヲ有スル種々ノ問題ヲ惹起シ、又々他方ニ於イテハ之ト等シク最も重要ナル關係ヲ有スル經濟上ノ制度ヲ惹起スルニ至ルナリ。例ヘバ各營利經濟ニ於イテハ出來得ベキダケ多クノ營利ヲ爲スヲ以テ其ノ根本ノ目的トナシツ、アルモノナルガ、其ノ結果トシテ工業上ニ於イテハ大工業ノ發生ヲ見ルニ至ルナリ。而シテ此ノ大工業

ナルモノハ勿論小工業ノ上ニ一大壓迫ヲ加フルモノニシテ、コレガ爲メニ手工業問題ト云ヘル問題ヲ生ズルニ至ルナリ。シカルニ出來得ベキダケ多クノ營利ヲ爲サントノ努力ハ是等ノ大工業ヲシテ出來得ルダケ其ノ生産ヲ擴張セシムルニ至ル、而シテ凡テノ大工業者皆ナ然ルガ故ニ、屢々生産上及ヒ販賣上恐慌ヲ起スニ至ルナリ。既ニシテ各工業者ハ是等ノ恐慌ヨリ生ズル損害ヲ豫防スルノ必要ヲ自覺スルニ至リ、カクテ企業者ノ聯合タルカ、或る等ノ發生ヲ見ルニ至ルナリ。又々凡テノ營利經濟ニ於テハ出來得ルダケ多クノ利儲ヲ得ント欲スルヨリ、自ラ其ノ生産費ヲバ出來得ル限リ節約スルモノナリ、從ツテ其ノ結果トシテ勞動者ノ勞働ハ可成之ヲ削減シ、而シテ其ノ勞動ノ給付ハ可成之ヲ多カラシメント欲スルニ至ルナリ。カクテ勞動者ハ是等企業者ノ強迫ニ對抗スルノ必要ヲ感ズルニ至ルモノニシテ、現時ノ勞動者運動ノ類、マダ茲ニ胚胎ス。

又々他方ニ於テハ——既ニ述ベタルガ如ク——各種ノ經濟ハ自ラ同様ノ慾望ヲ有スルモノナルガ故ニ、其ノ結果トシテ經濟上種々ノ制度行ハル、ニ至ルナリ例へバ現時ノ分業的個人經濟ハ其ノ相互ノ間ニ貨物ノ交易アルコトヲ前提ト爲ス。シカルニ交易ヲ爲ズガ爲メニハ度量衡及ヒ交換ノ機關ヲ必要トス、カクテ度量衡ノ制度及ヒ貨幣制度ノ成立ヲ見ルニ至ル。而シテ貨幣交易廣ク行ハル、ニ至ル時ハ時トシテ或ル經濟ニ於テハ貨幣ノ餘裕アリ、而シテ他ノ經濟ニ於テハ之ガ欠乏ヲ訴フルガ如キ事起ル、是ニ於テテカ信用ニ關シテ種々ノ制度起ルニ至ルナリ。又個々ノ經濟主體ハ自己ノ經濟タル大事業ヲ企ツルカ爲メニハ餘リニ小ニシテ到底之ニ當ルコト能ハザルヲ自覺スルコトアリ、然シテ是ガ爲メニハ他ノ經濟主體ト聯合スルノ必要ヲ悟ルニ至リ、カクテ各種ノ營利會社ノ類設立セラレ、ニ至ルナリ。

扱テ以上述フルカ如キ所謂問題及ヒ各種ノ經濟上ノ制度ハ、凡テ國民經濟學ニ於テ論

ズル處ニシテ、其ノ發生及ヒ沿革ヲ研究シ、説明スルハ、正ニ新學ノ任務ナリ。即チ多數ノ中ニ通素ヲ求メ以テ同種ノ經濟ニハ常ニ同種ノ慾望起リ、而シテ其ノ結果トシテ經濟上ノ現象ハ常ニ殆ト同一ナルノ所以ヲ説明スルナリ。

シカルニ國民經濟學ノ職分ハ未ダ茲ニ盡キタルニ非ラズ、其ノ第三ノ職分ハ余輩之ヲ記述的解剖學及ヒ生理學健康體及病體ノ範圍ニ屬セルモノト畧々同一ノ種類ニ屬スベキモノト思フ。記述的解剖學ニアリテハ、動物ノ構造ヲ研究シ、其ノ個々ノ機關ノ説明ヲ爲スナリテ目的トナス。乍併、只ダ單ニ是等ノ機關ノ研究ヲ爲シタルノミニテハ、未ダ以テ充分ナリト云フベカラズ。モシ生活ノ經過ヲ了解セント欲セバ、吾人皆ニ臟腑心臓、肺臟等ノ機關ヲ有スルコトヲ知ルニ止マラズシテ、更ニ進ンテ其ノ各種ノ機關カ生活ノ維持ノ爲メニ如何ナル勤務ヲナシ、如何ナル作用ヲ分擔シツ、アルヤ、其ノ相互ノ間ニハ健全ナル場合ト病的ナル場合トナ同ハズ、如何ナル影響ヲ及ボシツ、アルヤ、又々是等ノモノガ相集ツテ如何ニ其ノ本體ノ生活ヲ維持シツ、アルヤ等ヲ研究セザルベカラズ。國民經濟學ニ在ツテモ亦タ之ト同様ナリ。例へバ企業者ハ何故ニ勞動者ヲ壓迫シ、又々如何ニ壓迫シツ、アリヤトノ事實ヲ知ルヲ以テ足レリトスルモノニ非ラズシテ、更ニ進ンテハ、其ノ壓迫ハ如何ナル影響ヲ勞動者ニ及ボスモノナリヤ、之ガ爲メニ勞動者ノ健康及ヒ消費能力ハ如何ナル損害ヲ受ケツ、アリヤ、而シテ此ノ如キ消費能力ノ減少ハ工業及農業其ノ他ノ産業ノ全體ノ状態ノ上ニ如何ナル影響ヲ及ボスモノナルヤヲ研究セザルベカラズ。又々勞動者ハ如何ニシテ企業者ノ壓迫ニ對抗セルカ、勞動者運動ナルモノハ如何ニ多數ノ勞動者ヲ教練スルノ力アルモノナルカ、而シテ其ノ結果ハ企業者及ヒ其ノ生産業ノ上ニ如何ナル影響ヲ及ボスモノナルカ等ヲ研究セザルベカラズ。而シテ又々、凡テノ經濟的行爲、經濟上ノ制度等ハ、國民全體ノ需要ヲ適當ニ満足サスガ爲メニ、如何ナル

關係ヲ有スルモノナルヤノ問題ニ至リテハ、固ヨリ其ノ看過スベカラザル所ナリ。  
 (二)經濟史 以上述ベタル諸種ノ問題ハ、所謂國民經濟通論又ハ理論的國民經濟學ナルモ  
 ノ、範圍ニ屬ス。シカルニ、既ニ述ベタルカ如ク、學ノ職分ハ僅ニ如上ノ範圍ニ止マルベ  
 キモノニ非ラズ、即チ學問上ノ慾望ハ、單ニ現在ノ狀態ヲ知悉スルヲ以テ足レリトセズ  
 シテ、更ニ進ンテハ、如何ニシテ現在ノ狀態ハ發生セシカ、如何カ故ニ恰モ現在ノ狀態ヲ保  
 面シテ他ノ狀態ヲ保ツニ至ラザリシカノ理ヲ研究セント欲スルモノナリ。是ニ於イテ  
 カ、國民經濟學中經濟史ナルモノ起リ、各國民ノ經濟生活ニ就キテ其ノ如何ニシテ又々如  
 何ナル影響ヲ受ケテ、今日ノ狀態ニ發展シ來リシカヲ研究スルナリ。どいつニ於イテ所  
 謂歷史派(シ)ら一及ヒ其ノ多數ノ門下生ト稱スルモノハ、即チ主トシテ此ノ部門ノ研究  
 ニ從事シツアル也。

(三)所謂特別的又ハ實地的、或ハ應用的國民經濟學一名國民經濟行政學又ハ國民經濟政策  
 學。學ノ中ニハ、技術ヲ以テ、其ノ研究ノ目的、物ト爲スモノアルコトハ、既ニ述ベタル所ナ  
 リ。國民經濟學ニ於イテモ亦タ然リ。思フニ生活ニ必要ナル資料ヲ得ルコトハ、個人ノ  
 生活ニトリテモ又々國民ノ生活ニトリテモ、實ニ重大ナル關係ヲ有スルモノナリ、故ニ荷  
 クモ人類が共同生活ヲ爲スニ至リタル時ハ、其ノ共同團體ノ主權ハ經濟生活ノ上ニ一定  
 ノ注意ヲ施サザルモノナシ。或ハ主權者自ラ一般國民經濟ノ一部分ヲ自ラ之ヲ經營  
 スルコトアリ、或ハ其ノ國民ノ分子ノ經濟ノ進歩ヲ助長シ、或ハ之ニ向ツテ一定ノ方向ヲ  
 指導スルコトアリ、其ノ方法ハ必ズシモ一ナラズト雖モ、苟クモ團體ヲ成立スルニ至ラバ、  
 其ノ主權者ハ常ニ凡テ經濟生活ノ上ニ一定ノ注意ヲ施サザルモノナシ。此ノ如ク國民  
 ノ經濟生活ノ上ニ一定ノ施設ヲ爲スコトヲ稱シテ「國民經濟行政」又ハ「國民經濟政策」ト云  
 フ、而シテ此ノ如ク一定ノ施設ニヨリテ國民經濟ノ發達ヲ計ルコトハ固ヨリ實際ニ關ス

ルモノニシテ、所謂技術ノ範圍ニ屬スルナリ。今モシ此ノ經濟行政ナルモノニ就イテ觀  
 察センカ、固ヨリ千種萬種ナリトモ雖モ、吾人ハ其ノ多數ノ現象ノ中自ラ通素ヲ發明スル  
 ニ至ルヘシ。而シテ其ノ通素ヲ發明スルニ當リテ、吾人ハ之ヲ二種ノ方面ニ於イテ爲シ  
 得ベシ。

第一ニ、余輩ハ一定ノ時期ヲ限リテ多數ノ國ヲ一時ニ研究シ、以テ其ノ經濟行政ト其ノ國  
 民ノ經濟生活トノ間ニ於ケル關係ヲ研究スルコトヲ得ベシ。而シテ人モシ此ノ種ノ研  
 究ヲ試ムル時ハ、各國ニ於イテ其ノ國民ノ農業、礦業、漁業、工業、商業、信用機關、交通機關ノ發  
 達ノ爲メニ種々ノ方策ノ用ヒラレツ、アルヲ發見スベシ、而シテ是等ノ方策タルヤ(土地  
 束縛ノ制度又ハ土地自由ノ制度)——所謂續業自由ノ制度——航海業獎勵金ノ制度——  
 手工業組合ノ制度又ハ工業自由ノ制度——勞働者保護法——銀行法——鐵道法等皆ニ  
 相類似セルノミナラズ、往々ニシテ全然同一ナルモノアルヲ見ルコトアラシナリ。  
 第二ニ、余輩ハ只タ或ル一國ヲ限リ、以テ其ノ經濟行政ノ沿革ヲ研究スルコトヲ得ベシ。  
 而シテ、コノ場合ニ於イテモ、之ヲ一見スル時ハ種々ノ政策ハ互ニ錯雜シテ毫モ何等ノ秩  
 序ナキガ如クナレドモ、委細ニ之ヲ觀察スル時ハ、其ノ間自ラ一定ノ系統アリ、其ノ根底ニ  
 ハ之ヲ貫通スルノ理想アルコト、又々是等ノ政策タル常ニ其ノ時其ノ場合ノ關係ニ適合  
 スルガ爲メニ種々ノ變化ヲ爲セルモノナルコト、又々タトヒ種々ノ變遷アリト雖モ、シカ  
 モ其ノ窮極ノ目的トスル處ハ一ニシテ、只タ國民ノ經濟ヲ發達セシメントスルニ在リシ  
 コト、等ヲ發見スルニ至ルベシ。

(四)財政學 凡テ共同團體ハ其ノ極メテ小ナルモノヨリ大國家ニ至ルマテ、凡テ其ノ職  
 分トスル所ノ事業ヲ實行スルガ爲メニ一定ノ物質的材料ヲ必要トスルモノニシテ、之  
 が爲メニ凡テ共同團體ハ又々必ズ自己ノ經濟——即チ「財政」——ヲ營マザルベカラズ。



而シハ、コノ財政ニ就テ、學問的ノ研究ヲ爲スモ、ハ、又、タ、等シク、國民經濟學ノ一科ニシテ、所謂財政學ト云フモノ、コレ也。而シテ、財政ニ關シテ、複雜ノ中ニ、通案ヲ求ムト云ヘル學問的研究ヲ爲スノ方法ハ、經濟政策學ノ場合ト等シク、二個ノ方法アリ。先ヅ第一ニハ種々ノ(公)共同團體ノ財政ヲ比較研究スルコトヲ得ベシ、即チ、種々ノ國家、所謂國家以上ノ團體(國家連合、連合國家、同盟等)及ヒ所謂國家以下ノ團體(府縣郡市町村ノ類)等ノ財政ヲ互ニ比較シテ研究スルナリ。而シテ、吾人モシ此ノ種ノ研究ヲ爲ス時ハ、吾人ハ多數ノ財政中ニ一定ノ通案アルヲ發明スルニ至ルベシ、例ヘバ、凡テノ團體ハ、其ノ歲入ノ財源(所謂公有地、租稅等)ヲ有スルモノナルコト、租稅ハ、凡テノ團體ヲ通シテ、大體同一ナルコト、多クハ、所謂公債ナルモノヲ有スルコト等、即チコレナリ。次キニ、又、タ、吾人ハ、一々各國ノ財政ニ就キ之ガ歴史的發展ヲ研究スルコトヲ得ベシ、而シテ、此ノ場合ニ於テハ、各國ノ財政タル次ノ諸點ニ於テ、略々一致スル所アルヲ發見スベシ、即チ、第一ニ、全國ノ租稅ヲ統一スルコト、舊來行ハレタル地方的ノ差別ヲ廢スルコト、第二ニ、稅源ハ、常ニ枯涸セザル様努ムルコト、第三ニ、國民ヲシテ、租稅ノ負擔ヲ容易ナラシムル爲メ、可成租稅ノ種類ヲ多クスル等ノ類コレナリ。其ノ他、又、タ、一方ニ於テハ、租稅、他方ニ於テハ、國家的の制度ガ國民經濟ノ上ニ如何ナル影響ヲ及ボセルモノナルヤヲ研究ス。

(五)國民經濟學史 凡テ他ノ學ニ於ケルト等シク、國民經濟學ニ於テモ、學ソノモノ、發展ヲ研究スルヲ以テ目的トセル一科ノ學アリ。此ノ學ニ於テハ、種々ノ學者ガ經濟上ノ出來事及ヒ現象ニ就キ如何ナル思想ヲ有シタリシカ、如何ナル國民經濟上ノ理想(共產主義、社會主義、個人主義、橫商主義、重農主義等)ヲ抱キタリシカ、而シテ、是等ノ思想及理想ハ、時ノ關係ニ於テ如何ナル變遷ヲ經タルモノナルヤヲ研究ス。

國民經濟學ノ分科ハ、以上述アル所ニ據リテ、明カナラン。即チ次ノ如シ。

一、理論的國民經濟學

二、經濟史

三、所謂應用的國民經濟學 又ハ、經濟政策學、即チ、經濟生活ノ種々ノ方面ニ對シテ、國權ハ如何ナル關係ヲ有スルヤヲ研究スルノ學。

四、財政學、即チ、各種ノ公共團體ノ財政ヲ研究スルノ學。

五、經濟學史。

乍併、モシ少シク系統的ニ分類セント欲セバ、寧ロ之ヲ三大部門ニ分ツベキモノトス。即チ

一、理論的國民經濟學

二、所謂應用的國民經濟學 又ハ、經濟政策學

三、財政學

而シテ、經濟史及ヒ經濟學史ノ二者ハ、以上ノ三者ニ分屬セシムルコトヲ得ベシ、蓋シ如上ノ三大部門ハ、其ノモノト、歷史及ビ之ニ關スル學說ノ歷史ヲバ、各々具有スルモノナレバ也。

純正經濟學及ヒ應用經濟學ノ別ヲナシ得ルヤ否ヤ

コノ問題ニ關スル學者ノ議論ヲバ、大體ニ於テ、二分スルコトヲ得ベシ。

其ノ一ハ、二者相分ツベカラズト爲セルモノ也。  
其ノ二ハ、二者截然トシテ相分ツベシト爲セルモノ也。  
以下少シク之ヲ説明セン。



定ムルコトナクシテ、經濟的現象ヲ記述シ且ツ説明スルコト能ハザルカ、吾人ハコノ點ニ就キ何等固有ノ理由ヲ發見スルニ困ム。

固ヨリ經濟上ノ現象ヲ明ニセズシテ、其ノ倫理的價值ヲ判定シ、又ハ經濟上ノ進歩ニ對スル目的ヲ指示スルコト能ハザルベシ。例ヘバ、先ヅ自由競争ノ結果ノ如何ナルベキヤヲ知リタル後ニ非レバ、其ノ結果ガ吾人ノ理想ト合致スベキヤ否ヤヲ知ルコト能ハズ。……乍併競争ニ本ク經濟上ノ現象ヲ記述シ説明スルコトハ、之ヲ以テ理想的標準ニ徴シ、其ノ利害得失ヲ論ズルコトナクシテ爲シ得ベシ。

カクテ氏ハ、純正及ヒ應用ノ二門ヲ分ツベカラズト云ヘル議論ノ因ツテ生ゼシ原因ヲ求メ左ノ二者ヲ擧ゲテ之ヲ駁シタリ。

一、倫理上ノ判斷ヲ下スコトナク、又々其ノ目的トスル理想ニ關係ナクシテ、經濟上ノ法則ヲ論ズル時ハ、其ノ結果道德ト經濟トハ全ク關係ナキモノトナルノ弊アリト爲スノ説、氏ハ之ニ對シテ、(一)コノ説タル專ラ事實ヲ論ズル學ヲ以テ利害得失ヲ論ズルノ學ト同一視シタルノ誤謬ニ本クコト、(二)從來ノ經濟學者ノ或者ガ人類ノ倫理的的思想ヲ無視シ、我利一偏ノモノト如ク看做シタルノ弊ハ、事實的經濟學ノ欠點ニハ非ラズシテ學者ソノモノカ事實ノ觀察ヲ誤リタルモノナルコト等ヲ擧ゲテ之ヲ駁論シタリ。

二、經濟ノ術ハ經濟ノ發達上實際ニ於イテ大ナル影響ヲ及ボシタルモノナルカ故ニ、實際ノ事實ヲ研究スルノ學ハ術ヨリ離レテ研究スルコト能ハズトナスノ説、氏ハ之ニ對シテ、コノ説タル過去ノ理想政策ヲ以テ既存ノ事實ト認メ得ザルノ誤謬ニ本クト爲シタリ。

次ギニ氏ハ此ノ二者ヲ區別シテ論セザルガ爲メ生ズル弊害ヲ列擧シテ左ノ如ク論シタリ  
一、「斯クノ如シ」ト云フコト、及ビ「斯クアルベキモノ」ト云フコトノ二問題ニ對スル研究ヲ混

同スル時ハ、コノ兩者ニ對シテ明白不偏ノ解決ヲ與ヘ難シ。例ヘバ自由競争ノ實際上ノ結果如何ヲ明瞭ニ研究シタル後ニ非ラザレバ、其ノ利害ヲ論ズルコト難シ、故ニ先ヅ事實的研究ヲ爲シ、然後之ガ利害ヲ斷スベシ。

二、二者ヲ混同スル時ハ、世人ヲシテ惑ルベキ誤解ヲ生ゼシム。即チ學者ハ「斯ノ如シ」ト云フ事ヲ説明セルニモ拘ラズ、「斯ク」ノ如クスベシト論シタルガ如ク誤解スルコト屢々ナリ。

三、「斯ノ如シ」トノ事實ニ關スル研究ハ、學問ノ進歩ニ伴フテ學說一二期スベシ。之ニ反シ「斯ノ如クスベシ」トノ理想ニ關スル研究ハ、學說ノ一二期スルコト必ズヤ前者ニ比シテ後ルベシ。學問進歩ノ爲メニ計ルニ、前者ト後者トハ速カニ之ヲ分離シテ獨立ノ學ト爲スベシ。

予ハ殆下大ナル修正ヲ加フルコトナクシテ、氏ノ說ニ贊同ス。委シクハ天野博士『經濟研究法』ニ就イテ見ヨ。 ちいちるノ說亦々大要之ト同シ。

**純正經濟學ノ職分及ビ名稱**

純正經濟學ハ既存ノ事實ヲ事實アリノマ、ニ記述シ説明スルノ學ナリ、而シテ其ノ研究事項ハ實態、理想、政策ノ三ニ屬スルガ如ク思惟スルハ、從來ノ學說ノ欠點ナリ。例ヘバ、めるがんちるしすてむナル經濟政策ハ如何ナルモノナリヤ、其ノ實際ニ及ボシタル效果ハ如何ナリシヤ、又々其ノ政策ノ因ツテ生ゼシ理想換言スレバ政策ノ目的トシタル處ハ如何ナリシカ、是等ノ問題ハ凡テ一ノ事實ニシテ純正經濟學ノ研究材料ナリ。シカルニ政策ト云ヒ理想ト云ヘバ、凡テ純正經濟學ノ範圍外トナスハ、小林五三郎氏ノ如キハ最モ此ノ弊ニ陷ル大ナル誤謬ナリ。コレコノ部門ノ職分ニ關スル世上ノ第一誤謬。

或ハ又々ちいちるノ如キハ純正經濟學ヲ以テ一ノ空想ノ學ト爲シ去ラントセリ、氏ハ理論

的社會經濟學ノ第一前提トシテ心理上ノ前提 (Die psychischen Prämissen) ナルモノ三ヲ掲ゲ  
タリ。(Sozialökonomik, S. 78, ff.)

一「經濟人」(Wirtschaftsmenschen)ノ前提

二「最小費用ノ原則」(Prinzip des kleinsten Mittels)ノ前提

三「經濟人ハ一定ノ事實ノ發生ニ依リテ生ズベキ經濟上ノ變動(豐作ナラハ米價下落スト  
云フノ類)ヲ豫知セルコトノ前提

扱テちちるノ所謂理論的經濟學ニ於テ取扱フ人間ハ凡テ此ノ三條件ヲ具備スルモノ  
タルナリ(實際ノ人間ハ凡テ然ルニ非ラザルヤ論ナシ)。次ギニハ其ノ人々が如何ナル經濟  
組織ノ下ニ活動スルカヲ定メザルベカラズ。是ニ於テカちちるハ更ニ社會的前提  
(Die sozialen Prämissen)ヲ必要トス、而シテ社會的前提トシテ社會ノ經濟組織ハ遠心的組織(競  
争制度)又ハ求心的組織(共同制度)ノ何レカ一タルベキコトヲ必要トスト爲シタリ。  
要スルニ、氏ノ理論的經濟學ハ一定ノ模範的(規範的)人間ヲ想像シ、此ノ如キ人々ノ活動が二個ノ模  
範的社會ニ於テ活動スル場合ノ經濟現象ヲ研究スルモノナルナリ。

コノ點ニ就キ予ハ全然氏ノ説ニ反對シ、之ヲ以テ甚シキ誤譯トナス。コレ予が純正經濟學  
ノ職分ニ關スル第二ノ難點トナスモノ也。

純正經濟學ハ一ニ理論的經濟學ト稱セラル。モシちちるノ如キ研究法ヲ用ヒバ理論的  
ナル文字ハ頗ル適當ス。乍併予ハ此ノ如キ研究法ヲ用ヒザルノミナラズ、本邦ノ學界ニ於  
イテハ、純正經濟學ノ名稱廣ク用ヒラル、故ニ之ニ從ヘリ。

應用經濟學ハ學ニ非ラズトノ説

ニ述ベタリ。

コレ小林丑三郎氏ノ論ナレドモ、コレ術ト術ニ關スル  
學トヲ混同シタルモノニシテ取ルニ足ラザルコト既

應用經濟學ヲ學ニ非ラズト爲セルノ説ヲ駁シタル金井博士ノ説明(社會經濟學、一六九、一七  
〇頁)ハ不充分ト云フヨリモ寧ロ誤譯ノ思想ヲ含ムモノト云フベシ。

純正經濟學ト應用經濟學トノ差異

一ハ既存ノ事實ニ就イテ論シ、一ハ未發ノ事實ニ就  
イテ論ズ、コレ根本ノ差異ナリ。

シカルニ金井博士が前者ヲ以テ「純粹ノ真理」ヲ講ズルモノトナシ、後者ヲ以テ「眞理ノミチヲ以  
テ目的トセズ眞理ヲ基トシテ利害得失ノ關係ヲ攻究シ之ニ對スル手段方法ヲ指示スルモ  
ノ」トナサレタリ。乍併予ノ見ル處ニ據レバ利害得失ノ關係ヲ論ズルコト其レ自身モ等シ  
ク亦々眞理ヲ説クコトヲ目的トスルモノナリト信ズ。純正ノ部門ト應用ノ部門トノ差異  
チ「眞理ヲ説クコトヲ目的トス」ルト否トニ在リト爲スハ、予ノ探ラザル所ナリ。

ちちちるハ一ハ抽象的ナリ一ハ具象的ナリト云フヲ以テ區別ト爲セリ。即チ理論ノ部門  
ニ於テハ實際ノ社會以外ノ社會ヲ想像シテ論ズ、コレ實地的經濟學ノ部門ト異ル所以ト  
ナス也。余ノ之ヲ取サザルヤ論ナシ。

應用經濟學ノ名稱

應用經濟學ハ一ニ實地的經濟學ト云フ。コノ名稱タルちちちるノ  
如ク實際ニアラザルモノト對立セシメタルモノニハ甚ダ適當ナラ

ン。乍併予ハ純正應用共ニ實際ニ就イテ論ズト爲スガ故ニ實地的ナル名稱ヲ取ルノ必要  
ナシ。殊ニ我が國ニ於テハ應用經濟學ナル名稱廣ク行ハルル故ニ余ハ之ニ從フ。

或ハ之ヲ經濟政策學ト云フ人モアリ。乍併政策學ハ應用經濟學ノ一部分ナルガ故ニ精確  
ニ内容ヲ示サザルノ欠點アリ。

一般經濟學及ビ特別經濟學ノ區別

Allgemeine Volkswirtschaftslehre, Spezielle Volkswirtschafts-  
lehreノ名稱ヲ用ヒテ、純正應用ノ名稱ニ代エントス

ルモノアリ。しちちるら一ノ如キ其ノ一例ナリ。氏曰ク

序論 經濟學 經濟學ノ範圍、職分及ビ分科

Dieser hat die Volkswirtschaftspolitik und die Finanzwissenschaft von der Volkswirtschaftslehre getrennt, in der Volkswirtschaftspolitik die Tragstrahlen des Agrar-, Gewerbs- und Handelswesens unterschieden; in der Volkswirtschaftslehre betrachtet er im Anschluss an Smith die Kräfte als ein im ganzen von Staat, Verwaltung und Politik unabhängiges System, hatte dabei in erster Linie die Produktions- und die Verkeers-erscheinungen auf Grund der freien Konkurrenz im Auge; seine Volkswirtschaftspolitik war dazu die notwendige Ergänzung und Korrektur. Nach dem Standpunkt unserer heutigen Erkenntnis ist der Staat und die Wirtschaftspolitik auch in den allgemeinen Lehren der Volkswirtschaft nicht zu ignorieren. Und eben deshalb hat man mit Recht andere Namen für die zwei Teile gewählt, und hat mit den anderen Namen den Teilen auch eine andere Bedeutung gegeben. Man scheidet heute überwiegend—von der Finanzwissenschaft abgesehen—allgemeine und spezielle Volkswirtschaftslehre und versteht unter der ersteren den Versuch eines systematischen Ueberblickes über unser gesamtes volkswirtschaftliches Wissen, ohne Einreden in die Spezialfragen der Gegenwart, des eigenen Landes, der einzelnen Hauptzweige der Volkswirtschaft. (Grundriss, S. 124.)

この誤謬ニハ非ラズ。乍併經濟學各論經濟政策學ノ中ニ純正ト應用トノ二分科アリ得ルコトヲ忘ルベカラズ。しゆもるら一一般の經濟學ハ予ノ經濟學原論ト專ホ實質ヲ同ウスルが如シ。

經濟學ノ研究方法

ハ本書ノ補論トシテ追テ著者ノ見解ヲ述フベシ。乍併普通ノ教科書ニハ之ヲ序論中ニ述アルが故ニ暫ク讀者ノ便宜ノ爲メくらい入

國民經濟學ノ研究法ハ凡テノ學ノ研究法ト同一ニシテ即チ歸納法及ヒ演绎法ノ二ナリシカルニ二者ノ中其ノ何レヲ取ルベキカ又々應用ノ範圍ハ之ヲ何如ニスベキヤノ點ニ

リテハ學問ノ性質ニ依リテ種々ノ差異ヲ生ズルモノトス。國民經濟學ニ於イテモ亦之ト同シ。

技術ハ學ヨリ以前ニ存在セルコトハ多クノ學ニ於イテ見ル處ナルが國民經濟學ニ就イテ考フルモ亦々同様ナリ。例ヘバ醫學ノ未ダ成立セザリシ以前ト雖モ人類ハ既ニ病ヲ治療スルノ術ヲ知レリキ。物理學ト云ヘル學ノ發生以前既ニ數千年ノ昔ヨリ人類ハ器具及ヒ武器ヲ製造シ又々之ヲ使用シタリキ。之ト等シク經濟ヲ以テ學問的研究ノ目的トスルノ考ヲ起セシ以前既ニ數千年ノ昔ヨリ人類ハ常ニ經濟ヲ營ミツ、アリタリシナリ。シカルニ既ニ經濟ヲ營ムヤ社會ノ進歩ニ從ヒ自然ノ經過トシテ之ニ關スルノ學ハ略々ノ間ニ其ノ萌芽ヲ發スルニ至レリ即チ人ハ其ノ日々行フ所ノモノ又ハ日々取扱フ所ノ物ニ就イテ漸ク一定ノ考察ヲ試ミ以テ複雜ナル現象ノ間或ル程度マテハ之ヲ貫通スルノ通案アルコトヲ認ムルニ至リカクテ益々其ノ研究ノ範圍ヲ進ムルニ至ルモノナリ。是ニ於イテカ或ル程度マテハ——固ヨリ只々單ニ或ル程度ニ止ルト雖モ——國民經濟學ナルモノ、萌芽ヲ見ルニ至ルナリ。既ニ古代ニ於イテモ有名ナル學者ぶらこりすさてれす等ハ經濟上ノ問題又ハ現象ヲバ研究シ居タルカ如キ降テ中世ノ後葉ニ於イテハ二三ノ僞學者ガ亦々同一ノ研究ヲ爲シタルガ如キハ即チコレ也——然レドモ、固ヨリ固有ノ意義ニ於ケル學ノ成立ハ未ダシト云ハザルベカラズ。恰モ之ヲ醫學ニ例フレバ甲ハ心臟ヲ研究シ乙ハ眼ニ就イテ研究シ丙ハ胃腸又ハ肺臟ニ就イテ研究シタリト云フニ止マリ未ダ解剖學又ハ生理學ノ成立ヲ見タリト云フベカラズソノ始メテ之レアルニ至レリト云フヲ得ルハ是等ノ機關ガ互ニ密接ナル關係ヲ有シ相互ノ間ニ影響スル所アルヲ知リタルノ後ニアリ。思フニ國民經濟上ノ思想ニシテ何等ノ妨害ヲ受ケルコトナカラシカ多クノ他ノ學ニ於ケルト等シク絶エズ其ノ進歩ヲ爲シ益々真理ヲ闡明

スルニ至レルコト明カナリ。シカレニ、實際ニ於イテハ、國民經濟學ハ絶エズ平穩ナル發展ヲ持續スルコト能ハズシテ、經濟ニ關スル人ノ思想ハ國家ノ權力ノ爲メニ外部ヨリノ壓迫ヲ加ヘラルルニ至リタリ。

夫レ所謂近世ノ時期ハ、各地ノ領土カ自治的ノ都市團體ト絶エズ軋轢セシノ時代ナリ。當時領土ナルモノハ、其ノ領土チハ中央集權ノ下ニ統一シ且ツ其ノ領土チ擴張スルコトニ汲々タリキ。是ニ於イテカ、各地ノ領土ハ、自己ト密接ノ關係チ有スル多數ノ官吏及ビ常備軍チ必要トシタリキ。シカレニ、領土カ是等ノ貨幣チ其ノ臣民ヨリ徵收セントスルニ當リテヤ、其ノ臣民チシテ可成多クノ金銀チ處有セシムルコト必要ナリ。而シテ其ノ臣民チシテ多量ノ金銀チ處有セシムルカ爲メニハ、其ノ領土内ニ於ケル鑛山ノ採掘チ盛ニシ、又ハ其ノ生産物殊ニ工業品ハ其ノ原料ヨリモ途ニ高價ナルガ故ニ、可成ハ工業品チ他國ニ販賣シ、之ヲ以テ金銀ト交換セシムルニ如クハナシ。且ツ又々、一旦此ノ如クニシテ得タル金銀ハ再ビ他ノ方面ヨリ外國ニ流出スルコトナキ様注意スルノ必要アリ。是ニ於イテカ、一方ニ於イテハ、出來得ルナラバ金及ビ銀ニ關スル鑛業ハ勿論ノコト、工業及ビ商業チ隆盛ニシ、他方ニ於イテハ、貴金屬ノ外國ニ流出スルチ妨ガ爲メニ、國家ハ其ノ國民ノ經濟生活ニ關シテ種々ノ干渉チ爲スニ至レリ。世人ガ所謂「めるかんちる」シテ、下云フハ即チ此ノ經濟政策チ指スニ外ナラズ。事情此ノ如キガ故ニ、中世ノ初項以來我が經濟學ハ一大系統チ形成スルニ至リタリ、然レドモ、ソハ固ヨリ學問的ノ理論トシテニ非ラズシテ、實際的ノ技術トシテ發達シタルナリ。即チ當時ノ疑問ハ、「人類ハ如何ニ經濟スルモノナリヤ、各種ノ經濟チ貫通シテ如何ナル通素チ發見スルコトヲ得ルモノナリヤ」ト云ヘルカ如キ類ニ非ラズシテ「國民チシテ富マシムルガ爲メニハ如何ナル政策チ取ルベキモノナリ

ヤ、如何ナル方法ニヨリテ國民ノ福利チ増進スルコトヲ得ベキヤ」ト云ヘル問題ナリシナリ。

此ノ如キ外部ノ事情ノ爲メニ、國民經濟ノ理論ハ漸ク發生シ來リタルモノニシテ、新々ナル學ハ始メテ茲ニ其ノ萌芽チ發スルニ至リタリ。當時ノ執政者ハ學究的ノ經濟學者ニ非ラズ、毫モ思索ニ耽リシニ非ラズシテ、只ダ實際ノ上ニ活動チ爲シタルナリ、即チ國民經濟上希望スベキ事ハ之チシテ其ノ臣民ニ爲サシメ、國民經濟上ニ損害チ及ボスベキ事ハ之チ其ノ臣民ニ禁止シタリ。而シテ既ニ述ベタルカ如ク、當時ノ執政家ハ工業及ビ商業チ偏重スルコト甚シク、又々實際ニ於イテ之チ實行シタルカ故ニ、カノ農業ノ如キハ其ノ政策例ヘバ、原料ノ輸出ノ禁止ノ爲メニ甚ダ打擊チ受ケタルナリ。殊ニ「ふるんす」ニ於イテハ、るいどわひ十四世ノ治下ニ於イテ、有名ナル「ふるんす」ノ手ニ依リテ極端ナル「ふるんす」シテ、しすてむノ實行チ見タリシガ故ニ、農業ノ損害チ蒙ルコト甚シ。之ニ加フルニ當時「ふるんす」ニ於イテハ、貴族及ビ僧侶ハ租稅チ負擔スルコトナク、其ノ之チ負擔セシハ主トシテ農民階級タリシガ故ニ、農民ノ疲弊セシコト夥シ。是ニ於イテカ、同情ニ富メル二三ノ人士例ヘバ、ぼあきるべあ、一六四六生、一七一四死。有名ナル「ぼあきるべあ」一六三三生、一七〇七死カ農民階級ノ窮狀チ憂エ、當時ノ政策ノ批評チ爲スニ至リシハ、毫モ怪ムニ足ラザル也。カクテ是等ノ人々ノ主張ニナレル思想ハ、其ノ後益々勢力チ得、遂ニ「るいどわひ十五世」ノ侍醫タリシ「ふるんす」を「あけれ」(一六九四生、一七七四死)及ビ其ノ學派ニ屬スル人々ノ爲メニ確固タル系統——「重農主義」——チ組成スルニ至リタリ。

扱テ此ノ新學派カ從來廣ク行ハレタリシ「めるかんちる」シテ、しすてむチ攻撃スルニ當リテハ、其ノ根本ノ思想チバ國民經濟學上ヨリ打破スルノ必要アルナリ。シカラバ、めるかんちる。しすてむノ根本ノ思想如何ト云フニ、貨幣チ重ンズルコト甚シク、外國ニ輸出スルノ目

的ヲ以テ替ミツ、アル工業及ヒ商業ヲバ過重シ偏重シ、從テ農業ヲ賤シシモノナリ、又  
 タ此ノ目的ヲ達センガ爲メニハ國家ハ其ノ權力ヲ以テ種々ノ方面ニ向ツテ干渉スルノ  
 必要アリ、ト爲シタルナリ。コトニ於テ乎、新學派ノ代表者(ぼあきるべる)ハ、ゆるかんち  
 る。しすてむチ目シテ、國民ノ富ハ出來得ベキダケ多クノ金銀ヲ得ルニ在リト爲セルモノ  
 ト爲シ、カクテ彼ハ之ニ對シテ、貨幣ノ貴ブニ足ラズシテ、單ニ交換ノ媒介物タルニ過ギザ  
 ル所以、其ノ作用ハ單ニ紙幣ニヨリテモ之ヲ充スニ足ルベキ所以等ヲ論シタリ。夫レ富  
 ナルモノハ、單ニ金銀ニヨリテ成立スルモノニ非ラズ、吾人人類ノ生活ニ必要欠クベカラ  
 ザルモノコソ之ヲ富ト稱スベキモノナリ。サレバ、最も尊アベキ職業ハ工業ニ非ラズシ  
 テ、寧ロ農業(廣義)ナリ、蓋シ農業ハ吾人ニ向ツテ生活ノ資料ヲ供給スルノミナラズ、凡  
 テノモノ、原料及ヒ道具ハ凡ヘテ其ノ供給スル所ナレバナリ、トハ重農學派ノ論旨ナリ。  
 思フニゆるかんちるしすてむニ從ヘバ、貿易ヲバ出來得ベキダケ「可動的」ト爲シ、輸出ヲバ  
 可成輸入ヨリ多額ナラシメンコトヲ以テ、政策ノ最高ノ目的ナリト爲セルニ反シ、重農學  
 派ノ學者ハ之レヲ以テ誤謬ナリト爲シ、貿易ハ其ノ當事國ノ雙方ニ同等ノ利益ヲ與フル  
 モノニシテ、貿易ソノモノ、本質ハ一國ノ餘裕ヲ以テ他國ノ餘裕ヲ補フニ過ギザルモノ  
 ト爲シタルナリ。而シテ、又、ゆるかんちるしすてむノ思想ニ從ヘバ、工業及ヒ商業ヲシ  
 テ隆盛ナラシムルガ爲メニ國家ハ種々ノ政策(工業品ノ輸入禁止及ヒ輸出獎勵、産業上生  
 産方法ニ關スル種々ノ規則、貿易ノ目的物タルベキ工業品ノ證明檢印、大工業ノ免稅等)ヲ  
 行フノ必要アリト爲セルニ反シ、重農學派ノ學者ハ、經濟的生活ノ發達ヲ計ラント欲セバ  
 之ニ束縛ヲ加ヘザルヲ最も得策ト爲ス、之レニ干渉ヲ試ムルハ凡ヘテ非ナリト爲セルナ  
 リ。

事情此ノ如キガ故ニ、重農學派ニシテ當時ノ經濟政策ヲ攻撃セント欲セバ、勢ヒ經濟生活

ノ現象及ヒ經過ヲバ深く研究スルノ必要アルニ至レリ。即チゆるかんちるしすてむガ  
 一方ニ於テハ貨幣ヲ偏重シ、一方ニ於テハ商業ヲ偏重スルニ對シ、モシ之ヲ攻撃セン  
 ト欲センカ、自ラ貨幣及ヒ農工商ノ三業ノ性質ヲバ闡明スルノ必要アリ、即チ彼等ハ經濟  
 生活ニ關スル一定ノ制度及ヒ現象ヲハ研究スルノ必要ニ迫マラレシナリ。又、重農學  
 派ノ學者ニシテ、國民經濟ニ關スル國家ノ施設ニ反對セントセバ、人類ハ如何ニシテ經濟  
 ヲ爲シツ、アルモノナルヤ、トノ問題ハ彼等ノ解決セザルベカラザル所也。何トナレバ、  
 國家ガ種々ノ方策ヲ用ヒテ國民ノ經濟ニ干渉保護ヲ試ムルヨリモ、寧ロ各個人ノ自由ニ  
 放任シ、其ノ欲スル所ニ從ハシムル時ハ、却ツテヨリ善ク且ツヨリ完全ニ其ノ目的ヲ達シ  
 得ベキ所以ヲ説明スルノ要アレバナリ。此ノ如クニシテ、重農學派ノ學者ハ、當時ノ經濟  
 政策ヲ非難攻撃スルノ必要上ヨリシテ、勢ヒ經濟上ノ經過ヲハ學問的ニ研究スルニ至リ  
 タルナリ、乍併其ノ事情ハ、同時ニ他方ニ於テ、却ツテ將ニ萌芽ヲ發セントセル經濟學ヲ  
 ンテ岐路ニ走ラシムルニ至レリ、何トナレバ、當時ノ研究タル「國民ノ幸福ヲ増進スルガ爲  
 メニハ如何ナル政策ヲ取ルベキヤ」トノ疑問ヲ解決スルヲ以テ其ノ畢竟ノ目的ト爲シタ  
 レハナリ。

重農學派發生以後未タ幾干ナラズシテ、あだむすみす出テ、一七七六年ニ於テ其ノ大著  
 「國富ノ性質及ヒ原因ニ關スル研究」ヲ公ニシタリ。すみすが書中論ズル所ハ、深ク問題ノ  
 核子ニ入レリ。既ニ述ベタルガ如ク、ゆるかんちるしすてむノ學派ノ信スル所ニ據レバ  
 國民ヲシテ富マシメント欲セバ、出來得ベキダケ多クノ金銀ヲ處有セシムルニ在リ、而シ  
 テ國內ノ貨幣ヲシテ多量ナラシムル爲メニハ、輸出ヲ目的トセル工業品ノ生産ヲ以テ最  
 モ適當ナリト爲スナリ、而シテ重農學派ノ信ズル所ハ、之ト異リ、國民ヲシテ富マシメント  
 欲セバ、生活ニ必要ナル財ヲ増加セザルベカラズ、從ツテ農業コソ最も重要ナル産業ナリ

ト爲セルナリ。シカレニ、あだむすハ勢力ナルモノハ、其ノ工業上ノ勢力タルト農業上ノ勢力タルトチ同ハズ、一般ニ、凡テノ富ノ源泉タルモノナリト爲シタリ。乍併、其ノ他ニ至リテハ、あだむすハ殆ト重農學派ト同一ノ意見ナ有シタルモノニシテ、經濟上ニ於ケル國家ノ干渉ハ常ニ之ニ反對シタルカ故ニ、自然ノ結果トシテ、人類ハ如何ニシテ經濟スルモノナルヤ、コノ疑問ノ解決ヲ試ミタリ、乍去、コレト同時ニ、如何ニセバ國民ノ福利ヲ増進スルヲ得ベキヤトノ問題、從ツテ、國家ハ經濟生活ノ上ニ干渉スベキモノナリヤ、又タハ爲スベカラザルモノナルヤトノ問題ハ、彼ノ著書ノ標題ニヨリテモ想像サレ得ルガ如ク、常ニ彼ノ念頭ヲ去ラザリシ所ナリ。換言スレバ當時ノ經濟學ナルモノハ、未ダ國民經濟ノ理論ニ重キヲ置クニ至ラズシテ、國家ノ經濟政策ハ如何ナル政策ヲ以テ最モ希望スベキモノト爲スヤトノ問題ヲ研究スルニ止マリシナリ。

めるかんちるしすてむ以降あだむすニ至ルマテノ經濟學說ノ發展ノ大要ハ以上ノ如シ、今マ其ノ研究方法ニ就イテ觀察セバ、吾人ハ左ノ如ク約言スルコトヲ得ベシ。

めるかんちるしすてむニ在リテハ、學タルノ價值極メテ僅少ナリ、其ノ學問的ノ觀察ト云ヒ得ベキモノハ、只々國民ヲハ一ノ集合體ト看做シタルノ點ニ在リ。既ニ述ベタル如ク、古代及ビ中世ノ學者ハ只々個々ノ經濟問題ヲ論シタルノミニテ、未ダ其ノ間ニ於ケル相互ノ關係ヲ認識スルニ至ラザリキ、一ノ統一アル國民經濟ト云ヘル觀念ニ至リテハ彼等ノ欠如セシ所ナリキ。ソノ始メテ之ヲ認識スルニ至リタルハ、めるかんちるしすてむノ學者ナリト云ハザルベカラズ、如何ニセバ、全國民ヲシテ富マシムヲ得ベキヤトノ問題ヲ提出セシハ即チ其ノ證ト爲スベシ。乍併、未ダ當時ニ於イテハ經濟上ノ研究ニ關シテ、方法ナルモノノ發生スルニ至ラザリキ、何トナレバ、當時ノ政策タルモノ科學的ニ思索サレタルニ非ラズシテ、只々單ニ適當ナリト想像セル所ニ從ツテ之ヲ命シ之ヲ爲セシニ過ギザ

レバ也。

シカルニ、重農學派及ヒあだむすニ至リテハ、國家ノ取レルめるかんちるしすてむノ政策ヲ理論的ニ攻撃セントシタルモノナルガ故ニ、學問的ニ考察スルノ必要ニ迫マラレ、從ツテ學問的研究ニ關シ一定ノ研究方法ヲ取ラザルベカラザルニ至レリ。而シテ其ノ方法タル固ヨリ演繹法タリシコト言テ待タザラン、蓋シ多數ノ材料ヲ蒐集シ之ニヨリテ理論ヲ構成スルハ甚々容易ナラザル事業ナルニ反シ、明白ナル前提ヲ提ヘ來ツテ之ニヨリテ演繹的ノ推理ヲ爲スハ比較的容易ノ業タレバナリ。加之、モシ吾人ハ其ノ積極的智識ヲ以テシテハ到底解決シ難キ問題ニ逢遭スルニ當ツテハ、吾人ハ遂ニ之ヲ哲學化シ演繹的ノ論法ヲ爲スニ至ルハ、凡テノ方面凡テノ時ニ於イテ屢々見ル所ナリ。重農學派及ヒあだむすみす此ノ如クニシテ先ヅ演繹的論法ヲ取リ、一定ノ前提ヨリシテ其ノ決論ヲ演繹セント試ミタリ。即チ凡テノ人ハ皆ニ自由ナルノミナラズ、又タ凡テ平等ナリ、凡テノ人ハ凡テ平等ノ能力ヲ具有スルモノナリ、從ツテ各人ハ自己ノ利益ヲ最モ能ク自覺セリ、サレハ其ノ營利經濟ヲ營ムニ當リテモ、各人ハ凡テ同等ノ資格ヲ具フルモノナリ、トハ其ノ前提トスル所ナリ、而シテ此ノ如キ前提ヨリ演繹シテ、彼等ハ國家ガ國民ノ經濟的生活ニ干渉シ、各人ヲシテ其ノ好ム所ニ從ハシメザルハ、徒ラニ經濟ノ進歩ヲ阻害スルニ過ギザルモノナリ、ト決論シタリ。

乍併あだむすみすノ爲メニ、經濟學ハ邪路ニ導カル、ニ至リタリ。蓋シあだむすみすハすこゝらんどノ人ニシテ、英國ノ國民タリシナリ、シカルニ彼ノ國人タルいざりす人ハ極メテ營利ニ熱シタル事業家ニシテ、從ツテ計算問題ニハ甚々鋭敏ナルモノナリキ。而シテ、是等ノ事業家ニ向ツテハ、其ノ事業ノ全體ノ經過ノミナラス、其ノ事業ノ各部及ヒ財產ノ各部ハ果シテ如何程ノ收益ヲ生シツ、アルヤノ状態ヲ、委シク觀察スルガ爲メニ



精密ナル簿記ヲ調製スルコトハ、其ノ最モ必要トシタル處ナリキ。今マ此ノ如キノ見地ハ、あだむすみすニ依リテ經濟ノ中ニ導カレ來リタリ。あだむすみすハ、殊ニ當時ノ小作人ヲバ其ノ眼中ニ置キタルモノニシテ、小作人が他人ヨリ土地ヲ借り入レ、勞働者ヲ雇ヒ入レ、以テ自己ノ資本ヲ使用シテ耕作スルニ當ツテハ、果シテ如何ナル經濟ヲ營ミツ、アルモノナルヤチ觀察シタリキ。此ノ如キ關係ヨリシテ、彼ハ小作人ノ總所得ハ如何ニシテ分配サルトモノナルヤ——更ニ一歩ヲ進メテハ——全國民ノ所得ハ如何ニシテ分配サルトモノナルヤトノ問題ヲ解決スルノ必要ヲ見タリ。而シテ彼ハ之ニ對シテ、國民ノ所得ハ地主資本家、勞働者ノ三者ニ分配サルトモノナリト論シタリ。其ノ後國民ノ所得ヲ分チテ、地代、利子、勞銀、企業所得ノ四者ト爲スニ至リタルハ、其ノ根底ヲ茲ニ胚胎スルモノナリ。

あだむすみすノ後繼者ハ又タ凡テ彼ノ爲セシ所ヲ襲踏セリキ。而シテ一方ニ於イテハ、彼等ハ當時ノ經濟立法ヲ非難攻撃シ、之ヲ廢止セシムルガ爲メニ賦ル勢メタリ。思フニ、當時ノ經濟立法タル管テハ時勢ノ要求ニヨリテ發生シタルモノナリト雖モ、今ヤ十九世紀ニ入ルニ及ンテハ、時勢ノ變遷ノ結果トシテ到底當時ノ社會ニ適當セザルニ至リシモノナレバ、彼等ガ之ニ對シテ非難攻撃セシモ毫モ怪ムニ足ルナシ。乍併、彼等あだむすみす派(所謂「正統」經濟學派)ノ學者ハ、此ノ如クニシテ當時ノ經濟政策ヲ研究スルニ忙シカリシカバ、自然ノ結果トシテ固有ノ(理論的)經濟學ニ就イテハ多ク貢獻スル所ナク、主トシテ經濟政策學上ノ議論ヲ爲セシニ止マレリキ。而シテ其ノ凡テノ議論ハ、專ラあだむすみすノ試ミタル演繹論法ヲ襲ヒ居タリキ。カクテ、人類ハ自由ヲ有シ且ツ平等ノモノナリトノ思想ハ屢々繰リ返ヘサレ、其ノ結果、凡テノ人ハ經濟上ニ於ケル自己ノ利益ヲ識別シ且ツ保護スルガ爲メ充分ノ力ヲ有スルモノナリトノ主張ハ屢々繰リ返ヘサレ、從ツテ

又タ、其ノ前提ヨリ演繹シテ、經濟生活上ニ於ケル國家ノ干渉ハ凡テ有害ナルモノナリトノ決論ハ屢々繰リ返ヘサレタル處ナリキ。

乍併、他方ニ於テハ、所謂「正統」經濟學派ノ人々モ、終ニハ理論的ノ國民經濟學ノ研究即チ如何ニシテ人類ハ經濟スルモノナリトノ問題ノ研究ニ從事スルニ至リタリ。——但シ其ノ研究タル頗ル偏頗ナル方法ニ依リシハ固ヨリ也。而シテ、既ニ述ベタルガ如ク、あだむすみすハ國民所得ノ分配ニ關スル問題ノ論究ヲ試ミタリシカ、其ノ後繼者モ亦タ、單ニ地代、利子、勞銀、企業所得ノ四者ニ就キ、其ノ原則ヲバ理論的ニ研究セントセシニ止ル、從ツテ當時ノ人々ハ、國民經濟學ノ範圍ハ單ニ是等所得ノ四分岐ニ就イテ研究スルニ止ルモノ、如ク思惟スルニ至リタリ。而シテ其ノ研究ノ方法ハ等シク亦タ、純然タル理論的演繹的ノモノナリキ。蓋シ當時ノ學者ノ事物ヲ觀察スルヤ、人類ハ物理的ノ力又ハ自然力ニ依リテ支配サレシ、アルモノニシテ、其ノ間、永久ノ法則ヲルモノアリ、一定ノ働キハ必ズ一定ノ結果ヲ生ズルモノナリト、信セシモノナルカ故ニ、其ノ研究法ガ理論的演繹的ニ傾キシハ毫モ怪ムニ足ラザルナリ。

思フニ、第十九世紀ノ前半期ハ、經濟學ノ平板時代トモ稱スベキモノニシテ、殆ド何等ノ變化ヲ見ルコトナカリキ、而シテ其ノ原因タル恐ラク當時ノ時勢ノ影響ニ由ルモノナラン。蓋シ當時ノ時勢タル、自由競争ノ後ヲ承ケタル平和ノ時期ニシテ、社會一般ニ萎微シテ、實ハズ、農工商ノ凡テノ方面ニ於イテ經濟社會ハ沈滞チ極タルノ時代ナリシナリ。殊ニどいつニ於ケル多數ノ大學ハ殆ド凡テ小都市ニ建設サレタリシカバ、當時大學ノ教授ハ只々其ノ周圍ノ小都市ニ於ケル事情ヲ觀察シタルニ止リ、其ノ眼界極メテ狹隘、只々營々ニ整居シテ、先人ノ講說シタル地代、利子、勞銀、企業所得ノ四者ニ就イテ研究ニ從事シツ、アルニ止レリシ也。

シカルニ、十九世紀ノ六七十年代ニ當ツテ、社會主義ノ學者輩出シ、コレガ爲メ經濟學ハ一大進歩ヲ爲スニ至レリ。思フニ共產主義及ヒ社會主義ノ思想タル、其ノ由ツテ來ルヤ遠シ、シカレドモ未タ經濟學ノ根本基礎ヲ改造スルニ至ラザリシ也。蓋シ是等ノ主義ヲ唱導セシ學者ハ多クハ空想ヲ逞ウシ、私有財産制度ナキ國民ノ生活ヲ以テ幸福ナル状態ニアルモノト爲セシハ、其ノ一原因ニシテ、又々一方ニ於イテハ、彼等カ宗教上又ハ哲學上ノ主張又ハ學說ヲ根據トセシコト其ノ一原因ナリ。換言スレバ、彼等ハ經濟學者トシテ言説シタリシニ非ラザルナリ。シカルニ、所謂科學的社會主義ノ始祖タルルードベール(一八〇五年生)——一八七五年死(まるくす)一八一八年生——一八八三年死及ヒラッサー(一八二五年生)——一八六四年死出ヅルニ及ビテ、始メテ經濟學者タルノ立場ヨリシテ社會主義ヲ論ジタリキ。而シテ是等ノ學者ハ論ジテ曰ク、所謂勞働收益ナルモノハ本來勞働者ニ歸スベキナリ、シカルニ、今日ニ於イテハ土地及ヒ資本ノ私有制度行ハル、ガ故ニ、地主及ヒ資本家ハ當然勞働者ニ歸スベキ報酬ヲ割キテ之ヲ自家ノ手中ニ收メツ、アルナリト。此ノ如キ議論ハ從來廣ク行ハレタリシ所謂正統經濟學派ノ學說ノ當否ニ就イテ疑ヲ生ズルニ至ラシメ、カケテ其ノ學說ノ根底ヲ動搖セシメ、遂ニ今日ニ於イテハ經濟學ヲ根本ヨリ新ニ改造スルノ必要アルニ至ラシメタリ。

既ニ述ベタルカ如ク、經濟學ノ研究セントセル根本問題ハ、人類ハ如何ニ經濟スルヤヲ知ルニ在リ。而シテ此ノ問題ニ對シテ從來ノ學者ガ爲セシ説明ハ、次ノ二點ニ於イテ誤謬アルヲ免レザリキ。第一〇、彼等ハ歴史的ノ考察ヲ爲スコトナク、當時廣ク行ハレタリシ哲學ヲ以テ其ノ學說ノ根據ト爲セリキ。シカルニ當時ノ哲學ハ個人主義ヲ以テ其ノ根本ト爲セシモノニシテ、社會的ノ共同關係ニ就イテハ何等ノ注意ヲ施サザリキ、サレバ當時ノ經濟學者ガ、凡テ人類ヲ以テ自己又ハ少クトモ家族ノ爲メニノミ經濟スルモノニシ

テ毫モ他人ノ事ニ就イテ顧慮スルモノニ非ラズト爲セルハ、寧ロ自然ノ結果ト云フベキナリ。乍併、コノ前提カ第一ノ誤謬ナリ。史學上及ヒ考古學上ノ研究ニ依レバ、人類ハ決シテ孤立セルモノニ非ラスシテ、常に殊ニ原始時代ニ於イテハ社會的團體種族民族ト云フノ類ノ一員トシテ生活セルモノナリ、而シテ是等原始時代ノ團體ハ皆ナ共同ノ經濟ヲ營ミタルモノナリ。而シテ是等ノ原始的團體ハ其ノ後、次第ニ擴張サレ、弛解サレテ、今日ニ於イテハ其ノ跡ヲ留メズト雖モ、シカモ猶ホ社會的階級ヲルモノアリテ今日ニ現存ス、而シテ眞實孤立セル經濟又ハ單一經濟ナルモノハ今日固ヨリ存立セルニ非ラズ、カノ所謂單一經濟ハ決シテ孤立セルモノニ非ラズシテ、無數ノ關係ニ於イテ凡テ他ノ經濟ト結ビ付ケラレ、互ニ密接ナル影響ヲ受ケツ、アルナリ。第二〇、從來ノ學者ハ、人類ガ如何ニ經濟行爲ヲ爲スカチ實際ニ就キ觀察セントスルノ意思ナク、只ダ人類ハ營利生活及ヒ經濟生活ニ於イテハ專ラ自己ノ利益ヲノミ追フモノナリト獨斷シ、コレ自明ノ理ニシテ何等ノ證明ヲ要セザルモノトナシタリ。是ガ故ニ、人ハカクカクノ事件ニ際シテ如何ナル行動ヲ取ルベキヤトノ疑問ヲ發スル時ハ、彼等ハ常に演繹的論法ニ依リテ之ニ答フ、即チ彼等ハ人類カ實際上如何ナル動機ヨリ如何ナル行動ヲ取ルヤチ觀察スルコトナク、單ニ彼等ハ自己ノ經濟上ノ利益ニ就キ判斷力ヲ有スルモノハ、コレコレノ事情ニ於イテ如何ナル行動ヲ取ルベキヤチ考察シ、然ル後、人類ハカクカクノ經濟ヲ爲スヤ明カナリト答フルナリ。乍併、近時ノ研究ニ據レバ、人類ハ經濟生活ヲ爲スニ當ツテハ單ニ自己ノ利益ノミ考フルモノニ非ラズシテ、其ノ他ノ動機及ヒ事情ニ影響サル、モノナリトス、然ラバ正統學派ノ學者ノ爲セシカ如ク、經濟的活動ノ種類及ヒ方法ヲ知ランカ爲メニ單ニ演繹的論法ヲノミ用ユルノ不當ナルハ明カナル事實ナリ。既ニ此ノ如キ誤謬アリ、是ガ故ニ今日ノ經濟學者ハ人類ノ經濟的行動ヲ觀察ノ方法ニ依リテ研究センガ爲メ苦心セリ。

而シテ現時ノ研究方法ニ就イテ吾人ハ三派ノ區別ヲ爲シ得ベシ。

一 歷史派。

此ノ學派ニ屬スルモノ——因ヨリ他ノ二學派ト相容レザルニハ非ラズ——ノ意見ニ據  
レバ經濟學ノ研究ヲ爲サントスルニ當ツテハ單ニ現時ノ事情ヲノミ研究スルヲ以テ足  
レリトスヘカラズ、猶ホ遡リテ過去ノ經濟的關係ヲ知ルヲ要ス、何トナレバ現在ノ事情ヲ  
知ルコトハ其ノ如何ニシテ今日ニ經過シ來リタルヤチ解スルノ必要アレバナリト云フ  
ニ在リ。是カ故ニ、コノ派ノ學者ハ第一ニ經濟史ノ研究ヲ重ンズ、例ヘバ中世ノ手工業組  
合ノ行ハレタル時代ニ於イテハ親方ト仲間トノ區別ハ如何ナルモノタリシヤ、過去ノ某  
々ノ時代ニ於ケル地主ト農夫トハ如何ナル狀態ニアリシモノナルヤ、商業貨幣及ヒ信用  
ノ制度ハ過去ニ於イテ如何ナル發展ノ經過ヲ取リシモノナルヤ等ヲ研究ス。而シテ是  
等研究ノ目的トスル所ハ、各時代ニ於イテ人類ハ如何ニ經濟セシヤ、其ノ此ノ如キ經濟ヲ  
營ミシハ如何カ故ナルヤノ問題ヲ解決スルニ在リ。

二 現實派及ヒ社會政策派。

前述セシ如ク、歷史派ハ主トシテ過去ニ於ケル人類ノ經濟的活動ニ就イテ研究スルモノ  
ナルガ、茲ニ所謂現實派及ヒ社會政策派ト稱スルモノハ、現時ノ人類カ如何ニ經濟シ、又々  
何故ニ此ノ如キ經濟ヲ爲スヤチ研究セントスルモノナリ。例ヘバ茲ニ人アリ自ラいぎ  
リテニ赴キ勞動者組合ノ現狀ヲ觀察シ之ニ向ツテ一定ノ判斷ヲ下シタリトセヨ。又々  
茲ニ人アリ企業者ノ合同ニ就イテ研究シ其ノ運動ノ實相ヲ説明シタリトセヨ。又々人  
アリ、或ハいぎリテニ行キ或ハふらんテニ赴キテ其ノ鐵道ノ現狀ニ就キ特別研究ヲ爲シ  
タリトセヨ。或ハ「社會政策協會」ナルモノアリテ、手工業者、家内工業的勞動者、小地主、行商  
等ニ就イテ研究シ一定ノ報告ヲ爲シタリトセヨ。或ハ一學者アリ或ル團體ノ經濟狀態

ニ就キ一定ノ年間ニ於ケル統計表ヲ集成シ、數字ノ變遷ニ就イテ一定ノ結論ヲ立テタリ  
トセヨ。——此ノ如キハ所謂「現實的」研究ナルモノナリ、何トナレバ凡テ是等ノ場合ニ於イ  
テハ其ノ人々又ハ階級ガ實際上如何ニ經濟シツ、アルヤ、又々何故ニシカク經濟シツ、  
アリヤチ知ラント欲スルモノナレハ也。而シテ此ノ派ヲ稱シテ、「社會政策的」ト云フ  
所以ハ、二個ノ理由ニ出ヅ。第一ニ、此ノ學派ノモノハ甲又ハ乙ト云フカ如ク、如何ニ經濟シ  
イテ研究セズシテ、一定ノ社會的團體、手工業者、小地主、礦夫ト云フカ如ク、如何ニ經濟シ  
ツ、アリヤチ研究スルヲ以テナリ。第二ニ、此ノ學派ノ主トシテ研究スル所ハ、各種ノ制  
度ハ各種ノ社會階級、雇主又ハ勞動者、地主又ハ工業者、貸金者又ハ借金者ト云フカ如ク、  
向ツテ如何ナル利益ト損害トヲ及ボシツ、アルヤチ知ラントスルニ在レバ也。而シテ  
此ノ學派ト歷史派トノ區別ハ殆ト同義ヲ容レ難シト云フベシ、何トナレバ「今日」モ明日ハ  
「昨日」トナルモノニシテ、從ツテ今日ナルモノモ明日ハ「歷史」ノ範圍ニ屬スベケレバ也。

三、所謂精確派

此ノ學派ハおしすたりありおしすたりありニ於ケル學者ノ主唱ニ係リ、自ラ號シテ「精確」ト稱セリ。  
其ノ主トシテ研究セントセル所ハ、經濟的活動ニ於ケル内部的又ハ心理的經過ニ在リ、而  
シテ特ニ價值決定ノ根本原理ヲ闡明スルニ努力セリ。故ニ一見スル時ハ、前二派ト異リ  
實際ノ經濟生活ニ就キ研究スルニ非ラズシテ寧ロ其ノ研究方法ハ演繹法ニ傾クモノ、  
如シ然レドモ其ノ實、或ル程度ニ於イテ歸納的ナリ、何トナレバ經濟的活動ノ由ツテ起ル  
所以ノ心理的經過ニ就キ精確ナル分析ト研究トヲ爲スモノナレバナリ。  
思フニ、專ラ演繹法ニノミニ依ルノ研究法ニタビ廢セラレ、之ニ代リテ歸納法主トシテ用  
ヒラレ、複雜ナル現象中ノ「通素」ヲ求ムルヲ以テ目的トスルニ至リシ以來、國民經濟學ハ始  
メテ實際上科學ノ列ニ加ハルノ資格ヲ具ヘ得タリト云フベシ。乍併之ヲ誤解シテ、經濟

學ノ研究法ハ歸納法ニノミ依ルベキモノト爲スハ非ナリ。例ヘバ茲ニ一法律ノ制定又ハ一事件ノ發生等アルニ際シテハ、人々ハ之カ爲メニ如何ナル經濟ヲ爲スモノナリヤトノ問題起ルコト屢々ナリ而シテ此ノ如キ問題ノ解決ニ際シテハ多クハ演繹法ニ依ルノ外他ニ途ナキ場合少シト爲サズ。

### 第五節 經濟學原論ノ編次

本書ハ題シテ經濟學原論ト云フ、其ノ目的ハ予カ所謂經濟學原論又ハ經濟學通論ヲ説カント欲スルニ在リ。今マ其ノ編次ノ大要ヲ左ニ示ス。

第一編ヲ序論ト爲ス。序論ハ正ニ本章ヲ以テ終ラントスルモノ、其ノ内容ハ既ニ讀者ノ了知スル所ニシテ、其ノ目的ハ經濟學ノ研究物體タル經濟ノ何物タルヤヲ論シ、以テ經濟學カ如何ナル種類ノ學タルヤヲ知得セシメントスルニ在リ。

既ニ序論ヲ終フレハ、進ンテ本論ニ入ル。本論ノ内容ハ分レテ純正經濟原論及ヒ應用經濟原論ノ二者ト爲ル。

純正經濟原論トハ、各種ノ經濟ニ通スル根本現象ノ事實的説明ヲ爲スモノニシテ、分レテ現世經濟論及ヒ經濟史論ノ二者トナル。余ハ便宜ノ爲メ、本書ノ

第三編ヲ以テ現世經濟論ノ説明ニ充テ、第二編ヲ以テ經濟史論ノ説明ニ充ツ。應用經濟原論ハ、分レテ理想論、運命論、政策論ノ三編トナル。予ハ本書ノ第四編ヲ以テ經濟理想論トナシ、第五編ヲ以テ經濟運命論トナシ、第六編ヲ以テ經濟政策論トナス。

本論既ニ終ラハ、更ニ補論ノ一編ヲ加フ。補論ノ一ハ經濟學史ナリ。經濟學ソノモノ、歴史ハ、歴史學ノ一科ニシテ經濟學ニハ非ラスト雖モ、斯學ニ必須ナル補助學科タリ、故ニ加フ。補論ノ二ハ經濟學研究法ナリ。コレ亦タ經濟學ノ一科タルニ非ラスシテ、研究法學ノ一科タレトモ、其ノ必須ノ補助學科タルノ故ヲ以テ本書ニ補フ。補論一編之ヲ以テ本書ノ第七編ヲ形成ス。

カクテ、本書ハ分レテ七大編ト爲ル。第一編序論、第二編經濟史論、第三編現世經濟論、第四編經濟理想論、第五編經濟運命論、第六編經濟政策論、第七編補論コレ也。

而シテ第一編ハ本書ノ上卷ニ充テ、第二編第三編ヲ以テ本書ノ中卷ニ充テ、第四編以下ヲ以テ本書ノ下卷ニ充テント欲ス。經濟學原論一部分分レテ上中下ノ三卷トナリ、更ニ七編トナル。コレ本書系體

第一編 術語及ヒ人名索引

術語及ヒ人名索引

- 慾望. Bedürfniss (Begierde), desire (want). 2-
- 共同的慾望. Gemeinbedürfniss. (Kollektio-) 9. 20. 21. 22.
- 満足サレサル慾望. unsatisfied want. 9.
- 内界ノ慾望. innere B. 13. 20.
- 外界ノ慾望. äussere B. 13. 20.
- 固有ノ慾望. 13.
- 派生ノ慾望. 13.
- 絶對ノ慾望. absolute B. 18.
- 相對ノ慾望. relative B. 18.
- 高等ノ慾望. höhere B. 19.
- 下等ノ慾望. niedrige B. 19.
- 急迫セル慾望. dringende B. 19.
- 猶豫シ得ヘキ慾望. aufschiebbare B. 19.
- 積極ノ慾望. positive B. 19.
- 消極ノ慾望. negative B. 19.
- 直接ノ慾望. unmittelbare B. 19.
- 間接ノ慾望. mittelbare B. 19.
- 一般(又ハ普通)ノ慾望. allgemeine (oder universelle) B. 19.
- 特別又ハ例外ノ慾望. besondere (oder partiqular) B. 19.
- 繼續ノ慾望. ununterbrochen B. 19.
- 間歇ノ慾望. unterbrochen B. 19.
- 永續ノ慾望. dauernde B. 19.
- 一時ノ慾望. temporäre B. 19.
- 不動ノ慾望. ständige B. 20.

シュモルラー. Schmoller, G. 4. 6. 17. 167. 175. 213. 235.  
 ロッシェル. Roscher, W. 4. 5. 21. 39. 47. 62. 74. 137. 121.  
 217. 218. 235.  
 ラウ. Rau. 5. 45. 46. 49. 59. 61. 62. 211. 234.  
 セイ. Say. 5. 74. 173. 217. 235.  
 バスチアー. Bastiat. 5.  
 ウ#ルト. Wirth. 5. 234.  
 セフレー. Schäffle. 5. 61.  
 リンドヴルム. Lindwurm, 6.  
 ディーチュル. Dietzel. 6. 18. 49—, 110—. 138. 221. 235—.  
 セーンベルヒ. Schönberg. 6. 101. 217. 234.  
 リカードー. Ricardo. 6. 61. 162. 211. 234.  
 アダム. スミス. Ad. Smith. 6. 61. 69. 87. 161. 170. 216.  
 小林丑三郎. 6. 214—. 231.  
 コッサ. Cossa. 6. 235.  
 マーシャル. Marshall. 6. 27. 30. 48. 211. 232.  
 セーリグマン. Seligman. 18.  
 満足追求性. Befriedigungstrieb. 26.  
 利己心. Selbstinteresse, selfinterest. 26.  
 自己保存性. Trieb der Selbsterhaltung. 26.  
 經濟主體. Wirtschaftssubjekt. 29.  
 經濟人. economic man, Wirtschaftsmenschen. 29.  
 財(財貨. 貨財) Güter, goods. 30.  
 内界ノ財. innere G., internal goods. 32. 41. 42. 43.  
 48.  
 外界ノ財. äussere G., external goods. 32. 41. 42. 43.  
 48.  
 固有ノ財. 32.  
 有形ノ財. materielle G., material goods. 32. 41. 48.  
 無形ノ財. immaterielle G. 32. 42.  
 所有財. Besitzgüter. 33. 42.

動的慾望. unständige B. 20.  
 尋常ノ慾望. ordentliche B. 20.  
 非常ノ慾望. ausserordentliche B. 20.  
 現在ノ慾望. gegenwärtige B. 20.  
 未來ノ慾望. künftige B. 20.  
 個人的慾望. individuelle B. 20. 21.  
 私的慾望. private B. 20.  
 公的慾望. öffentliche B. 20.  
 生存慾望. existenz B. 20.  
 文化慾望. Culturbedürfniss. 20. 24.  
 自然的慾望. Natur—. 21.  
 地位的慾望. Anstands—. 21.  
 奢侈的慾望. Luxus—. 21.  
 宗教上ノ慾望. Kultus—. 21.  
 有形ノ慾望. materielle B. 24.  
 無形ノ慾望. immaterielle B. 24.  
 自足的慾望. 27.  
 營利的慾望. 28.  
 欠乏感覺. Gefühle des Mangels. 3.  
 需要. Bedarf, demand. 4. 5.  
 ヘルマン. Hermann, F. E. W. 2. 18.  
 フグナー. Wagner. 3. 6. 20. 24. 31. 39. 41—48. 85—70. 82—  
 84. 85—86. 92. 113. 137. 173. 175. 183. 208. 214. 234.  
 金井延. 3. 5. 11. 24. 47. 68. 101. 137. 214. 229. 236.  
 福田徳三. 3. 5. 95. 97. 99—100. 138. 209. 231.  
 クラインゴヒター. Kleinwächter. 3. 4. 6. 21. 24. 6. 21.  
 24. 39. 40. 87—91. 101. 106. 143—. 153—. 158—. 169—. 183—. 191—.  
 カーライル. Carlile, W. W. 3.  
 ヘフデング. Höfding. 4.

生産價值. Produktionswerth. 62.  
 營利價值. Erwerbswerth. 62.  
 營利手段. Erwerbsmittel. 62.  
 消費價值. Verzehrungswerth (Verbrauchungs-). 63.  
 利用價值. Benutzungswerth. 63.  
 物質價值. Stoffwerth. 63.  
 形態價值. Formwerth. 63.  
 位置價值. Ortswerth. 63.  
 數量價值. Mengenwerth. 63.  
 品種價值. Gattungswerth. 63.  
 具體的價值. concreter Werth. 63.  
 抽象的價值. abstracter Werth. 63.  
 交易價值. Verkehrswerth. 66-68.  
 社會的使用價值. socialen Gebrauchswerth. 66.  
 交換比價值. specifischer Tauschwerth. 67.  
 契約的交換價值. Vertragstauschwerth. 68.  
 ロードベルトス. Rodbertus. 60. 61. 76.  
 アリストテレス. Aristoteles. 61.  
 生産費. Produktionskosten. 64.  
 價格. Preis, price. 68.  
   公定價格. Taxpreis. 60.  
   競争價格. Konkurrenzpreis. 68.  
   自由價格. freie Preis. 68.  
 支拂要具. Zahlungsmittel. 68.  
 交換要具. Tauschmittel. 68.  
 商品. Waare. 68.  
 物價. Geldpreis. 69.  
 社會主義. Socialismus, Socialism. 70.  
 財產. Vermögen. 70.  
   公有財產. öffentliches Vermögen. 70.  
   私有財產. Privatvermögen. 70.

經濟上ノ財. wirtschaftliche G., economic goods. 34. 40. 49. 50.  
 自由ノ財. freie G., free goods. 40. 42.  
 占有シ得ヘカラサル財. nicht appropriierbare G. 40.  
 占有シ得ヘキ財. appropriierbare G. 40.  
 普通ノ財. allgemeine G. 42.  
 人的財. personal goods. 44. 48.  
 移轉シ得ヘキ財. transferable goods. 48.  
 移轉シ得ヘカラサル財. non-transferable goods. 48.  
 交易財. Verkehrsgut. 67.  
 財物(經濟上ノ財) Sachgüter, wirtschaftlicher G., economic goods. 32-.  
 物. Ding, thing. 30.  
 イッー. Ely. 32. 114. 115-. 232. 234.  
 ツッケンハンドル. Zuckenhandl. 48.  
 ノイマン. Neumann. 48. 62.  
 マイエル. Meyer, Ed. 48.  
 フェアーチャイルド. Fairechild. 49.  
 消費手段. Consummittel. 49.  
 生産手段. Productivmittel. 49. 62.  
 享樂手段. Genussmittel. 50. 62.  
 機械. Maschinen. 57. 62.  
 道具. Werkzeuge. 57. 62.  
 効用. 58.  
 價值. Werth. 58.  
   使用價值. Gebrauchswerth. 59-63.  
   交換價值. Tauschwerth. 60. 66-68.  
   交定價值. Taxwerth. 60.  
   享樂價值. Genusswerth. 62.

自足的經濟行爲. 103.  
 營利的經濟行爲. 103.  
 グロース. Gross, G. 98. 150.  
 リスト. List, F. 115. 158.  
 グロッセ. Grosse. 115.  
 耨耕法. hoe-culture. 118.  
 ヘッケウエルデル. Heckewelder. 119.  
 パーカー. Parker. 119.  
 ラ. ホンタン. La Hontan. 119.  
 ギッディング. Gidding. F. H. 120.  
 シャールレボア. Charlevoix. 120.  
 ラムホルツ. Lumboltz. 120.  
 ロスキー. Loskiel. 120.  
 ル. ペチー. Le Petit. 120.  
 バートラム. Bartram. 122.  
 アッシュレー. Ashley. 126.  
 ラッツァー. Ratzel. 127.  
 ブラッドフォード. Bradford. 128.  
 ヒルデブランド. Hildebrand. 132. 161.  
 經濟. Wirtschaft. 133—.  
   經濟ノ手段. Mittel der Wirtschaft. 49. 50.  
   經濟ノ客體. Object der Wirtschaft. 49. 50.  
   單一經濟. Einzelwirtschaft. 141. 143.  
   共同經濟. Gemeinwirtschaft. 141. 144.  
   合同經濟. Kollektivwirtschaft. 144.  
   強制的共同經濟. Zwangsgemeinwirtschaft.  
   綜合經濟. Gesamtwirtschaft. 151. 152.  
   特殊經濟. Sonderwirtschaft. 152.  
   個人經濟. Individualwirtschaft. 152. 153—.  
   國家經濟. Staatswirtschaft. 152. 167.  
   國民經濟. Volkswirtschaft. 152. 153—. 165. 167—.

享樂用ノ財産. Genussvermögen. 70. 74.  
 經濟用ノ財産. 70.  
 處有財産. Vermögensbesitz. 72.  
 行政上ノ財産. Verwaltungsvermögen. 73.  
 財政上ノ財産. Finanzvermögen. 73.  
 使用財産. Gebrauchsvermögen. 74.  
 生産財産. Productivvermögen. 74.  
 消費財産. Verbrauchsvermögen. 74.  
 利用財産. Nutzvermögen. 74.  
 富. Reichtum. 73.  
 資本. Kapital, kapital. 71. 74.  
   利用資本. Nutzkapital. 74.  
   使用資本. Gebrauchskapital. 74.  
   流動資本. umlaufendes Kapital, 74.  
   固定資本. stehende Kapital, 75.  
   國民ノ資本. Volks-, National-kapital. 76.  
   個人ノ資本. Privatkapital. 77.  
   社會ノ資本. Socialkapital. 76.  
   處有資本. Kapitalbesitz. 77.  
   無生資本. todes Kapital. 79.  
   睡眠資本. schlafendes Kapital. 79.  
   怠惰資本. müssiges Kapital. 79.  
 マカロック. M'Culloch. 74. 217.  
 スタインライン. Steinlein. 75.  
 コーン. Cohn, G. 75. 213. 217. 235.  
 ベーム. バワーク. Böhm-Bawerk. 76.  
 ザックス. Sax. 76.  
 ソントン. Thornton. 76.  
 ジョージ. George. 76.  
 プレンタノ. Brentano. 76.  
 經濟行爲. wirtschaftliche Thätigkeit, economic action. 81—.



社會科學. Socialwissenschaft, social science. 199. 200—.  
 自然科學. Naturwissenschaft, natural science. 199. 200.  
 純理的社會科學. Theoretische Socialwissenschaft. 201—.  
 實地的社會科學. Practische Socialwissenschaft. 201—.  
 倫理學. Ethik. 202.  
 政治學. Politik. 202.  
 經濟學. Wirtschaftslehre, economics. 207—.  
 ミル. Mill, J. S. 210. 217. 234.  
 フォーセツト. Fawcett, H. 211. 234.  
 シジュキック. Sidgwick, H. 211. 217. 220. 234.  
 マルサス. Malthus. 211.  
 セール. Scheel. 212. 233. 261.  
 ヘルド. Held. 213. 235.  
 コンラッド. Conrad. 213. 234.  
 ケネー. Quesney. 215.  
 セニオール. Senior. 217.  
 ウォーカー. Walker. 217. 234.  
 ヒリップキッチ. Philippovich. 221. 234.  
 佐藤信淵. 225.  
 大宰純. 226.  
 橋本敬簡. 226.  
 田口卯吉. 226.  
 社會經濟學. Socialökonomik. 229. 232. 235—.  
 國民經濟學. Volkswirtschaftslehre. 231. 232. 234. 236.  
 純正經濟學. Reine Wirtschaftslehre. 231. 239.  
 政治經濟學. Politische Oekonomik. 232. 233. 236.  
 ケーンプ. Keynes. 232. 261—.  
 クニース. Knees. 234.  
 ルーランド. Ruhland. 234.  
 セボンス. Jevons. 234.  
 ニコルソン. Nicolson. 284.

世界經濟. Weltwirtschaft. 152. 167.  
 私經濟. Privatwirtschaft. 152.  
 意識的經濟. Conscious economy. 180.  
 無意識的經濟. unconscious economy. 180.  
 經濟主義. Wirtschaftlichesprinzip. 137.  
 經濟單位. Wirtschaftseinheiten. 153.  
 經濟社會. 153.  
 經濟團體. 153.  
 主體ナキ經濟. Subjektlose Wirtschaft. 168.  
 經濟階級(發展階級). Wirtschaftsstufen. 159.  
 自然經濟. Naturalwirtschaft. 161—.  
 貨幣經濟. Geldwirtschaft. 161—.  
 信用經濟. Kreditwirtschaft. 161—.  
 封鎖的家屬經濟. Geschlossene Hauswirtschaft. 164—.  
 都府經濟. Stadtwirtschaft. 164—.  
 村落經濟. Dorfwirtschaft. 167.  
 領域經濟. Territorialwirtschaft. 167.  
 家族經濟. Familienwirtschaft. 142.  
 吉野. 138.  
 ブツヘル. Bücher, K. 155. 150. 164.  
 フーフランド. Hufeland. 168.  
 私經濟的原則. privatwirtschaftliche Prinzip. 183.  
 共同經濟的原則. gemeinwirtschaftliche Prinzip. 184.  
 慈善的原則. karitativ Prinzip. 184.  
 トマス. モルス. Thomas Morus. 184.  
 學. Wissenschaft, science. 186—.  
 歸納. Induktion. 194.  
 演繹. Deduktion. 194—.  
 技術. Kunst, art. 195—, 202. 207—.  
 建部遯吾. 197.

ローラン. Laughlin. 234.  
 スタイン. Stein, v. L. 235.  
 マシエルト. Mangold, v. H. 235.  
 レール, Lehr, J. 235.  
 オーグスチニス. Augustinis. 235.  
 シアロジヤ. Scialoja. 235.  
 レインモンド. Raymond. 235.  
 エリス. Ellis. 235.  
 アトキンソン. Atkinson. 235.  
 アイゼンハルト. Eisenhalt. 235.  
 オット. Ott. 235.  
 地方經濟學. Localwirthschaftslehre. 237.  
 國際經濟學. Völkerwirthschaftslehre. 237.  
 世界經濟學. Weltwirthschaftslehre. 237, 24.  
 應用經濟學. Angewandte Wirthschaftslehre. 239.  
 經濟史學. Wirthschaftsgeschichtswissenschaft.  
 現世經濟學. 240.  
 經濟運命學. 240.  
 經濟政策學. Wirthschaftspolitik. 240.  
 經濟倫理學. Wirthschaftsethik. 240.  
 經濟學原論(一通論). allgemeine Wirthschaftslehre. 242.  
 經濟學特論(一各論). specielle Wirthschaftslehre. 242.  
 財政學. Finanzwissenschaft. 244.  
 個人經濟學. Privatwirthschaftslehre. 245.  
 ビエルソン. Pierson. 260.

# 第一版增補及訂正

## 慾望ト我欲 (第十頁、第二十四頁、第八十六頁以下參照)

既ニ述ベタル如ク、慾望トハ一定ノ目的ヲ達セントスルノ意思ニ外ナラズ。  
 今コノ慾望ト我欲(利己心)トノ關係如何。  
 多クノ學者ハ慾望即利己心ト解ス。

慾望即我欲(利己心)ト解スルモノ多シ。コノ點ニ就キクラインヒター及アグナーノ説ハ本文二五頁及二六頁ヲ參照セヨ。茲ニハ小川法學士ノ新著經濟學通論ノ一節ヲ抄録シテ一例ト爲ス。學士曰ク

慾望ト云ハバ我欲(世上ニ所謂我利我利)ニ似テ道徳論者ハ排斥スルカモ知ラヌガ實ニ經濟ノ根本アアル進歩ノ動機デアアル。(經濟學通論三頁)

此ノ一文ニヨレバ、慾望トハ我欲ニ似タリト云フノミニテ、果シテ我欲ナルカ又ハ我欲ナラザルカ、説明稍々明瞭ナク、感アレド、ソハ姑ク含キテ、以下單ニ予ノ見ル所ヲ略述セントス。

予ノ見ル所ニ據レバ、慾望ハ必ずシモ利己心ノ發動ニ非ラズ、又必ラズシモ利己心ノ發動ニ非ラザルニモ非ラズ。

蓋シ人心ハ無味無臭無形無體ナリ、シカモ其ノ心時々ニ發動シテ意思トナル、コレ即チ慾望ナリ。而カレニ其ノ意思タル心正シキ時ハ則チ天理ニ合シ、正シカラザレバ則チ我慾ニ墮ス。畢竟スルニ等シク之レ意念ノ發動ナリ、等シク之レ慾望ナリ、シカモ時アツテ天理ノ中ヲ得、時アツテ人欲ノ醜ニ墮ス、一ニ其ノ心ノ正ト不正トニ因ル也。

故ニ慾望ハ必ラズシモ我慾ト等スカラズ、又必ラズシモ我慾タラザルニ非ラズ。而シテ夫ノ道義ノ學ニ於テ教ユル所ハ、只ダ吾人ノ慾望ヲシテ我欲タラシメズ、正欲タラシメントスルニ在リ。若シ之ヲ誤リ解シテ一切ノ慾望即チ我欲ナリトナシ、而シテ古來ノ聖賢ハ吾人ニ教ユルニ此ノ一切ノ慾望ヲ廢棄セヨト爲シタリトセバ、コレ本來不可能ノ事ナリ。凡ソ人間ノ世ニ在ル、必ズ先ヅ其ノ生命ヲ維持スルノ必要アリ。從ツテ夫ノ衣食住ニ對スル慾望ノ如キ、何人ト雖モ之ヲ欠如スベカラズ、此ノ點ニ於テ大人ト小人ト敢テ異ルアルヲ見ズ。只ダ大人ニ至ツテハ一身ヲスラ猶ホ私有セズ、五尺ノ體軀ヲ獻ゲテ以テ天下公共ノ器ト爲ス、カルガ故ニ衣食ノ末ニ至ルモ猶ホ能ク自私自利ノ念ヨリ脱却ス。カクノ如クナレバ所謂慾望ハアリ、シカモ敢テ我欲ノ痕跡ヲ留メザルナリ。シカレモ世ノ經濟學ヲ説ク者、コノ間ノ理ニ通セズ、一切經濟

行爲ノ動機ヲ以テ慾望ニアリト爲シ、而シテ一切ノ慾望ヲ以テ我慾ナリ利己ノ心ナリト爲ス、カルガ故ニ經濟ノ發展ヲ阻メ、我欲ノ發展、利己心ノ發展ヲ獎勵スル所以ト爲ル。然リ、論理ノ結果、必ズ茲ニ到着ス。是ニ於テカ、則チ利己心ノ善用ヲ説キ、或ハ其ノ制限ヲ論ズル、當ニ其ノ事ノ末ニ走レルノミナラズ、論理ニ於テ既ニ其ノ一貫ヲ欠ク。コレ一部ノ經濟學者ガ道學ヲ敵視シ、一部ノ道學者ガ經濟學ヲ無視セントスル所以。人アリテ若シ此ノ間ニ脈絡ノ貫通ヲ求メントスル、必ズ先ヅ直チニ心ノ本體ヲ捉ヘテ意念ノ發動ヲ省察シ、慾望ニ正アリ不正アリ、一切ノ慾望必ラズシモ我欲タラザルノミナラズ、一切ノ慾望ハ凡テ我欲ノ雲霧ヨリ脱離シ得ベキモノタルヲ知ルヲ要ス。本文第十頁宗教ノ效果ヲ説キシ處、及ビ第二十四頁經濟上ノ慾望ト利己心トノ關係ヲ説キシ處、乃至第八十六頁以下經濟行爲ト利己心トノ關係ヲ説キシ處、皆凡テ不備ナリ。讀者宜シク此ノ文ニヨリテ其ノ真相ヲ類推セヨ。

### 外界ト慾望

(第十四頁參照)

『飢エタリ』トノ欠乏感覺ヲ除去セントノ慾望ハ固有ノ慾望ナレド『我飢エタ

ルニ非ズ」ト觀念スルコトニヨリテ其ノ飢餓ノ感覺ヲ除去シ得ルカ故ニ必ラズシモ外界ノ慾望ニ非ラズト説明セシハ、ソノ例不當ナリ。コハ只ダ慾望ノ外ニ發シテ行爲トナラザル場合ノ例ニ過ギズ。『考ヘタシ』トノ慾望アリテ、ソノ事ヲ心ニ考ヘ、カクシテ其ノ慾望ノ満足ヲ遂ゲタル時ハ、コレ内界ニテ満足サレ得ル慾望ニテ、カクノ如キヲコソ内界ノ慾望トイフナリ。

所有シ得ル財ト無形ノ財 (第三十三頁參照)

『所有シ得ル財ハ必ス有形ノ財ナリ云々』ト説明シタルハ誤解ナリ。權利ノ如キ無形ノ財モ所有シ得ラル、財タル也。

特種ナル財物ノ一例 (第三十四頁以下財物ノ觀念參照)

人ノ肉體モ財物タリ得ル場合アリ、左ニ其ノ實例ヲ舉グ。

奈良市光明院町ノ吳服商ニシテ奈良銀行ノ重役タル白井和助ト云フ者其愛護ツ子(十九)ガ昨年六月頃道花ノ稽古中誤テ磁瓶ヲ轉覆セシメテ大傷ヲ爲シ以後關節ノ作用ヲ失ヒ生

レモ付カヌ不具者トナリタルヲ治療セント欲シ奈良病院長常持醫學士ニ計リシニ常持氏ハ京都大學ノ猪子醫學士トモ相談ノ上植皮仁術ニ依ルニアラザレバ又如何トモスル能ハザル醫答ヘタルヨリ白井ハ爾後其植皮ヲ爲スニ付テ此ガ犧牲トナルヘキ相手ヲ捜索中並ニ大阪市梅田區ニテ車夫ヲ醫メル兵庫縣多紀郡古市村ノ前川六藏ナルモノアリ其藏クメ(十九)ヲ植皮トシ一時ノ凌チ付ケントテ交渉中前記白井方ニ出入セル前川ノ副車夫某ガ前川ニ向フテ疑クメヲ植皮ニスルヨリモ一塊ノ肉ヲ賣ル方收入ガヨカラシ傷ハ痛ケレトモ其モ一時的ノモノナレハ本人將來ノ爲メニ其カルヘシト話セシニ前川モ承諾セシカバ白井ノ代人ハ手術ヲ施スニ先チ後日同遠ノ起ラヌ様ニトテ大阪市北區江邊一丁目公證人古宇田義勝ニ就テ公正證書ヲ作り並ニ人肉賣買ノ契約ハ結バレタリサテ其報酬金ハ二百五十圓ト他二十圓ノ衣服料ヲ贈ル約束ニテ都合五圓腕肉ヲ執リ取ルコト、シ第一圖ハ十三日白井氏自宅ニ於テ施術セラレシ書ニテ其刺奪スル肉巾ハ一センチメートル長サ三センチメートルナリト云フ(明治四十年二月讀賣新聞所載)

誤字正誤

頁數	行數	誤	正
目次一	一五	德望ハ人類ノ根元	德望ハ人類ノ根元
一三八	一四	效用ノ界限	效用ノ界限
一三九	一三	間	間
一三七	一五	ナルニ非ラズ	ナルニ非ラズ
一八七	一七	從本ノ學	從本ノ學
一九五	一七	解	解
一九七	一七	演	演
一九八	一七	學	學
一九九	一七	說	說
二〇〇	一七	學	學
二〇一	一七	說	說
二〇二	一七	學	學
二〇三	一七	說	說
二〇四	一七	學	學
二〇五	一七	說	說
二〇六	一七	學	學
二〇七	一七	說	說
二〇八	一七	學	學
二〇九	一七	說	說
二一〇	一七	學	學
二一一	一七	說	說
二一二	一七	學	學
二一三	一七	說	說
二一四	一七	學	學
二一五	一七	說	說
二一六	一七	學	學
二一七	一七	說	說
二一八	一七	學	學
二一九	一七	說	說
二二〇	一七	學	學
二二一	一七	說	說
二二二	一七	學	學
二二三	一七	說	說
二二四	一七	學	學
二二五	一七	說	說
二二六	一七	學	學
二二七	一七	說	說
二二八	一七	學	學
二二九	一七	說	說
二三〇	一七	學	學
二三一	一七	說	說
二三二	一七	學	學
二三三	一七	說	說
二三四	一七	學	學
二三五	一七	說	說
二三六	一七	學	學
二三七	一七	說	說

明治三十八年九月廿一日初版印刷  
 明治三十八年九月廿四日再版印刷  
 明治三十九年四月七日再版印刷  
 明治四十年四月七日再版印刷

不許複製

著者 河上肇

發行者 江草斧太郎

印刷者 松澤 缸三

東京市神田區一ツ橋通町七番地二、三號地

有斐閣書房

東京市神田區一ツ橋通町七番地四、五號地

有斐閣雜誌店

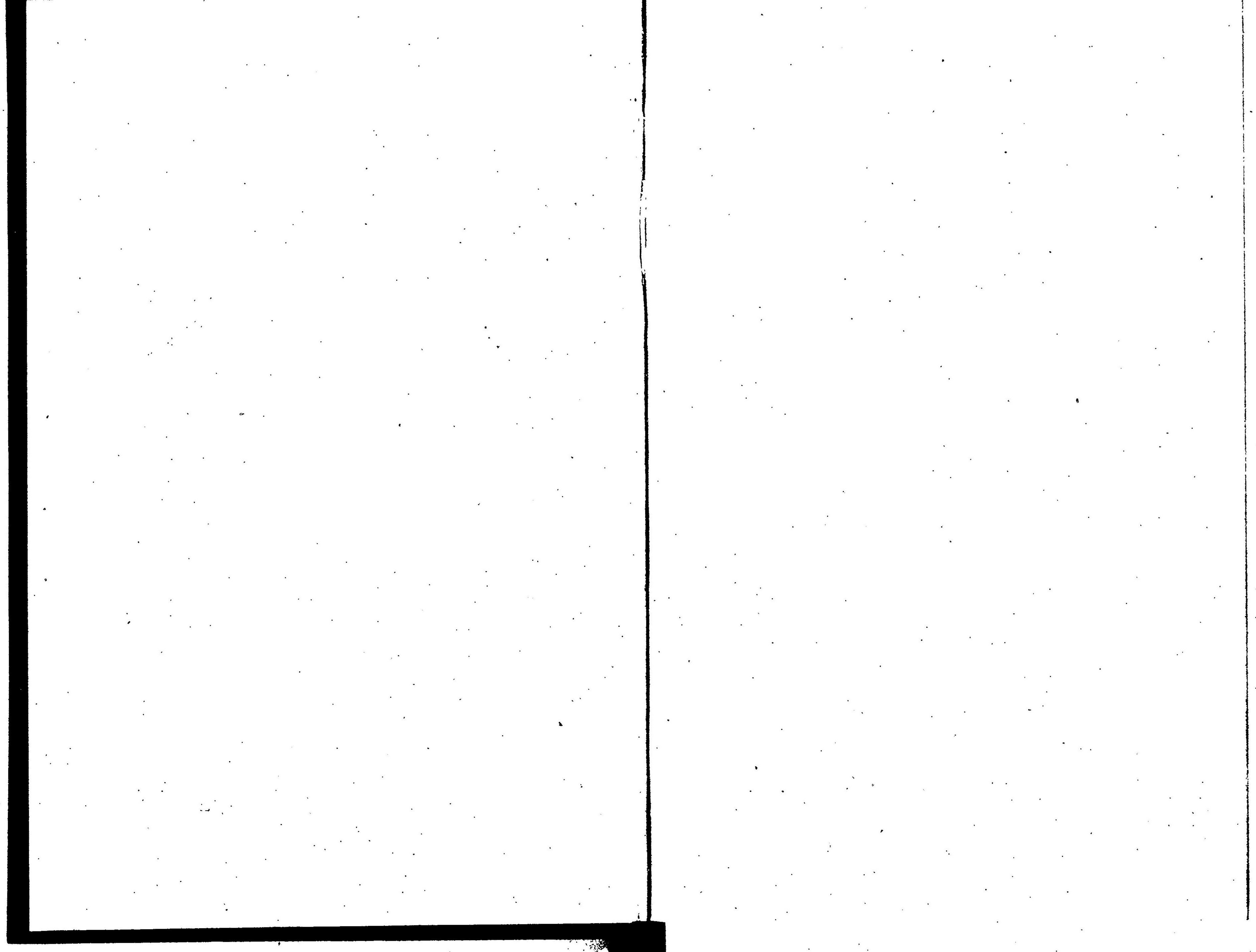
發行所  
發賣所

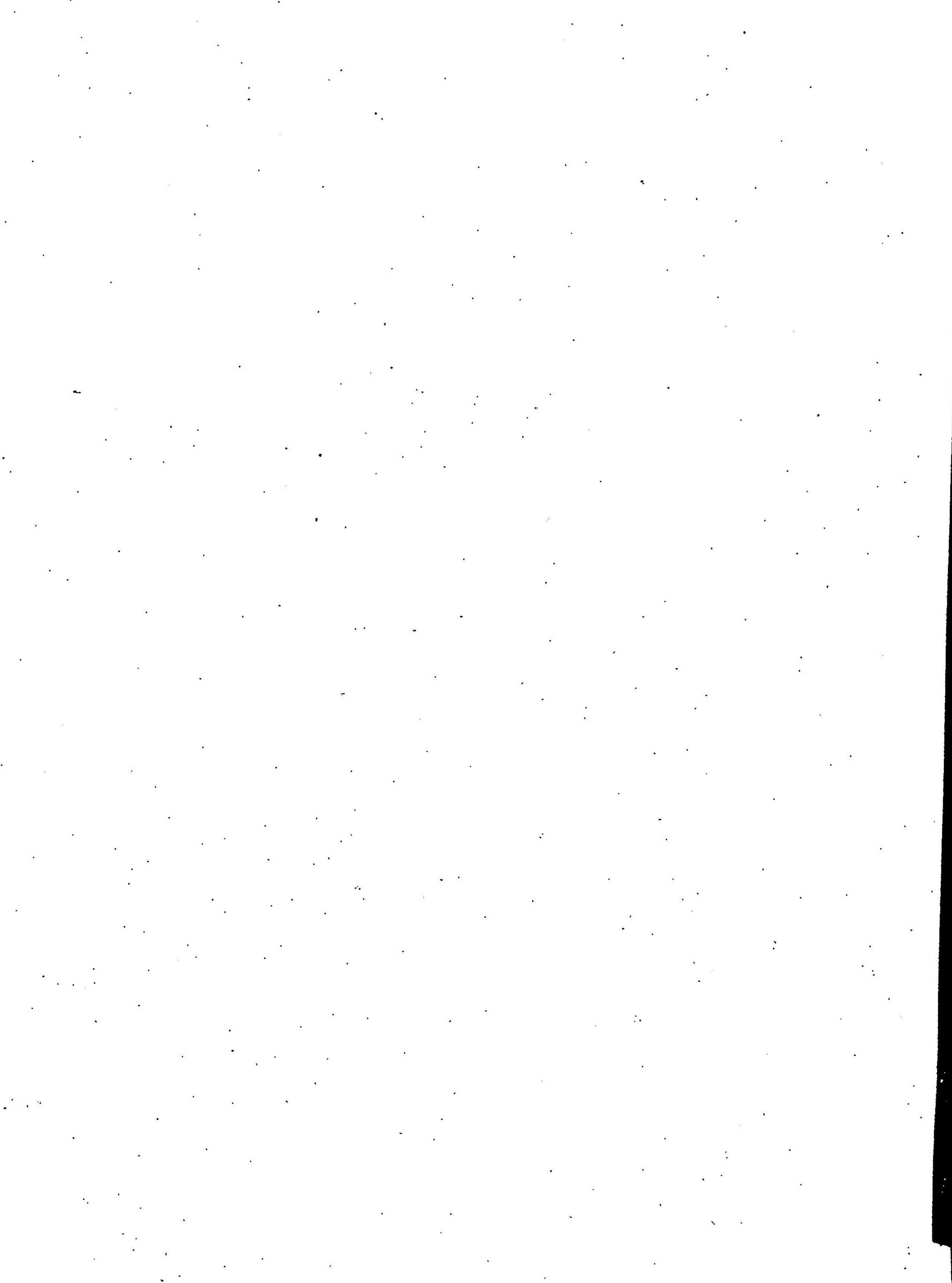
(電話本局三三三三番)

發賣所

2024

87 X 28







44  
3634

(M)

040093-000-4

44-363

经济学原論 上卷

河上 肇/著

M40.4

BDD-0075



